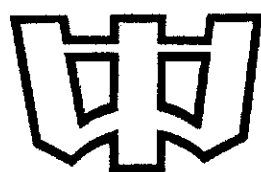


令和5年度
川口市教育委員会学校訪問
(A訪問)

指導案綴り



令和5年10月16日(月)
川口市立青木中学校

目次

- 1 令和5年度川口市教育委員会学校訪問計画書 P1-P4
- 2 学力向上プラン P5-P14
- 3 指導案

授業	時	学年・組	教科	授業者	授業会場	ページ番号
公開	第2校時	1年1組	数学	成川 理恵	1年1組	P15-P16
		1年4組	英語	加藤 聡美	1年4組	P17-P20
		2年1・2組	保健体育	白倉 裕三	校庭	P21-P24
		2年1・2組	保健体育	平井 千秋	体育館	P25-P29
		2年5組	国語	小玉 美紗	2年5組	P30-P31
		2年6組	国語	高橋 新平	2年6組	P32-P33
		3年2組	理科	永田 仁	3年2組	P34-P35
		3年4組	社会	岡 直樹	3年4組	P36-P37
公開	第3校時	特別支援学級	作業学習	山際 洋一	E教室	P38-P39
		1年3組	国語	伊藤 健紀	1年3組	P40-P41
		1年6組	社会	安藝 拓人	1年6組	P42-P45
		2年1組	英語	小森 樹	2年1組	P46-P47
		2年2組	数学	松井 悠貴	2年2組	P48-P49
		2年3組	英語	永井 清一	2年3組	P50-P51
		2年4組	数学	和田 正明	2年4組	P52-P53
		3年3・4組	保健体育	大嶋 澄子	校庭	P54-P57
公開	第4校時	3年5組	理科	白石 英之	3年5組	P58-P59
		特別支援学級	自立活動	大山 孝一	B教室	P60-P61
		1年2組	社会	佐々木 亜貴子	1年2組	P62-P63
		1年5組	国語	犬竹 崇文	1年5組	P64-P65
		1年7組	理科	伊奈 直人	第2理科室	P66-P67
		2年6組	技術	川下 泰信	2年6組	P68-P69
		3年1・2組	保健体育	両谷 隆宏	校庭	P70-P73
		3年4組	数学	関 隆俊	3年4組	P74-P75
研究	第5校時	3年7組	英語	阿部 順子	3年7組	P76-P77
		特別支援学級	職業	影山 純子	D教室	P78-P79
		1年1・2組	保健体育	得能 宏樹	校庭	P80-P83
		1年3組	美術	岡田 行生	絵画室	P84-P85
		1年6組	数学	阿部 佳恵	1年6組	P86-P89
		2年2組	社会	湯田 拓人	2年2組	P90-P95
		2年3組	理科	加藤 琉唯	第1理科室	P96-P100
		3年3組	国語	曾田 望	3年3組	P101-P106
公開		3年4組	家庭	豊川 夏乃	3年4組	P107-P110
		3年5組	音楽	山田 凌	第1音楽室	P111-P116
		3年6組	英語	芝田 すみれ	3年6組	P117-P122
公開		特別支援学級	自立活動	小野口 大輔	C教室	P123-P129
		日本語指導	日本語指導	古山 三保	日本語指導教室	P130-P131

- 4 教室配置図 P132

A隊（熊田指導主事 中村副所長）

第2校時	9:40~10:30	
ご案内	校長 岸田 健吾	
教科	場所	担当者
① 作業学習	8組E教室	山際
② 国語	2年5組	小玉
③ 国語	2年6組	高橋
④ 数学	1年1組	成川
⑤ 英語	1年4組	加藤（聡）
第3校時	10:40~11:30	
① 英語	2年3組	永井
② 数学	2年2組	松井
③ 英語	2年1組	小森
④ 保健体育	校庭（3年3・4組）	大嶋
第4校時	11:40~12:30	
① 職業	8組D教室	影山
② 技術	2年6組	川下
③ 社会	1年2組	佐々木
④ 国語	1年5組	犬竹

B隊（竹原指導主事）

第2校時	9:40~10:30	
ご案内	教頭 平澤 佳都子	
教科	場所	担当者
① 社会	3年4組	岡
② 理科	3年2組	永田
③ 保健体育	体育館（2年1・2組）	平井
④ 保健体育	校庭（2年1・2組）	白倉
第3校時	10:40~11:30	
① 自立活動	8組B教室	大山
② 理科	3年5組	白石
③ 社会	1年6組	安藝
④ 数学	2年4組	和田
⑤ 国語	1年3組	伊藤
第4校時	11:40~12:30	
① 理科	第2理科室（1年7組）	伊奈
② 数学	3年4組	関
③ 英語	3年7組	阿部（順）（初任者）
④ 保健体育	校庭（3年1・2組）	両谷

第5校時 13:25~14:15		
ご案内	校長 岸田 健吾	
教科	場所	担当者
① 美術	絵画室（1年3組）	岡田
② 英語	3年6組	芝田
③ 国語	3年3組	曾田
④ 日本語指導	日本語指導教室	古山
⑤ 家庭	3年4組	豊川
⑥ 社会	2年2組	湯田
⑦ 数学	1年6組	阿部（佳）
⑧ 自立活動	8組C教室	小野口
⑨ 保健体育	校庭（1年1・2組）	得能
⑩ 理科	第1理科室（2年3組）	加藤（琉）（初任者）
⑪ 音楽	第1音楽室（3年5組）	山田
全体会（オンライン・被服室） 14:45~15:10		
分科会 15:10~16:10		
教科	場所	担当者
① 国語	3年3組	伊藤 犬竹 小玉 高橋 曾田
② 社会	2年2組	佐々木 安藝 湯田 岡
③ 数学	1年6組	成川 阿部（佳） 和田 松井 関
④ 理科	第2理科室	伊奈 加藤（琉） 白石 永田
⑤ 英語	3年6組	加藤（聡） 永井 阿部（順） 芝田 小森
⑥ 音楽	第1音楽室	山田
⑦ 美術	絵画室	岡田
⑧ 保健体育	3年1組	得能 白倉 平井 大嶋 両谷
⑨ 技術・家庭	3年4組	川下 豊川
⑩ 日本語指導	日本語指導教室	古山

令和5年度川口市教育委員会学校訪問計画書

1 学校名・形態	学校名	川口市立青木中学校	訪問形態	中学校 A 訪問
2 訪 問 日	令和5年10月16日(月)			
3 校長名・教頭名	校長名	岸田 健吾	教頭名	平澤 佳都子
4 学校の概要	生徒数 759名 学級数 23 教職員数 54名			
(1)学校の特色	(1)本校は川口市中心部の市街地に位置する開校77年の伝統校である。明るくあいさつ、思いやりの心、規律ある態度の徹底を目指す「ハートフル青中」の取組みを推進している。規律ある態度づくりに力を入れており、生徒は落ち着いた学校生活を送っている。授業では青中スタンダードを基に「生徒自らが考え・理解する授業」「見通しと振り返りのある授業」「道徳の時間を中心とした徳力向上の推進」に取り組んでいる。			
(2)学校課題研究の概要	(2)本校は長年、道徳教育の研究に取り組んできた。「青中スタイル」として本校独自の道徳の授業を確立し、「学び合い、考え、議論する授業の展開」など指導法の工夫に取り組んできた。心の教育を基盤とした文武両道の実践と知徳体のバランスのとれた生徒の育成を目指す。			
(3)前回の学校訪問で明らかになった課題とその後の取組内容	(3)学び合い活動を一層重視し、授業への意欲関心をより高め、生徒が自ら考え・理解する主体性を一層引き出す授業の展開に取り組んでいる。見通しと振り返りのある授業プロセスをすべての教員が行い、教え込むのではなく生徒が集団で学ぶ利点を生かして、学び合い、考え、議論する授業の展開し、主体的に学ぶ生徒を育成し、学力の向上を図る。			
(4)通常学級における特別な支援を必要とする児童生徒の状況(該当がいる場合)	(4)通級指導で学んでいる生徒が、1年生に1名在籍している。通常は、自分の在籍クラスにおいて、授業や生活を送っている。週に1日、仲町中学校の特別支援学級に通学し、支援を受けながら学んでいる。日本語指導を受けている生徒は、1年生3名、2年生7名、3年生4名おり、週2時間日本語指導教室を活用して、基本的な日本語指導を受けている。			
(5)加配の活用状況について	(5)T.T.授業を実施することで、効果的な教材研究、授業展開等を実施することができている。支援の必要な生徒に対し、丁寧な指導を行うことで、生徒の学習に対する興味・関心を高めることができた。今後も継続して、個々の生徒への効果的な指導を行うための工夫を図る。			

5 当日の日程

- (1) 学校概要の説明 9:10～ 9:30
- (2) 公開授業 (第2校時) 9:40～10:30
- 〃 (第3校時) 10:40～11:30
- 〃 (第4校時) 11:40～12:30
- (3) 研究授業 (第5校時) 13:25～14:15
- (4) 全体会 14:45～15:10
- (5) 分科会 15:10～16:10
- (6) まとめの会 16:15～

- 6 全体会 (会場：オンラインにて実施) (司会) 教頭 平澤 佳都子 (敬称略)
- (1) 校長挨拶 (指導者紹介を含む) 川口市立青木中学校長 岸田 健吾
 - (2) 指導助言 川口市教育局学校教育部指導課主幹兼教育研究所副所長 中村 義郎
 - 南部教育事務所教育支援担当指導主事 熊田 大樹
 - 南部教育事務所学力向上推進担当指導主事 竹原 英里

7 分科会

- (1) 分科会名 国語 (会場：3年3組)
- 指導者 川口市教育局学校教育部指導課指導主事 大野 寛人
- 研究授業 5校時 曾田 望 (3-3)「和歌の世界、古今和歌集、君待つと一万葉、古今、新古今」
- 公開授業 2校時 高橋 新平 (2-6)「モアイは語るー地球の未来」
- 公開授業 2校時 小玉 美紗 (2-5)「モアイは語るー地球の未来」
- 公開授業 3校時 伊藤 健紀 (1-3)「いろは歌」
- 公開授業 4校時 犬竹 崇文 (1-5)「いろは歌」
- (2) 分科会名 社会 (会場：2年2組)
- 指導者 川口市教育局学校教育部指導課指導主事 天野 亮
- 研究授業 5校時 湯田 拓人 (2-2)「日本の諸地域」
- 公開授業 2校時 岡 直樹 (3-4)「現代の民主政治と社会」
- 公開授業 3校時 安藝 拓人 (1-6)「世界の諸地域」
- 公開授業 4校時 佐々木 亜貴子 (1-2)「世界の諸地域」
- (3) 分科会名 数学 (会場：1年6組)
- 指導者 川口市教育局学校教育部指導課指導主事 奥ノ木 隆之
- 研究授業 5校時 阿部 佳恵 (1-6)「変化と対応」
- 公開授業 2校時 成川 理恵 (1-1)「変化と対応」
- 公開授業 3校時 和田 正明 (2-4)「図形の調べ方」
- 公開授業 3校時 松井 悠貴 (2-2)「図形の調べ方」
- 公開授業 4校時 関 隆敏 (3-4)「関数 $y=ax^2$ 利用」
- (4) 分科会名 理科 (会場：第2理科室)
- 指導者 川口市教育局学校教育部指導課指導主事 佐々木 淳一
- 研究授業 5校時 加藤 琉唯 (2-3)「電流と磁界」
- 公開授業 2校時 永田 仁 (3-2)「化学変化とイオン」(GIGA 端末使用)
- 公開授業 3校時 白石 英之 (3-5)「化学変化とイオン」
- 公開授業 4校時 伊奈 直人 (1-7)「身近な物理現象」

- (5) 分科会名 音楽 (会場: 第1音楽室)
 指導者 川口市教育局学校教育部指導課指導主事 富澤 雅敏
 研究授業 5校時 山田 凌 (3-5)「楽曲からのメッセージを受けとり表現してみよう」
- (6) 分科会名 美術 (会場: 絵画室)
 指導者 川口市教育局学校教育部指導課指導主事 笠原 たまき
 研究授業 5校時 岡田 行生 (1-3)「タンブラー制作」
- (7) 分科会名 保健体育 (会場: 3年1組)
 指導者 川口市教育局学校教育部指導課指導主事 佐野 秀行
 研究授業 5校時 得能 宏樹 (1-1,2)「長距離走」 ※雨天時: 清風館
 公開授業 2校時 白倉 裕三 (2-1,2)「ソフトボール」 ※雨天時: 清風館
 公開授業 2校時 平井 千秋 (2-1,2)「バレーボール」
 公開授業 3校時 大嶋 澄子 (3-3,4)「長距離走」 ※雨天時: 体育館
 公開授業 4校時 両谷 隆宏 (3-1,2)「長距離走」 ※雨天時: 体育館
- (8) 分科会名 技術家庭 (会場: 3年4組)
 指導者 川口市教育局学校教育部指導課指導主事 村越 崇
 川口市教育局学校教育部指導課指導主事 伊東 よお子
 研究授業 5校時 豊川 夏乃 (3-4)「幼児の1日の生活と親の役割を知る」
 (GIGA 端末使用)
 公開授業 4校時 川下 泰信 (2-6)「エネルギー変換の技術の工夫」
- (9) 分科会名 英語 (会場: 3年6組)
 指導者 川口市教育局学校教育部指導課指導主事 千葉 悠
 研究授業 5校時 芝田 すみれ (3-6)「Unit 6 The Chorus Contest」
 公開授業 2校時 加藤 聡美 (1-4)「Daily Life Scene 3 カフェ」
 公開授業 3校時 永井 清一 (2-3)「Unit 4 Tour in New York」
 公開授業 3校時 小森 樹 (2-1)「Unit 4 Tour in New York」
 公開授業 4校時 阿部 順子 (3-7)「You can do it! 学校に必要なものを考えて意見を伝えよう」
- (10) 分科会名 特別支援学級 (会場: A 教室)
 指導者 川口市教育局学校教育部指導課指導主事 平田 真澄
 研究授業 5校時 小野口 大輔 (C 教室)「自立活動」
 公開授業 2校時 山際 洋一 (E 教室)「作業学習」
 公開授業 3校時 大山 孝一 (B 教室)「自立活動」
 公開授業 4校時 影山 純子 (D 教室)「職業・家庭科」

※その他公開授業

- ① 教科名 日本語指導
 指導者 川口市教育局学校教育部指導課指導主事 佐藤 彰典
 公開授業 5校時 古山 三保 (1年生対象者・日本語指導教室)「まるごと5課」

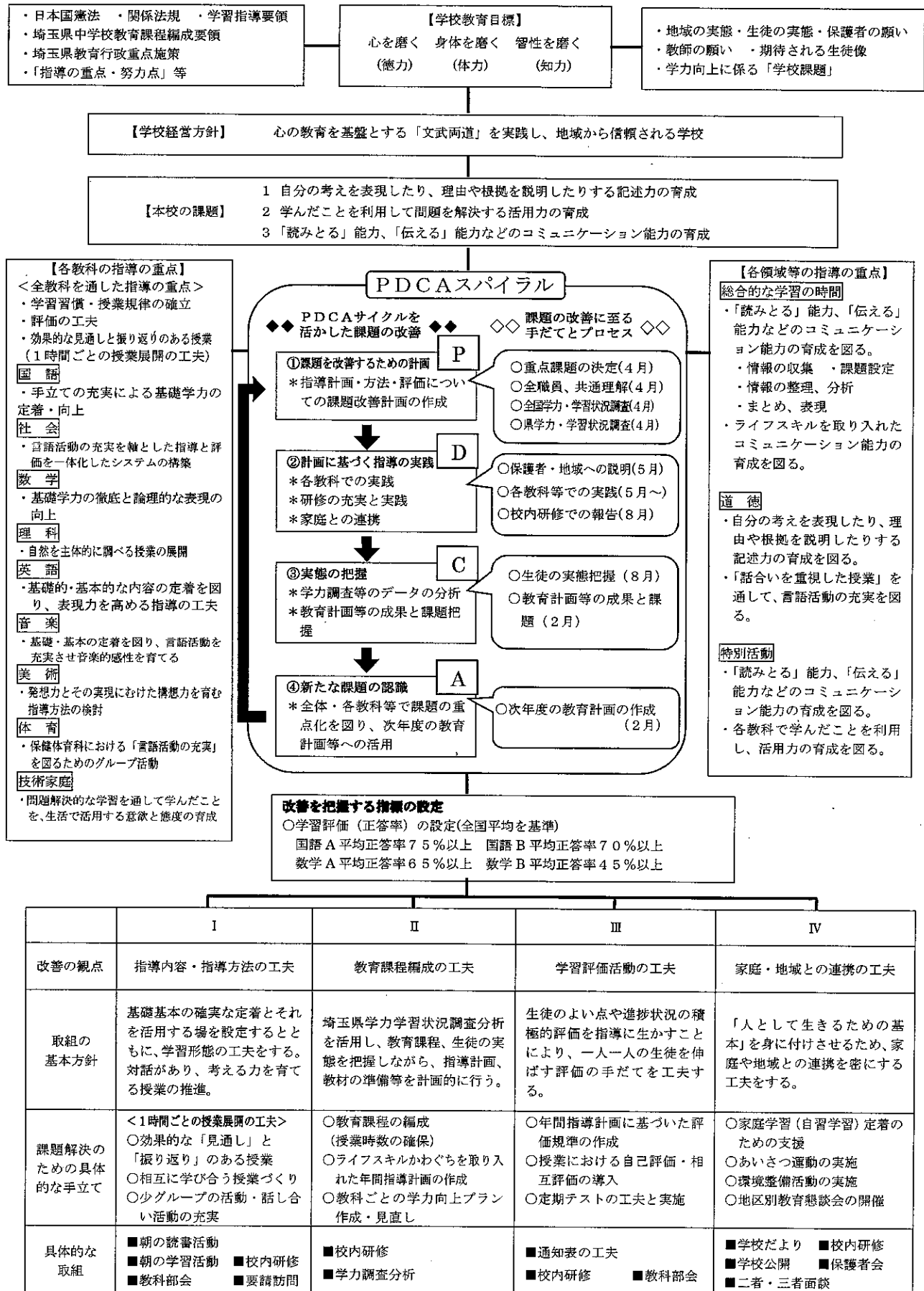
8 公開授業・研究授業一覧 (別添)

8 公開授業・研究授業一覧

学校訪問日 令和5年10月16日(月)

学 校 名 川口市立青木中学校

授業	校 時	学年・組	教科等	授 業 者	授業会場
公開	第2校時	1年1組 1年4組 2年1・2組 2年1・2組 2年5組 2年6組 3年2組 3年4組 特別支援学級	数学 英語 保健体育 保健体育 国語 国語 理科 社会 作業学習	成川 理恵 加藤 聡美 白倉 裕三 平井 千秋 小玉 美紗 高橋 新平 永田 仁 岡 直樹 山際 洋一	1年1組 1年4組 校庭 体育館 2年5組 2年6組 3年2組 3年4組 E教室
公開	第3校時	1年3組 1年6組 2年1組 2年2組 2年3組 2年4組 3年3・4組 3年5組 特別支援学級	国語 社会 英語 数学 英語 数学 保健体育 理科 自立活動	伊東 健紀 安藝 拓人 小森 樹 松井 悠貴 永井 清一 和田 正明 大嶋 澄子 白石 英之 大山 孝一	1年3組 1年6組 2年1組 2年2組 2年3組 2年4組 校庭 3年5組 B教室
公開	第4校時	1年2組 1年5組 1年7組 2年6組 3年1・2組 3年4組 3年7組 特別支援学級	社会 国語 理科 技術 保健体育 数学 英語 職業	佐々木 亜貴子 犬竹 崇文 伊奈 直人 川下 泰信 両谷 隆宏 関 隆俊 阿部 順子 影山 純子	1年2組 1年5組 第2理科室 2年6組 校庭 3年4組 3年7組 D教室
研究 公開	第5校時 第5校時	1年1・2組 1年3組 1年6組 2年2組 2年3組 3年3組 3年4組 3年5組 3年6組 特別支援学級 日本語指導	保健体育 美術 数学 社会 理科 国語 家庭 音楽 英語 自立活動 日本語指導	得能 宏樹 岡田 行生 阿部 佳恵 湯田 拓人 加藤 琉唯 曾田 望 豊川 夏乃 山田 凌 芝田 すみれ 小野口 大輔 古山 三保	校庭 絵画室 1年6組 2年2組 2年3組 3年組 3年4組 第1音楽室 3年6組 C教室 日本語指導教室



教科（国語）

研究主題 「諸問題を自力解決できる生徒の育成」 教科研究主題 「手立ての充実による基礎学力の定着・向上」

状況の分析

学習状況調査による分析

- 「書くこと」「読むこと」「言語についての知識・理解・技能」の活用などを中心に、全般的に県の平均を上回っている
- 「言語についての知識・理解・技能」の漢字の書きや、「話すこと・聞くこと」の目的に応じて資料を効果的に活用して話す部分などを、さらに伸ばしていきたい。

課題

- 漢字小テストの取組みを継続し、評価を工夫すること、漢字を書く能力の定着を図る。
- 様々な場面で、資料を効果的に活用して発表する力をつけるために、基本的な発表の形式や方法を身につけさせる。
- 普段から「書く」ことに慣れさせる。

目標の設定

- 漢字小テスト（書き）の正答率80%以上
- 日常生活で頻繁に用いられる同音異義語や同訓異字を使い分けて書くことができる。
- 小グループの話し合い活動で、根拠を明確にして、自分の意見を発表することができる。
- 全体の前で資料を活用して発表することができる。

授業規律における手立て

- チャイム授業や発言の仕方などの授業規律、提出物の期限を守ることなどを徹底させる。
- 挨拶や返事をきちんとさせ、言語環境を整えて集中した雰囲気を作る。
- 板書をノートにきちんと丁寧に書く力が身に付くよう、毎時間指導する。

教科に対する興味関心を高める手立て

- 生徒の興味を喚起させる課題の設定
- 生徒の実態に合わせた教材の作成、工夫
- 学習の到達度を明確にした評価
- ねらいを提示した分かりやすい授業の実施
- 新聞作り、作品発表等の掲示
- 図書室を授業で利用
- タブレットを効果的に使った授業展開

基礎基本を身につけさせるための手立て

- 帯単元で行う漢字の小テスト
- 帯単元で行う有名古典作品の暗唱テスト（古典の単元のみ）
- 帯単元で行う文法事項の小テスト（文法単元のみ）
- 毎時間のねらいの提示
- 毎時間学習の振り返りの時間の確保
- 定期テスト前の補習実施

言語活動を充実させるための手立て

- 話し合い活動の役割や方法などの「型」の指導
- 小グループによる教え合い、話し合いの時間の確保
- ペアによる教え合い、話し合い、確認の時間の確保
- 全員が、全体の前で発表する時間の確保

教科と道徳との関連を図るための手立て

- 家族の絆、戦争、他の人との関わりについて扱った教材の主題を考えさせることで、道徳的な価値観を育成する。
- 話し合いや教え合いの時間を通して、他者を理解する心を育てる。
- 互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高める。

振り返り

教科（社会）

研究主題

「諸問題を自力解決できる生徒の育成」

教科研究主題

教科研究主題

言語活動の充実を軸とした指導と評価を一体化したシステムの構築

状況の分析

- 学習アンケートによる分析
 - ・社会科に関して関心を持つ生徒は、全体の約50%
 - ・苦手意識を持つ生徒は35%に及ぶ。

課題

- 学習に楽しみが見いだせない。
- 暗記科目として捉えているため、必然的に意欲がわきにくい。
- 評価がテストのみと思われている。授業内評価は行っているのだが、分りにくく感じている。

目標の設定

- 地理・歴史・公民において、思考、判断、表現を育成する授業の充実を図る
- 資料を活用した授業を、より一層推進し、社会的技能の習得を図る
- 評価の場面を設定し、毎時間の振り返りを行う

授業規律における手立て

- チャイム着席や授業準備に対する指導の徹底
- 挨拶や返事などの言語環境の整備
- 授業内の発表機会の充実
- 課題の作成方法のルールの徹底

教科に対する興味関心を高める手立て

- 授業内の資料提示と発問の工夫
- 視覚教材の活用を軸とした興味を引き出す授業展開の工夫
- 毎時間のねらいの明示化
- 終末の自己評価と振り返りの工夫
- 生徒の発表方法とその評価
- 授業内評価の手立ての工夫

基礎基本を身につけさせるための手立て

- 導入時の前時の振り返り
- スモールステップ課題や補助発問の充実を軸とした授業展開の組み立て
- 終末の評価の明示化と自分で確認できる進度の提示方法の工夫
- テストの採点後の見直しの時間の設定

言語活動を充実させるための手立て

- 発表を充実した授業展開
- 話し合い活動による発言機会の充実と社会的表現の育成
- 発言ルールの徹底と聞く姿勢の徹底
- 自身の発言を振り返る場面の設定

教科と道徳との関連を図るための手立て

○授業内において、以下の道徳における内容項目を軸にした授業を単元に応じておこない、自身の道徳的価値を高める機会とする。

- ・生命の尊重 (3- (1))
- ・自然の愛護、豊かな心、畏敬の念 (3- (2))
- ・道法、権利義務、社会の秩序と規律 (4- (1))
- ・公徳心、社会連帯の自覚 (4- (2))
- ・正義、公正公平、差別・偏見の克服 (4- (3))
- ・郷土愛、先人への畏敬と感謝 (4- (8))
- ・愛国心、伝統の継承と文化の創造 (4- (9))
- ・国際理解と平和、人類愛 (4- (10))

振り返り

教科（数学）

研究主題 「諸問題を自力解決できる生徒の育成」

教科研究主題 基礎学力の定着と論理的な表現の向上

状況の分析

○基礎が身につけているものは集団の8割程度。授業規律は一定のレベルを維持しグループ学習が成立する。発言は学年が進むにつれて消極的になる。論理的な表現は不十分。数学が得意な生徒の質（レベル）と量（人数）に物足りなさを感じる

課題

○基礎・基本習得者の拡大
○数学の学習がきびしい生徒に対する指導
○数学の学習に能力を発揮する生徒に対する指導
○発言に対する意欲
○主体的な学び合いの授業の構成

目標の設定

○基礎・基本習得率を集団の9割以上へ
○低学力生徒の支援を考え向上させる
○得意な生徒を増やし理数分野に進む生徒を育成する
○数学的表現力を養う
○話し合いやグループ学習など学びに主体性を持たせる

授業規律における手立て

- ☐ チャイム授業・号令・あいさつを指導し、良いスタートを切らせるために、教師はチャイム前に教卓の前に立つ。あいさつはやり直し指導を入れる。
- ☐ 話し合いの場面と静かに集中する場面のけじめを重点とし継続的に指導する。
- ☐ 発言のルール・返事・声の大きさを指導する。
- ☐ 忘れ物に対する指導をする。
- ☐ 家庭学習やレポート、テスト前の課題を期日に提出できるように指導し、期日に間に合わない場合は、最後まで見届け、やり遂げさせる。

教科に対する興味関心を高める手立て

- ☐ 導入や課題を工夫する。
- ☐ 解答分析や多様な解法の比較などを通して、教えるよりも気づかせ学習指導をする。
- ☐ 問題解決型の授業を増やし活用力を伸ばす
- ☐ 活動を評価し活動の意欲につなげる。
- ☐ チャレンジ問題に進んでいる生徒に対してより、高度な問題に挑戦させ探究心を持たせる。
- ☐ ICTを活用し、課題を視覚的に捉え、生徒の理解を促し、意欲的に取り組めるようにする。

基礎基本を身につけさせるための手立て

- ☐ 単元ごとに、評価テストを実施し、生徒自身に自身の学習の定着度を気づかせる。
- ☐ 振り返りシート(学びの足跡)や評価テストを集約し、学習がなかなか身につかない生徒を把握し、その生徒にあった課題を取り組ませるなど個に応じた指導を計画する。
- ☐ 早く問題を解決した生徒をアドバイザーにして、生徒同士が教え合う活動を行わせる。

言語活動を充実させるための手立て

- ☐ 質問を工夫し生徒の発言をもとに授業が進むような授業構成をする。
- ☐ 挙手回数を自身に記録させ、自発的な発表を促すとともに、意図的な指名、無作為による指名を組み合わせて、多くの生徒に発言の機会を与える。
- ☐ グループ学習を取り入れ生徒相互のコミュニケーションを土台とした学び合いをさせる。
- ☐ 答えを言わせるだけでなく、根拠を含めて説明させることで、論理的な言語表現を伸ばす。
- ☐ 振り返りシート(学びの足跡)やレポートなど記述表現の課題を与える。

教科と道徳との関連を図るための手立て

○道徳における心のあり方を他者に伝えるには、自分の考えを他者にわかりやすく、納得させる説明をしなければならない。それが数学でいう論理的な表現力である。その表現力を鍛えることによって道徳の時間における資質を養う

○数学は学力差が激しい教科である。生徒相互の学び合いを通して、助け合い、思いやり、向上心など道徳的実践力を発揮させる。

振り返り

教科（英語）

令和5年度 川口市立青木中学校 学力向上プラン

研究主題 諸問題を自力解決できる生徒の育成

教科研究主題 基礎的・基本的な内容の定着を図り、表現力を高める指導の工夫

状況の分析

- 「聞く」「話す」「読む」「書く」ことには意欲的に取り組むが、「書く」ことに苦手意識を持つ生徒が多い。
- 意欲的に「話す」活動に取り組んでいるが、正確さには課題がある。

課題

- 平日頃の取り組みで、定着に重点を置いた授業が必要不可欠である。
- 「話す」活動だけでなく、「書いて表現する」活動を取り入れる必要がある。

目標の設定

- 英問英答では、単語では無く文で答えられるようにする。
- テーマに沿って即興で応答できるようにする。
- 会話の内容を rewrite できるようにする。

<授業規律における手立て>

- チャイム着席、忘れ物などの授業規律の徹底を図る。
- プリント類をきちんと整理整頓する力を身に付ける。
- クラスメイトの発言を互いに認め合うクラスの雰囲気醸成する。

<教科に対する興味関心を高める手立て>

- 生徒の実態に応じた教具の作成・工夫
- わかりやすいハンドアウトの作成
- 基礎英語などのラジオ・テレビ番組の紹介
- 小テストでの評価基準を明確化した上での実施

<基礎基本を身につけさせるための手立て>

- 繰り返し、スパイラルに帯時間を活用した授業展開の工夫（新出文型を活用したモジュールワーク、小テスト等）
- 家庭学習に取り組ませるための工夫

<言語活動を充実させるための手立て>

- 帯活動でペアワークとしてスモークトークを行い、英問英答に慣れる。
- 日常生活に近い形での言語活動の取組を行う。
- 授業を英語でできるだけ行う。

<教科と道徳との関連を図るための手立て>

- ・単元の内容理解による取り組み Ex 1年：Unit7 “New Year Holidays in Japan”（愛国心）
2年：Unit6 “Work Experience”（勤労）
3年：Unit1 “School Life Around the World”（国際理解）Unit 3 “Lessons From Hiroshima”（命の尊さ）
- ・会話活動を通して、よりよい人間関係を育成する。（友情）

教科（理 科）

研究主題 「諸問題を自力解決できる生徒の育成」

教科研究主題 自然を主体的に調べる授業の展開

状況の分析

・観察、実験に関心を持ち、意欲的に取り組み。7割～8割の生徒が、授業中静かに聞くなど、基本的な学習規律ができている。しかし、学習内容が身につかない、または理解できない生徒がいる。

課題

・課題を意識せずに、ただ観察、実験に取り組む生徒がいる。また、授業規律が守れない生徒が数名いる。
・観察、実験結果から考察できず、理論的に文章を組み立て、表現できる生徒が少ない。

目標の設定

・課題解決を考えた観察、実験を意識させ、目的意識を持って観察、実験に取り組ませる。
・授業規律を守らせ安全な実験を心がけさせる。
・レポートや文章を書く機会を多く持ち表現力の育成を図る。

授業規律における手立て

- ☐ チャイム着席ができるよう教員が時間に授業を始めるとともに、生徒の自主的な活動を促す。
- ☐ 係の活動を活性化し、忘れ物や提出物を出さないようにする。
- ☐ 観察、実験では、器具の使い方を身につけ、安全に配慮した行動をとらせる。
- ☐ 授業終了時に自己評価の実施。

教科に対する興味関心を高める手立て

- ☐ 少人数での観察、実験の実施。
- ☐ 視聴覚資料を活用した授業の展開。
- ☐ 授業のはじめに課題を明示したわかりやすい授業の展開。
- ☐ 掲示物や器具の配置を工夫した理科教室の整備。

基礎基本を身につけさせるための手立て

- ☐ 単元末など小テストの実施。
- ☐ 結果、考察を記入した観察、実験レポートの提出。
- ☐ 授業のはじめに課題を明示するわかりやすい授業の展開。
- ☐ 生徒相互が学び合う学習時間の確保。
- ☐ 授業終了時に自己評価の実施。

言語活動を充実させるための手立て

- ☐ 話し合いや発表する時間を多く取り入れた授業の展開。
- ☐ 観察・実験レポートにおける適切な方法による結果、考察の記入。
- ☐ 授業終了時の自己評価の記入。

教科と道徳との関連を図るための手立て

- ・特に生物分野の学習において、生物相互の関係や自然界のつり合いについて考えさせ、自然と人間との関わりを意識して認識させる。
- ・自然を主体的に調べる授業の展開をすることにより、目的意識を持って観察、実験を行うことや、科学的に探求する能力を育て、科学的な見方や考え方を養う。

振り返り

- ・自己の学びを振り返り、学習の達成状況の確認、学習意欲の向上を図る。

教科（音 楽）

研究主題 諸問題を自力解決できる生徒の育成

教科研究主題

基礎・基本の定着を図り、言語活動を充実させ音楽的感性を育てる

状況の分析

- 発声が弱い。
- 表現活動に対して消極的な生徒が多い。

課題

- 基礎・基本の定着
- 知覚・感受、思考・判断力し、表現力の向上
- 自分の思いや願いを言葉で表現し、他者の考えを取り入れる。

目標の設定

- 基礎・基本の定着を図り表現能力の向上
- 気づき、発見、学び合いができる授業の工夫
- 思いや願いが聴き手に伝わるような表現活動の工夫

授業規律における手立て

- チャイム着席や忘れ物など授業規律の徹底を図る
- 活動のルールを徹底させる

教科に対する興味関心を高める手立て

- 授業内容を明確にし、導入や課題を工夫する
- 満足感や達成感を味わわせるような授業展開をする
- 学んだことが生かせるような小テスト、技能テストの実施をする

基礎基本を身につけさせるための手立て

- 正しい姿勢、発声、記号を身につけ豊かな音楽表現を身につけさせる
- 個別指導の時間を確保する
- 振り返りの時間の確保をする

言語活動を充実させるための手立て

- 発問の工夫をする
- 知覚・感受、思考・判断したことが根拠をもって発表できる活動を多く取り入れられる
- 気付き、共に学び合い、教え合う活動を通して、表現活動の充実を図る。

教科と道徳との関連を図るための手立て

- 気づき、学び合い、教え合いの時間を通して、他者を理解する心を育てる
- 音楽に対する美しさや感性は、美しいものや崇高なものを尊重していく心情を育てる

教科（美術）

研究主題 諸問題を自力解決できる生徒の育成

教科研究主題「発想力とその実現にむけた構想力を育む指導方法の検討」

状況の分析

○自己表現が苦手で、周囲の様子を観察して活動する生徒が多い。集団的活動はこなせるが、個性豊かな表現や自由な発想が苦手。周囲と横並びの創造活動や言語活動が多く見られ、やや独創性に欠けている。

課題

○自分自身を知り、何をどう表現したいのかを明確にする。
○発想の実現に向けて自分なりの工夫をして構想を練る。

目標の設定

○言語や視覚による情報や条件を題材に応じて効果的に使い発想を促す工夫を行う。
○構想の手立てを発見する意見交換や試行場面と、技能の提示やアイデアスケッチの工夫による試行整理場面の設定をし、構想力を育む工夫を行う。

授業規律における手立て

- チャイム前着席や5分前呼名の実施など授業規律の徹底を図る。
- 準備と片付けを徹底し、道具類の整理整頓と美術室や制作した作品を大切に扱う心を育てる。
- 用具の正しい使い方を身につけると共に安全面に気を付けさせる。

教科に対する興味関心を高める手立て

- より深く表現活動出来るように、課題の系統性重視の年間計画を立てる。
- 生徒が進んで学習したいと思う課題の研究を行う。
- 視聴覚機器の活用による「わかる授業」の実施。

発想力を育成する手立て

- 言語…イメージマップ等によって言葉からの連想や他者との意見交換によって主題を引き出す。
- 視覚…試してできたもの・偶然の色彩や、参考作品・教員に実演からきっかけを作る。
- 条件…「いつ・誰が・どこで・どのように」など指定された条件をもとに主題を考える。

構想力を育成する手立て

- 試行…表現方法を試し、他のアイデアも吸収しながらイメージを膨らませる。グループ活動や意見交換の場の設定をする。
- 思考整理…生徒の思考に沿って、構想のヒントとなるポイントを提示していく。
- ワークシートを使ってアイデアアスケッチを行い、文章や絵で自分の考えを整理する

教科と道徳との関連を図るための手立て

制作途中や制作の準備段階で他の生徒との話し合いの場をつくることで発想や構想の力を高め、作品完成後の振り返りと鑑賞を通じて、互いに見て感じたことなど意見を交わし、言語活動を充実させ、お互いを正しく理解していく活動につなげる。また、校内展示を充実させることで廊下でのギャラリーワークを通じて道徳の言語活動との関連を図る。

教科 (保健体育)

研究主題 「諸問題を自力解決できる生徒の育成」

～ 話し合い活動を通じた人間関係づくりの充実 ～

教科研究主題

保健体育科における「言語活動の充実」を図るためのグループ活動

状況の分析

・運動を活発に活動する生徒が多く、個々の課題を見つけ前向きに克服しようとしている。しかし、グループ活動では、自己表現が乏しく、上手く意見を伝えられず練習課題があいまいになりがちである。

課題

・グループでの話し合い活動を設け、自分の意見を他者に伝え、周りの意見を聞き入れる場をつくり、相互の意見をもとめ、課題を見付けさせる。
・グループ練習の内容を明確化するため、視聴覚教材を提示し、選択できるようにする。

目標の設定

・グループでの話し合い活動が円滑にすすめるように学習カードを工夫する。
・グループで練習内容を選択できるように視聴覚教材を作成し、明確化させ、グループ課題を達成させる。

授業規律における手立て

- ☐ 忘れ物やチャイム着席などの授業規律の徹底を図る。
- ☐ 授業始終時のあいさつを全員で揃え、大きな声で行わせる。
- ☐ 準備と片づけを素早く行わせると共に、物を大切に扱う心を育てる。
- ☐ 用具の正しい使い方を身に付けると共に安全面に気を付けさせる。

教科に対する興味関心を高める手立て

- ☐ 単元始めにオリエンテーションを行い、運動の特性や歴史などを知識として取り入れる。(見通しをもたせる)
- ☐ 学習カードに目標や課題解決方法を書く欄を設け、技能の向上を図り、達成感を味わわせる。
- ☐ できる喜び、互いに教え合い、認め合うことでの充実感を味わわせる。

基礎基本を身につけさせるための手立て

- ☐ 全ての単元に「慣れの運動」を取り入れ、毎時間行うことで基礎基本を身につけさせる。
- ☐ 指導を要する生徒への手立てとして、できる生徒をミニコーチとし、助言や補助をさせ基礎基本の定着を図る。

言語活動を充実させるための手立て

- ☐ グループでの話し合い活動の場を設け、他者と相互に意見を出し合い、活動に生かす。
- ☐ 学習カードに毎時間感想や反省を書かせ、話し合いが授業に生かされていたか振り返らせる。

教科と道徳との関連を図るための手立て

- ・運動を通して、ねばり強くやり遂げる、きまを守り、集団に参加し、協力する態度を養う。
- ・言語活動を通して、協力、助け合い、信頼しあい、体力向上を図る。

振り返り

教科 (技術・家庭科)

令和5年度 川口市立青木中学校 学力向上プラン

研究主題 「諸問題を自力解決できる生徒の育成」

教科研究主題 手立ての充実による基礎学力の定着・向上

状況の分析

○実習では、意欲的に作業する生徒が多いが、創意工夫や、生活に結びつけて考えることができていない現状がある。

課題

○基礎的な知識・技能の確実な定着。
○思考・判断・表現力を充実させ、生活のなかで活用する力の育成。

目標の設定

○定着させる知識・技能を明確にし、粘り強く繰り返し指導し、評価との一体化を図る。
○体験活動を充実させ、ワークシートの工夫など、言語活動の充実を図る。

授業規律における手立て

○忘れ物の確認や指導、休み時間内に移動させチャイム着席を徹底させるため、教員も授業をチャイムスタートする。
○作業に必要な道具の整理整頓・管理の徹底を図る。
○安全指導の徹底を図り、事故0を目指す。

教科に対する興味関心を高める手立て

○掲示物を工夫し、生徒が自ら意欲的に作業ができるような環境づくりをする。
○完成する喜びが得られる題材を工夫し、あきらめずに作業に取り組めるよう評価を工夫する。
○学んだことにより、生活が豊かになる成果が見えるよう評価を工夫する。

基礎基本を身につけさせるための手立て

○3年間を見通した全体的な指導計画に基づき、地域や生徒の実態に応じたものにする。
○基礎基本が習得できた喜びや意義を実感できるよう学習活動の充実を図る。

言語活動を充実させるための手立て

○問題解決的な学習活動を多く取り入れワークシートを工夫する。
○発表の方法などを、情報機器を取り入れわかりやすい発表から、情報の共有化を図る。
○自己評価・他己評価を取り入れ、多様な考え方を理解させる。

教科と道徳との関連を図るための手立て

- ・作業など、互いに協力しないとできない場面を意図的につくる。
- ・生活を考える上で、家族の一員としての自覚を持たせる。
- ・班活動から、役割や責任の自覚を促す。

第2校時

授業	学年・組	教科	授業者	授業会場	ページ番号
公開	1年1組	数学	成川 理恵	1年1組	
	1年4組	英語	加藤 聡美	1年4組	
	2年1・2組	保健体育	白倉 裕三	校庭	
	2年1・2組	保健体育	平井 千秋	体育館	
	2年5組	国語	小玉 美紗	2年5組	
	2年6組	国語	高橋 新平	2年6組	
	3年2組	理科	永田 仁	3年2組	
	3年4組	社会	岡 直樹	3年4組	
	特別支援学級	作業学習	山際 洋一	E教室	

第1学年1組 数学科学習指導案

日 時 令和5年10月16日(月) 第2校時
場 所 川口市立青木中学校 1年1組 教室
生徒数 男子23名 女子14名 計37名
授業者 教諭 成川 理恵

1 単元名 変化と対応

2 単元について

(1) 教材観

小学校では、第4学年から第6学年にかけて、数量の関係を□、△や文字 x, y を使って式に表し、それらに数を当てはめて調べたり、変化の様子を折れ線グラフで表して特徴を読み取ったり、比例や反比例の関係を理解し、これらを用いて問題解決する場面が設定されている。中学校においては、第1学年で、具体的な事象の中からともなう変わる2つの数量を取り出して、その変化や対応の仕方に着目し、関数関係の意味を理解できるように教材が設定されている。また、負の数への拡張や関数の概念を基にして、算数で学習した比例・反比例を関数として捉え直す必要がある。中学校における関数についての学習内容を深めていく第一歩として、かつ後の学習の素地となる大切な単元である。

(2) 生徒観

本学級の生徒は学習アンケート(8月実施、生徒数32名回答)によると、数学を学習することに対して、半数近くの生徒が苦手意識を持ち、意欲的に取り組めていない状況であることが分かる。一方で、出来るようになりたい、頑張りたいという気持ちはあり、授業中も真面目に課題に取り組む姿が見られる。しかし、自力で問題解決ができない生徒が多いので、支援が必要である。ここまでの指導で、分からないところは、質問したり、友達と教え合ったりすることが定着しているのので、話し合いの時間を意図的に取りながら指導していく。

(3) 指導観

この単元は、これから先の関数の学習の基礎となる。特に、比例や反比例の関係を表やグラフに表すことを通してその特徴を把握することは、今後の学習でもよく出てくる内容であるので、その手法をきちんと理解させたい。また、表やグラフは、説明の手段としても利用することを理解させ、積極的に利用するように指導する。さらに、式が2つのともなう変わる数量の関係を表したものであることや変数と定数の違いは生徒にとって理解しにくいことであるので丁寧に扱い、きちんと理解できるようにさせたい。

3 本校研究主題との関連について

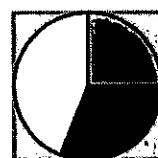
○本校研究主題「諸問題を自力解決できる生徒の育成」

数学科研究主題を「基礎学力の定着と論理的な表現の向上」とし、日々の指導にあたって。毎回、授業の開始時には、本時の授業内容を提示し、生徒一人一人にしっかりと課題意識を持たせるようにするとともに、授業最後には、学習内容や理解したこと、今後の課題などのまとめを生徒自身のことばで書くことにより、何を学んだのか振り返りを行い、授業内容を理解できたかどうか把握し、次の授業へとつながるようにしている。また、基礎・基本の定着が重点努力事項と考え、小単元毎の小テストの実施、学習課題の精選および課題達成状況をプリントに視覚化すること、ペア学習やグループ学習の工夫、優秀レポートの構内掲示などを実践し、生徒一人として、取りこぼすことのないよう指導を行っている。

4 単元目標

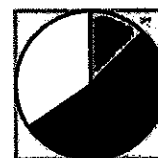
- (1) 関数、比例、反比例について理解することができる。また、座標の意味を理解することができる。比例、反比例の関係を表、式、グラフに表すことができる。【知識及び技能】
- (2) 比例、反比例として捉えられる2つの数量について、表、式、グラフを用いて調べ、それ

数学を学習することについて



□好きである(25.0%)
■どちらかといえば好き
方である(31.3%)
□好きではない(43.8%)

数学の学習の取り組みについて



□意欲的に取り組んでいる
(12.5%)
■どちらかといえば取り組
めている方である(53.1%)
□好きではない(34.4%)

【思考力、判断力、表现力】

- 【学びに向かう力、人間力等】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 反比例の意味を理解している。 ② 反比例の関係を、表や式に表すことができる。 ③ 反比例の変化や対応の特徴を理解している。	① 具体的な事象の中にある2つの数量の関係を、変化や対応の様子に着目して調べ、反比例の関係としてとらえられた2つの数量を見いだすことができる。 ② 変数や定数が負の数の場合について、反比例の変化や対応の特徴を考察し表現することができる。	① 具体的な事象の中から反比例の関係として捉えられる2つの数量を見いだしたり、その関係を式で表したりしようとしている。 ② 変数や定数が負の数の場合について、反比例の特徴を考えようとしている。

関数（３時間），反比例の式（２時間），比例の式（２時間），反比例のグラフ（３時間）
座標（１時間），比例・反比例の利用（２時間），比例のグラフ（３時間），まとめ（２時間）

面積が一定のときの長方形の縦と横の長さの関係について調べる活動を通して、2つの数量の変化や対応の特徴を見出し、反比例の意味を正しく理解する。 【知識・技能】

段階 (時間)	学習活動	教師の指導 (○) 予想される生徒の反応 (・)	・指導上の留意点 □評価の視点
導入 (3分)	1. 本時の学習内容と課題を把握する。	○リフレクションシートに目標を記入させる。 ○ワークシートを配布する。	
	[課題] 次の2つの長方形の横の長さを x cm、縦の長さを y cm として、x と y の変化について調べてみましょう。 ① 面積が 6 cm^2 の長方形 ② 周の長さが 18cm の長方形		
展開 (42分)	2. 各自で調べる。 3. グループで話し合う。 4. 反比例についてまとめる。	○方眼紙を利用して縦と横の長さの変わり方を調べさせる。 ○表を作成し、変化の特徴に気付かせる。 ・ x が増えると y は減る。 ・ x が 2 倍、3 倍になると、 y は $\frac{1}{2}$ 倍、 $\frac{1}{3}$ 倍…になる。 ・ $xy = 6$ ・ $x + y = 9$ ・ 分からない。	□反比例の意味を正しく理解しているか。【知・技】 B：反比例の特徴のうち、1 つは分かる。 C：特徴が全く分からない。 <手立て> ・B の生徒には、気づいていない特徴のヒントを出す。 ・C の生徒には、既習事項の比例と比べたり、表を縦に見たり横に見たりするように促す。
まとめ (5分)	5. 本時の授業の振り返りをする。	○リフレクションシートにまとめを記入させる。	・今後、取り組むことや改善しようとすることを意識させる。

第1学年4組 英語科学習指導案

日 時 令和5年10月16日 第2校時

場 所 1年4組 教室 / 37名

指導者 教諭 加藤 聡美 / ALT Jayne Kuroiwa

1 単元名

Daily Life Scene 3「カフェ」(Here We Go English Course 2)

2 単元について

本単元では、飲食店で注文するやり取りを学ぶ。Can I ~? / Which ~ or, ~? / How much ~? の表現を何度も口頭で練習することにより、注文するやり取りが身に着けられるようにしていきたい。

3 生徒の実態

本学級の生徒は明るく素直な生徒が多い。男女関係なく、インタビュー活動などのアクティビティーに参加できる。一方、英語での指示を自分で理解しようとしたり、単語を正しく書けるようになるためにコツコツと努力したりすることに苦手意識を持っている生徒もいる。スモールステップで課題を与え、できることを増やしていき、「英語で話せた。通じた。分かった。」という体験をさせていきたい。

4 指導観

小学5年生で、「料理を注文したり、値段を尋ねたりする受け答えができる。」という目標で学習している。小学校での学習を思い出させ、基本となる表現の習得しながら、更に、相手の発言に即興で受け答えができるようにしていきたい。

5 本校の研究テーマとの関わり

令和5年度 研究テーマ：諸問題を自力解決できる生徒の育成

教科研究主題：基礎的・基本的な内容の定着を図り、表現力を高める指導の工夫

<課題>

5ラウンドで学習を進めている中で、話の内容を聞き、大まかに理解することはできるようになってきている。しかし、単語を正しく書けるようになったり、文法的に正しく答えたり（口頭でも筆記でも）することが不十分と感じる。ラウンド3に入り文法を学ぶようになったので、帯活動の中で、「話すこと」・「書くこと」・「読むこと」に対して正確性を意識すること、Small Talk で自己表現の機会を作り、英語で自分の意見を言えるようにしていきたい。繰り返し行うことで、基礎・基本の定着を図っていききたい。

6 単元目標

・飲食店で、注文をするやり取りができる。(1時間扱い)

7 単元の評価規順

知識・技能	① Can I ~? / Which ~ or, ~? / How much ~? という言い方について正確に理解している。(SI)
	② Can I ~? / Which ~ or, ~? / How much ~? という言い方を使って、飲食店で注文するやり取りを即興ですることができる。(SI)

8 本時の学習

(1) 目標

- ・飲食店で、注文をするやり取りができる。

(2) 展開

過程	学習活動	JTE	ALT	★指導上の留意点 ◎評価
Routine Work (10分)	1) Greeting	・日付、曜日、天気を板書する。	Good morning, class. How are you today? What day is it today? What's the date today? How's the weather today?	★英語の授業の雰囲気づくりをする。
	2) Small Test	・単語の意味を黒板に書く。 ・1分計る。	・答え合わせ、次回の確認のため単語を読み上げる。	◎テスト用紙を回収し、採点して返却する。 (知識・技能)
	3) Small Talk	・巻末の"Let's Talk"の"My Life"を開くよう指示する。 ・今日の質問を指示する。	・"My Life"の Question 部分を音読し、生徒はリピートする。	◎意図的に数名ピックアップし、やり取りする。(思・判・表)
		Today's question を使ってインビュする (2分) JTE/ALT 生徒と一緒に活動に参加する		
導入 (15分)	4) Textbook	・デジタル教科書のメニューを見せ、何が書かれているのか確認する。		◎やり取りを通して内容を確認する。①
		教科書の本文をワルディングする。(2回) ALT: Shop clerk JTE: Customer		
		・内容を確認する。 ・デジタル教科書で新出単語を確認する。 ・もう1度ワルディングする。 ・もう1度内容を確認する。	・もう1度ワルディングする。	
		・JTE/ALT の後に続いて、教科書の本文を繰り返す。(3回) ALT: Shop clerk JTE: Customer ・自分自身で練習する (3回) ・ペアで練習する (3回)		
展開 (20分)	5) お店屋さんごっこをしよう	・マドカルのメニューを配る。		★発音に不安を感じている生徒の支援をする。
		・メニューをもとにワルディングする(1回) ALT: Shop clerk JTE: Customer ・JTE/ALT の後に続いて、繰り返す(3回) ・自分自身で練習する (2回) ・ペアで練習する (3回)		

		・クラスを半分に分けて、注文のやり取りをする (10 分) ・JTE/ALT とともに店員・客になる	・代表生徒とデモンストレーションする	◎生徒とのインタビュー活動の中で、即興でやり取りできる。②
振り返り (5分)	6) Summary	・振り返りシートに記入し、本時の振り返りを行わせる。		★振り返りシート回収
	7) Greeting	Good bye, everyone.	Good bye, class.	

(3) 板書計画

October 16, Monday, Sunny

Today's Goal : レストランで注文したり、注文を受けたりしよう。

Can I have _____?

Which would you like, A or B ?

How much is that in total?

At McDonalds

Class _____ No. _____ Name _____

店員: May I help you?

客: Yes. Can I have Big Mac Set, please?

店員: Sure. For here, to go?

客: For here. / To go.

店員: Which would you like, French fries, nuggets, salad, corn, or yogurt?

客: I'd like salad.

店員: What drink would you like?

客: Milk, please.

店員: Anything else?

客: Appel pie, please. / No, thank you.

How much is that in total?

店員: 890 yen, please.

* 下線部分を自分の言いたいことに変えてみよう。

<Memo>

保健体育科学習指導案

令和5年10月16日(月) 第2校時 グラウンド

第2学年1組 男子20名 女子20名

指導者 教諭 白倉 裕三

1 単元名: 「球技」(ベースボール型ソフトボール)

2 運動の特性

(1) 一般的特性

- ルールや作戦を工夫したり、集団対集団の攻防によって仲間と力を合わせて競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。
- 攻守を規則的に交代し合い、ボール操作(打球・捕球・送球)とボールを持たない動き(走塁・空間・ボール落下点・ベースカバー・バックアップ・ボール操作に至るための動きや守備の動き)によって、一定の回数内で得点を競い合うことを課題とした運動である。

(2) 生徒からみた特性

ソフトボールの楽しさや喜びを感じる要因	ソフトボールを遠ざける要因
○ バットで思い切り打ったり、狙い通り打ったりして出塁できたとき ○ 打球を捕ることができたり、狙い通りの相手に向かって投げることができたりしたとき ○ 自分のプレーが得点につながったり、作戦が成功したりしたとき ○ 仲間と仲良く助け合ってプレーできたとき	● バットでうまく打てなかったとき ● 思い通りに捕球や投球ができなかったとき ● 走塁や守備の時に、何をすれば良いかが分からなかったとき ● 作戦が理解できなかったり、うまくいかなかったりしたとき ● ルールが理解できなかったとき ● 失敗が原因で仲良くできなかったとき

3 本校研究主題との関連性について

- 本校研究主題「諸問題を自力解決できる生徒の育成」

～話し合い活動を通じた人間関係づくりの充実～

教科研究主題 保健体育における「言語活動の充実」を図るためのグループ活動

- ・グループでの話し合い活動の場を設け、他者と相互に意見を出し合い、活動を生かしていく。
- ・学習カードに毎時間感想や反省を書かせ、話し合いが授業に生かしていたかを振り返らす。

4 生徒の実態

(1) 〈意識調査の結果より〉

①体育の授業は好きですか？

好き 26名 嫌い 0名 どちらでもない 10名

②ソフトボールは興味ありますか？

ある 14名 ない 12名 どちらでもない 10名

③ソフトボールの授業を通して身に付けたいことはなんですか

- ・自分の投げたい位置にボールを投げるボール操作
- ・打ちたい方向へボールを打つことができるバット操作
- ・状況を見て塁を進んだり戻ったりできる判断力
- ・チームで協力して話し合う力、課題に取り組む力

(2) 〈知識・技能〉

運動能力は二極化の傾向がある。ソフトボールにおいてもできる生徒とそうでない生徒では、基本的なボールやバット操作に大きな差がある。できる生徒は仲間と連携した動きで攻防の展開を楽しむ一方で、できない生徒の中にはバットにボールをなかなか当てられない生徒もいる。

(3) 〈思考・判断・表現〉

教師側から提示された課題や練習方法を進んで取り組む学習は、多くの生徒ができています。そのため、課題をもって練習に取り組む学習では、ほとんどの生徒が実践力のある生徒だと考える。多くの生徒が、みんなで協力したプレーを心がけたいという意識が高い。自らの課題を見つけ学習カードに記入することは多くの生徒ができるようになってきている。

(4) 〈学びに向かう力、人間性〉

全体的に明るく素直な生徒が多い。さらに体を動かすことが好きな生徒や積極的に声を出して取り組む生徒が多い。しかし、運動に対して苦手意識が強く、消極的な生徒もおり、そのため自主的な活動ができない生徒もいる。実態調査より、「どちらでもない」と答えた生徒が球技を通して、興味が持てたと感じる授業を展開したい。

5 教師の指導観

(1) 〈知識・技能〉

ソフトボールの技能やルールを確認しながら、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防を展開できるようにすることをねらいとし、打球の状況に応じた走塁ができるようになることや、守備側が走者と打球に合わせてベースカバー等を行ってアウトが取れることを目指したい。

(2) 〈思考・判断・表現力等〉

チームに合った課題解決方法を選択できるように、作戦ボードの活用やフォームの確認のためのICTを活用し、動画撮影を行うことで話し合い活動の環境を整える。チームや自分の動きをよく観察し、課題を発見、解決に向かう方法を選択できるようにする。

(3) 〈学びに向かう力、人間性等〉

作戦を考えたり、自己の技能にあった作戦を選択したり、互いの技能向上のために運動の方法などを理解させる必要がある。そのうえで、ソフトボールの特性である、チーム全員で協力することでゲームに勝利することができることに触れ、役割を果たすことや、話し合いに貢献する意欲を身につけさせたい。

6 単元目標

- (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開すること。ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすること
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。
- (3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレーなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、健康・安全に気を配ること。

7 単元及び学習活動に即した評価規準

	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	○知識 ①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。	○技能 ③地面と水平になるようにバットを振り抜くことができる。 ④守備位置から塁上へ移動して、味方からの送球を受けることができる。 ⑤決められた守備位置に繰り返し立ち、準備姿勢をとることができる。 ⑥各ポジションの役割に応じて、ベースカバーやバックアップの基本的な動きをすることができる。	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②自己やチームの課題解決方法を仲間とともに楽しむために練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。 ③練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。	①球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ②マナーを守ったり相手の健康を認めたりして、フェアプレイを守ろうとしている。 ③作戦などについての話し合いに参加しようとしている。 ④練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ⑤健康・安全に留意している
	②対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、学習した具体例を挙げている。			

8 単元の計画

(1) 領域の取り上げ方

学年	ソフトボール	バレーボール	サッカー	バスケットボール
第1学年	12時間	12時間		7時間
第2学年	12時間	12時間		8時間
第3学年	12時間			22時間

※第1・2学年はゴール型、ネット型、ベースボール型のうちすべてを選択する。

※第3学年では「球技Ⅱ」および「武道」、のまとまりの中から1領域以上選択。本校では「球技Ⅰ」をソフトボール、バレーボール及び卓球としている。また、「球技Ⅲ」をサッカーおよびバスケットボールとしている。

(2) 運動種目(球技・ベースボール型)の取り上げ方

学年	教材	目指す動き (第1, 2学年は全てティー台からバッティング)
第1学年	集合ゲーム	守) 打球を追う 打) バットを水平に振る 走) 全力で塁をまわる
	バックホームゲーム	守) 本塁にボールをつなぐ 走) どのコーンまで往復できるか判断
	カットプレイゲーム	守) 走者より先の塁につなぐ 走) ボールの位置に応じて塁で止まる
第2学年	ランナー1塁ローイングゲーム	守) 打者に応じた守備位置の工夫 攻) どこ狙って打つ(投げる)か
	ランナー1塁ゲーム	守) ベースカバー、バックアップ 走) フライは塁に留まる
	ランナー2塁ゲーム	守) ベースカバー、バックアップ、どこでアウトを取るか 攻) 進塁させる
第3学年	ソフトボール	易しく投げられたボールを強く打って攻撃

(2) 指導と評価の計画 (10時間扱い) 本時は○

段階	1	2	3	4・5	6・7	8・⑨	10
ねらい	・ソフトボールの特性や学習のねらいを理解し、学習の見通しをもとめる。 ・学習の進め方・チーム編成・スキルアップ・スキルのやり方の見通しをもとめる。	・「捕る・投げる」の基本技術を確認しよう。	打球の状況を見て塁を進んだり戻ったりしよう。	守備位置とアウトを狙う塁を工夫して守備をしよう。	・ランナー2塁から、ベースカバールを工夫して守備をしよう。	チームの課題を見つけ、勝利するための作戦を考えよう。	これまでの学習を生かしてゲームで勝利を目指そう。
指導内容	・正しい投球フォームを意識する。 ・体の部位を意識させる。 ・正しいキャッチを意図する。 ・ゴロは進塁する。 ・フライキャッチ ・フライは塁に留まる戻る ・ゴロは進塁する	・正しい投球フォームを意識する。 ・体の部位を意識させる。 ・正しいキャッチを意図する。 ・ゴロは進塁する。	・フライキャッチ ・フライは塁に留まる戻る ・ゴロは進塁する	・水平なバットスイング ・送球先の適切な判断 ・打者に応じた守備位置 ・指示の声に適切な対応	・ゲームを通して、打球に応じた状況判断 ・ベースカバール ・送球先の適切な判断 ・チームに合った作戦について	・チームの話し合いで見つけた課題を克服するための練習方法 ・自チームにあった作戦 ・仲間と励ましあう、喜び合う ・学習の振り返り	・仲間と連携した守備の仕方 ・チームで話し合った作戦の実践 ・仲間と励ましあう、喜び合う ・学習の振り返り
学習過程	1 用具の準備 2 集合・挨拶 3 準備運動 4 スキルアップ 5 本時のねらいの確認 【ベースサーキット】 本1塁間: 捕球姿勢 12塁間: 肩甲骨エクササイズ 23塁間: サイドステップ 6 「投げる」 ○肩慣らし ・左、右、左のリズムで投げる。 ○ゴロキャッチ ・右、左のリズムで捕る。 ・視線を近づけるため、腰を落とす。 ○フライキャッチ ・ボールにあわせて柔軟に手を動かす。 ・右手をそえる 7. スローイングベースボール 8 「捕る」 ○ゴロキャッチ ・右、左のリズムで捕る。 ・視線を近づけるため、腰を落とす。 ○フライキャッチ ・ボールにあわせて柔軟に手を動かす。 ・右手をそえる 9. スローイングベースボール 10. 整理運動、挨拶						
	【ベースサーキット】 本1塁間: 捕球姿勢 12塁間: 肩甲骨エクササイズ 23塁間: サイドステップ 6 「投げる」 ○肩慣らし ・左、右、左のリズムで投げる。 ○ゴロキャッチ ・右、左のリズムで捕る。 ・視線を近づけるため、腰を落とす。 ○フライキャッチ ・ボールにあわせて柔軟に手を動かす。 ・右手をそえる 7. スローイングベースボール 8 「捕る」 ○ゴロキャッチ ・右、左のリズムで捕る。 ・視線を近づけるため、腰を落とす。 ○フライキャッチ ・ボールにあわせて柔軟に手を動かす。 ・右手をそえる 9. スローイングベースボール 10. 整理運動、挨拶						
	【ベースサーキット】 本1塁間: 捕球姿勢 12塁間: 肩甲骨エクササイズ 23塁間: サイドステップ 6 「投げる」 ○肩慣らし ・左、右、左のリズムで投げる。 ○ゴロキャッチ ・右、左のリズムで捕る。 ・視線を近づけるため、腰を落とす。 ○フライキャッチ ・ボールにあわせて柔軟に手を動かす。 ・右手をそえる 7. スローイングベースボール 8 「捕る」 ○ゴロキャッチ ・右、左のリズムで捕る。 ・視線を近づけるため、腰を落とす。 ○フライキャッチ ・ボールにあわせて柔軟に手を動かす。 ・右手をそえる 9. スローイングベースボール 10. 整理運動、挨拶						
	【ベースサーキット】 本1塁間: 捕球姿勢 12塁間: 肩甲骨エクササイズ 23塁間: サイドステップ 6 「投げる」 ○肩慣らし ・左、右、左のリズムで投げる。 ○ゴロキャッチ ・右、左のリズムで捕る。 ・視線を近づけるため、腰を落とす。 ○フライキャッチ ・ボールにあわせて柔軟に手を動かす。 ・右手をそえる 7. スローイングベースボール 8 「捕る」 ○ゴロキャッチ ・右、左のリズムで捕る。 ・視線を近づけるため、腰を落とす。 ○フライキャッチ ・ボールにあわせて柔軟に手を動かす。 ・右手をそえる 9. スローイングベースボール 10. 整理運動、挨拶						
評価の計画	9 整理運動 10 用具の片づけ 11 学習の振り返り・カード記入 12 挨拶						
	9 整理運動 10 用具の片づけ 11 学習の振り返り・カード記入 12 挨拶						
	9 整理運動 10 用具の片づけ 11 学習の振り返り・カード記入 12 挨拶						
	9 整理運動 10 用具の片づけ 11 学習の振り返り・カード記入 12 挨拶						

8 本時の学習と指導 (9/10時)

(1) 本時のねらい

チームの課題を見つけ、勝利するための作戦を考えよう。

(2) 準備

ソフトボール、グローブ、バット、ベース、ビブス、ティー台、青かご、ホワイトボード、

(3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点(○指導 ◆評価基準)
導入 12分	1. 集合・挨拶・健康観察をする。 2. 準備運動を行う。 3. 用具や場の準備をする。 4. スキルアップタイムを行う。 ①ベースサーキット ②ベースランリレー ③クイックキャッチボール ④ホームランバッティング	○素早く整列、チームごとに整列、身だしなみを整えて大きな声で挨拶させる。 ○大きな声で元気に準備運動させる。 ○運動が雑にならないように適宜言葉かけをする。 ○仲間と協力しながら準備ができるように言葉かけをする。 ○チームで声をかけあって正しく行わせる。 ○各場2分ずつのローテーション活動とする ○ベースランリレーは、膨らみをつけてベースの内側を踏んで走ることで、速く走れることを助言する。 ○ホームランバッティングでは、強く速い打球を意識して、「ボールをよく見る」「体重移動」「バットを水平に振る」ことを助言する。 ○クイックキャッチボールでは、「捕球する姿勢」「軸足から踏み出す足への体重移動」が意識できるように助言する。 ○相手の投げる時に「来い」、球を捕る時に「よし」、球を投げる瞬間に「行け」と掛け声とともにキャッチボールさせ、ポイントを意識化させる。
展開 32分	5. 本時のねらいを確認する。 チームの課題を見つけ、勝利するための作戦を考えよう 6. 作戦を立てる。 7. メインゲーム「ランナー2塁ゲーム」を行う 【攻撃】 ・ティー台に置かれたボールを打つ ・打者は打ち終わったバットを必ず青かごに入れてから走る。 ・打者は、塁に残らない。 ・1塁は1点、2塁は2点、3塁は3点、本塁は4点とし、たどり着いた塁が得点となる。 ・走者は2塁から始め、得点は2倍となる。(3塁は6点、本塁は8点) ・走者が2塁に留まった場合には4点 ・打者3人で攻守交代。 ・アウトは0点 ・タッチアップはなし 【守備】 ・守備位置は自由とし工夫できる ・フライアウト時に2塁でダブルプレーを取ることもできる ・アウトセーフはセルフジャッジ 8. 作戦タイム、ゲーム再開 9. 片付けをする。	○前時において、守備の連携から相手チームの得点を防いでいた具体的な場面を想起させ、守備の連携で得点を抑えることも勝利への鍵となることを改めて確認する。 ○打者よりも、走者を本塁に返すことを改めて確認する。 ○外野の守備位置を深めにして、抜かれないようにしておくことと失点を抑えられることを改めて確認する。 ○良い動きが見られた場合には、それに気づかせ、広めるために、賞賛し、価値づけする。 ○チーム内で教えあいや励まし合いができるように言葉かけをする。 ○バックアップ、ベースカバーを意識させる。 ○打った後のバットは青かごの中に確実に入れさせる。 ○得点をしっかりと記録用紙に記入しながらゲームを行うようにさせる。 ◆自己やチームの課題解決方法を仲間とともに楽しむために練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。【思考判断表現】 △努力を要すると判断される状況(C)の生徒への指導の手立て ・チームの仲間の動きや指示の声を参考に、どのように動けば良いか考えさせたり、具体的に助言したりする。 ◎「十分満足できると判断される状況(A)」の生徒の具体的な姿 ・自分のチームのメンバーの技能に応じて、守備位置を工夫したり、打撃方向や走塁判断を指示したりしている。 ・ベースカバーやバックアップに入ったり、走塁時にフライが上がったら2塁に戻る事ができている。 ○安全に留意して、片付けをさせる。 ○ボール等転がっていないように、協力して片付けをさせる。
整理 6分	10. 本時の振り返りをする ・学習カードに本時のねらいについての振り返りを記入 ・振り返りの発表 ・学習、単元のまとめ 11. 整理運動、挨拶をする	○学習カードを活用し、本時の狙いに沿った振り返りが行えるようにする。 ○体力や技能の違いがある中で、仲間と楽しむための工夫や成果を確認し、今後の単元や、生涯スポーツにつながるようにする。 ○よく動かしした箇所を中心に丁寧にほぐすように助言する。 ○元気よく挨拶をさせる。

保健体育科学習指導案

令和5年10月16日(月) 第2校時 体育館
第2学年2組 男子20名 女子19名 計39名
授業者 教諭 平井 千秋

1 単元名: 「球技」(バレーボール)

2 運動の特性

(1) 一般的特性

「ネット型」とは、コート上でネットをはさんで相対し、身体や用具を操作してボールを空いている場所に返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うゲームで、ネット型の種目に共通する動きを身につけることが大切である。

バレーボールは、ネットをはさんでサービス、レシーブ、トス、スパイク等の技能でボールを打ち合い、勝敗を競い合うところに楽しさや喜びを味わうことができる。相手チームとの身体接触がないため、チームで協力しながらボールをつなぎ、ラリーを続ける楽しさやチームワークを実感しやすい競技であり、同時に巧緻性や敏捷性、スピード、筋持久力などの基礎体力が高められる運動である。さらに、レクリエーション種目として、生涯スポーツに結びつくこともできる。

(2) 生徒からみた特性

①球技の楽しさの要因	②球技を遠ざける要因
・チームでカバーし合ってボールをつなぐことで楽しさを味わうことができる。 ・相手チームとの接触がないため、邪魔されことなく自由にボールを扱える。 ・ボールがつながることの喜び、得点を取ったときの喜び、試合に勝ったときの喜びを味わうことができる。	・技能の習得時間がかかるため、思うようにボールが飛ばないと興味が薄れる生徒がいる。 ・ラリーが続かず、単発になるとつまらなくなると感じる生徒がいる。 ・ボールが当たると痛いと感じ、積極的にボールに向かっていけない生徒がいる。

3 本校研究主題との関連について

○本校研究主題「諸問題を自力解決できる生徒の育成」

～話し合い活動を通じた人間関係づくりの充実～

教科研究主題 保健体育科における「言語活動の充実」を図るためのグループ活動

- ・グループでの話し合い活動の場を設け、他者と相互に意見を出し合い、活動に生かしていく。
- ・学習カードに毎時間感想や反省を書かせ、話し合いが授業に生かされていたかを振り返らす。

4 生徒の実態

(1) 知識及び技能

1年次にバレーボールを学習しており、基本的な用語やルールを理解している生徒は多い。技能は二極化の傾向があり、できる生徒とそうでない生徒では、基本的なボール操作に大きな差がある。できる生徒は仲間と連携した動きで攻防の展開を楽しむ一方で、できない生徒の中にはボールが思ったところに返球できない生徒もいる。

(2) 思考力、判断力、表現力等

自分の課題を見つけて学習カードに記入し、次時の活動に生かそうとする生徒は多い。一方でペアやチームの課題を見つけ、解決に向けての話し合いに消極的な生徒もいるが、リーダーを中心にサポートすることで、伝えようとする場面が増えている。

(3) 学びに向かう力、人間性等

明るく元気で授業に積極的に取り組むことができる生徒が多いが、運動が苦手で消極的な生徒も一定数いる。ただ、苦手だが頑張りたいと思っている生徒も増えてきている。

(4) 〈アンケートの結果より〉

①体育の授業は好きですか？(回答33名)

好き	23名	理由	・体を動かすのが好きだから。・みんなで競い合い、勝ったり負けたりして楽しいから。・得意だから。・スカッとすることから。協力してやるのが楽しいから。・苦手だけどできるようになると嬉しいから。
嫌い	10名	理由	・面倒くさいから。・体を動かすのが好きじゃないから。・うまくできないから。・長距離走は好きじゃない。・けがをするのが怖い。・人と協力するのが苦手。

②バレーボールは楽しいと感じますか？

楽しい	17名	理由	・ラリーが楽しい。・ボールがつながると楽しい。・試合が楽しい。・チームで協力して勝った。・コースを考えながら返すのが楽しい。チームで作戦を練って協力できる。・達成感がある。・点を決めたときうれしかったから。・試合を見ているとき
-----	-----	----	---

どちらでもない	11名	理由	・うまくいくときといかないときがある。・試合は楽しいが、活躍できない。 ・失敗したときはつまらないと感じてしまう。
つまらない	5名	理由	・思うように返せない。・慣れなかった。・チームの輪がそろわない。 ・自分だけでなく、仲間が失敗してもラリーが続かないから。

4 教師の指導観

本学級の生徒は、1年次の授業でバレーボールを経験しており、基本的なボール操作を学習している。そこで2学年では点数を決めるためのスパイクを打つという技能の習得をもとに、バレーボールの楽しさや喜びを味わわせることをねらいとし、スパイクの技能の向上、高まった技能を活用した課題練習やゲームを中心に学習を行っていく。また、主体的に取り組む姿勢や仲間と協力して取り組み、教え合ったり励まし合ったりしながら学習できるよう課題解決学習を多く取り入れていく。

(1) 知識及び技能

バレーボールは個人の基本技能が向上しないとゲームに発展することができないため、パス・サーブ・レシーブなどの基本技能を向上させるとともに、新たにスパイクの技能を習得させ、チームで連携した動きからスパイクで相手コートに返球することができるゲームを展開できるようにする。

(2) 思考力、判断力、表現力等

ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技能のポイントを押さえさせ、自己やチームの課題を見つけさせる。自己の学びを振り返るだけでなく、本時の課題をいつでも確認できるよう時間毎に学習カードを作成する。

(3) 学びに向かう力、人間性等

学習する技能がよりよくできるようにするために場を工夫し、グループで協力して意欲的に練習に取り組ませる。また、ルールやマナーを守り、公正な態度を大切にし、健康・安全に留意して取り組ませる。

5 単元の目標

- (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技能の名称や行い方について理解するとともに、ボール操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。【知識・技能】
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。【思考、判断、表現】
- (3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、健康・安全に気を配ることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

6 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	○知識 ①バレーボールの勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ②ボール操作の名称やそれらがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ○技能 ④味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。 ⑤相手側のコートの空いた場所にボールを返すことができる。 ⑥ボールを打ったり受けたりした後、ボールや相手に正対することができる。	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。	①球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ②マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。 ③練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。

7 単元の計画

(1) 領域の取り上げ方

学年	ソフトボール	バレーボール	ハンドボール	サッカー	バスケットボール
第1学年	12時間	12時間(本単元)			7時間
第2学年	12時間	12時間			8時間
第3学年	12時間(球技Ⅰ)	12時間(球技Ⅱ)	12時間(球技Ⅱ)		22時間(球技Ⅲ)

※第1・2学年はゴール型、ネット型、ベースボール型のうちすべてを選択する。

※第3学年では「球技Ⅰ」のまとまりの中から1領域選択。本校では「球技Ⅰ」をソフトボール・バレーボール・卓球としている。また、「球技Ⅱ」ではハンドボール・バドミントン・柔道より1領域選択。「球技Ⅲ」では、バスケットボール・サッカー・卓球より1選択とする。

(2) 運動種目(バレーボール)の取り上げ方

学年	教材	目指す動き
1	バレーボール	パスやサービスなどの基本的なボール操作を身につける。 打球に備えた準備姿勢をとり、味方が受けやすいボールを送る。 相手の空いているスペースに返球する。 定位置で守る。
2	バレーボール	味方が操作しやすい位置にボールをつなぐ。 テイクバックをとって肩より高い位置からボールを打ち込む。 ボールを打ったり、受けたりした後、ボールや相手に正対する。
3	バレーボール	次のプレイをしやすい位置と高さに上げる。 腕を強く振って、ネットより高い位置から打ち込む。 ネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりする。 コート上の空いている場所をカバーする。

(3) 指導と評価の計画 (10時間扱い) 本時は○印 9/10

段階	1	2	3	4	5	6	7	8	⑨	10
ねらい	単元の学習内容を理解し、学習の見通しをもとう。	アンダーハンドパス、オーバーハンドパスでボールを落とさずつなごう。	ラリーを続けるためのポイントを見つけよう。	セッターの役割 ・間のボールの取り方 ・ラリーゲーム	高い打点でスパイクを打とう。	スパイク練習 ・三段攻撃 ・セッターキヤッチゲーム	スパイク練習 ・三段攻撃 ・ゲーム	チームの課題に応じた練習を選択しよう。	⑨	学習したことを生かした作戦を立ててゲームしよう。
	・約束事や安全な学習の仕方 ・役割分担や学習の流れ	・ネットの張り方 ・基本の構え ・アンダー・オーバーハンドパス	・ポジションの確認 ・レシーブ練習 ・ラリーゲーム	・セッターの役割 ・間のボールの取り方 ・ラリーゲーム	・スパイクの行い方 ・スパイク練習 ・ゲーム	・スパイク練習 ・三段攻撃 ・セッターキヤッチゲーム	・スパイク練習 ・三段攻撃 ・ゲーム	・課題の確認 ・約束事を話し合う ・課題解決練習 ・ゲーム		・作戦会議 ・ゲーム ・学習のまとめ
	1、あいさつ、健康観察、準備運動									
	2、オリエンテーション ・バレーボールの特性、約束事や学習の進め方を理解する。									
	3、チーム編成、役割分担 ・チームを編成し、係等を決める。									
	4、慣れの運動									
	5 スキルアップドリル (キャッチボール、アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、対人パス サービス練習)									
	6、アンダーハンドパス・オーバーハンドパスの復習 ・対人パス 7、円陣パス 8、試しのゲーム ・チーム内で一度だけキヤッチOK									
	6、ポジションの確認 ・ローテーションの仕方 ・定位置に戻る 7、レシーブ練習 8、簡易ゲーム ・レシーバーワンキヤッチゲーム									
	6、課題の確認 ・間のボールの取り方 ・声のかけ方 7、課題練習 ・チームごとに課題練習 8、ラリーゲーム									
	6、スパイクの打ち方 ・スパイクフォーム ・ステップの仕方 7、スパイク練習 ・ミート練習 ・手投げからスパイク 8、ゲーム									
	6、スパイク練習 ・手投げ 7、三段攻撃の行い方 ・セッターの役割の確認 ・レシーブ、トス、スパイク 8、セッターキヤッチゲーム									
	6、課題練習 ・レシーブ練習 ・セッター練習 ・スパイク練習 ・三段攻撃練習 7、ゲーム ・三段攻撃を使ったゲーム									
	6、課題の確認 ・チームで話し合い ・練習方法の決定 ・約束事の確認 7、課題解決練習 ・チーム課題に応じた練習 ・教え合い 8、ゲーム ・課題を意識したゲーム									
	6、作戦会議 7、チーム練習 8、ゲーム									
	9、整理運動									
	10、学習の振り返り・カード記入									
	11、あいさつ									
	12、用具の片づけ									
知・技	①		②	⑥			④		⑤	
思・判・表					①			②		
態	①					③				②
方法	観察	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード
場面	2	8・11	6・11	6・8・11	6・7・11	6・7・11	6・7・11	6・7・11	7・8・11	8・11
学習過程										
評価の計画										

8 本時の学習と指導（8／10時）

(1) 本時のねらい

- ・チームの課題に応じた練習を選択できるようにする。【 思考・判断・表現 】

(2) 準備

- ・ボール ・ネット ・支柱 ・デジタイマー ・カラーコーン ・学習カード

(3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点 (○…指導内容 ◆…評価の観点)
導入 10分	1 集合・整列・挨拶 2 健康観察 3 本時のねらいと学習内容の確認 4 準備運動 ・体操・補強運動（ハーキー） 5 スキルアップドリル（各30秒） ①キャッチボール ②ミート練習 ③オーバーハンドパス ④アンダーハンドパス ⑤対人パス ⑥サービス練習	○元気よく挨拶をさせる。 ○健康観察をし、体調を確認する。 ○学習内容を確認させる。 ○大きな声で準備運動を行わせる。 ○アンダーハンドパス・オーバーハンドパスのポイントを意識して行わせる。 ○ボールを受ける前に声を出させ、自分が受けるという意識を持たせる。 ○アンダーハンドサービスのポイントを意識させる。 ○相手がとりやすいサービスを練習させる。
展開 30分	6 本時のねらいの確認 チームの課題に応じた練習を選択しよう。 7 チーム課題の確認 1、各チームで課題を話し合う。 2、課題に応じた練習メニューを選択する。 〈課題練習の例〉 ・レシーブをセッターに返す練習 ・サービス&レシーブ ・スパイク練習 ・シート練習 ・三段攻撃 8 課題解決練習 ・課題を意識して練習を行う。 ・安全に留意して課題練習を行う。 9 課題練習を意識したゲーム	○これまでの練習やゲームを振り返り、課題を話し合わせる。 ○一人一人に課題を出させて、その中から課題に合う練習方法を選択させる。 ◆チームの課題に応じた練習を選択するために、自分やチームの課題や練習方法を伝えることができる。 「十分に満足できると判断される状況」(A)と評価する具体例 ☆話し合い活動で積極的に意見を出し、チームの課題や練習方法を伝えることができる。 「努力を要すると判断できる状況」(C)の生徒への指導の手立て ☆うまくいかないところやできるようになりたいプレーなどを出させる。 ○他チームとぶつからないように安全に留意して行わせる。 ○チームの課題を意識して練習を行わせる。 ○互いに教え合ったり励まし合ったりして学習に取り組ませる。 ○課題練習を意識してゲームを行わせる。 ○ルールを守り、安全に行わせる。 ○良いプレーを見つけて声をかけさせる。 ○仲間が失敗しても前向きな声かけをさせる。
整理 8分	9 整理運動 10 本時の評価と学習の振り返り ・ゲームでの反省点や次時の課題を話し合う。 ・学習カード記入 ・本時の成果や課題について発表し次時の取組の見通しを持たせる。 11 挨拶をする。 12 用具の片づけ	○体調不良やケガがないか確認する。 ○ゲームでの反省と新たな課題を話し合わせる。 ○本時の学習を振り返り、自己評価させる。 ○本時の学習でうまくできたポイントを発表させる。 ○次回の学習の予告を説明し、見通しを持たせる。 ○元気よくあいさつさせる。 ○安全に留意して片づけをさせる。

第2学年5組 国語科学習指導案

日 時 令和5年10月16日(月) 第2校時

場 所 2学年5組 教室

授業者 教諭 小玉 美紗

在 籍 男子20名 女子20名 計40名

1 教材名 「モアイは語る——地球の未来」(光村図書)

2 単元設定の理由について

(1) 生徒観

本学級は落ち着いた雰囲気、授業にも真剣に取り組める生徒が多い。しかし、授業での学びが思うように定着せず、基礎・基本に課題が見られる部分もある。また、他者とコミュニケーションを取って、自分の考えを表現することに苦手意識をもっている生徒も見受けられる。

(2) 教材観

本教材は、序論で4つの問いを提示し、本論で一つ一つそれらに答えている。本論では、問題の答えと同時にそれぞれの答えの根拠を示している。そのうえで、結論でモアイやイースター島の問題を地球の問題に広げ、自らの主張を述べている。このような文章の構成を押さえたうえで、筆者の意見は何か、それはどのような根拠に基づいているかを正確に捉えさせられる教材である。

(3) 指導観

説明的文章を読み進めるうえで、「問い」とその問いに対する「答え」を見つける力が大切である。「問い」と「答え」の関係が捉えやすい本教材での学習を通して、そのような力を身に付けさせたい。また、筆者の主張に対して、自分の知識や経験と結び付けて考えをまとめることで、思考力や表現力を磨くことにも発展させたい。意見と根拠のつながりを意識することが、今後の生活においても、物事を正しく判断し、信頼性のある文章を作るうえで生かされるだろう。

3 本校研究主題との関連について

○本校研究主題「確かな学力の育成と豊かな学びの実現を図る学習指導」

本校の国語科では、「手立ての充実による基礎学力の定着・向上」を念頭において、毎時の授業を行っている。本単元においては、①言語環境を整える雰囲気づくり、②生徒の興味を喚起させる課題の設定、③ねらいの提示、④ペアによる教え合いや話し合いの時間の確保などに留意し、学力を向上させる。

4 指導目標

- (1) 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。【知識及び技能】(情報(2)ア)
- (2) 文章の構成や論理の展開について考えることができる。【思考力、判断力、表現力等】(C読む(1)エ)
- (3) 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】(C読む(1)オ)
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

4 評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との	①「読むこと」において、文章の構成や論理の展開について考えている。	①粘り強く論理の展開について考え、学習の見通しをもつ

関係について理解している。	②「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。	て筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。
---------------	---	--------------------------------

5 指導計画

	学習活動	学習内容
1 (本時)	○本文を通読する。 ○序論・本論・結論に分ける。 ○4つの問いを探す。	○文章の構成の把握
2	○問いに対する答えを探す。	○内容の理解 ○意見と根拠の関係の整理
3	○筆者の主張を読み取る。	○内容の理解 ○論理の展開の吟味
4	○筆者の主張に対する考えをまとめる。	○作文

6 本時の学習（本時 1 / 4）

(1) 目標

文章の構成や論理の展開について考えることができる。【思考力、判断力、表現力等】(C読む(1)エ)

(2) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1 本時の学習のねらいを確認する。(全体)	めあて 本文を通読し、3つのまとまりに分ける。	
2 本文を通読する。(全体)	○漢字の読み方 ○語彙	○形式段落に番号を振らせる。 ○読めない漢字にはふりがなを振らせる。 ○わからない言葉はチェックさせ、意味調べをさせる。
3 序論・本論・結論に分ける。(個人→グループ→全体)	○文章の構成の把握	○3つのまとまり＝序論・本論・結論 ○国語班(3～4人)で考えを交流させる。 【思考力、判断力、表現力等】 取り組みの様子や発表、態度の観察 ・文章の構成に従って、本文をまとまりごとに分けようとしているかを確認する。 (規準に達しない生徒への支援) ・机間指導での声かけ
4 序論から4つの「問い」を見つける。(個人→グループ→全体)	○「問い」の文末「～か」	○教科書に線を引かせる。 ○国語班で共有させる。
5 本時の振り返りと次時の内容の確認		○次時では「問い」に対する「答え」を見つけることを予告する。

第2学年6組 国語科学習指導案

日 時 令和5年10月16日(月) 第2校時

場 所 2学年6組 教室

授業者 教諭 高橋 新平

在 籍 男子21名 女子19名 計40名

1 教材名 「モアイは語る——地球の未来」(光村図書)

2 単元設定の理由について

(1) 生徒観

本学級は明るく活発で、休み時間と授業のメリハリをつけられる生徒も多い。しかし、挙手をして発言する生徒は、数名に限られているのが現状である。発問の仕方を工夫し、発言しやすい環境を整えることで、活発に意見交流を行わせたい。

(2) 教材観

本教材は、序論で四つの問いを提示し、本論で一つ一つそれらに答えていく。本論では、問題の答えと同時にそれぞれの答えの根拠を示している。そのうえで、結論でモアイやイースター島の問題を地球の問題に広げ、自らの主張を述べている。このような文章の構成を押さえたうえで、筆者の意見は何か、それはどのような根拠に基づいているかを正確に捉えさせられる教材である。

(3) 指導観

説明的文章を読み進めるうえで、「問い」とその問いに対する「答え」を見つける力が大切である。「問い」と「答え」の関係が捉えやすい本教材での学習を通して、そのような力を身につけさせたい。また、筆者の主張に対して、自分の知識や経験と結び付けて考えをまとめることで、思考力や表現力を磨くことにも発展させたい。意見と根拠のつながりを意識することが、今後の生活においても、物事を正しく判断し、信頼性のある文章を作るうえで生かされるだろう。

3 本校研究主題との関連について

○本校研究主題「確かな学力の育成と豊かな学びの実現を図る学習指導」

本校の国語科では、「手立ての充実による基礎学力の定着・向上」を念頭において、毎時の授業を行っている。本単元においては、①言語環境を整える雰囲気づくり、②生徒の興味を喚起させる課題の設定、③ねらいの提示、④ペアによる教え合いや話し合いの時間の確保などに留意し、学力を向上させる。

4 指導目標

- (1) 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。【知識及び技能】(情報(2)ア)
- (2) 文章の構成や論理の展開について考えることができる。【思考力、判断力、表現力等】(C読む(1)エ)
- (3) 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】(C読む(1)オ)
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

4 評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との	①「読むこと」において、文章の構成や論理の展開について考えている。	①粘り強く論理の展開について考え、学習の見通しをもつ

関係について理解している。	②「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。	て筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。
---------------	---	--------------------------------

5 指導計画

	学習活動	学習内容
1 (本時)	○本文を通読する。 ○序論・本論・結論に分ける。 ○4つの問いを探す。	○文章の構成の把握
2	○問いに対する答えを探す。	○内容の理解 ○意見と根拠の関係の整理
3	○筆者の主張を読み取る。	○内容の理解 ○論理の展開の吟味
4	○筆者の主張に対する考えをまとめる。	○作文

6 本時の学習（本時1／4）

（1）目標

文章の構成や論理の展開について考えることができる。【思考力、判断力、表現力等】（C読む（1）エ）

（2）展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1 本時の学習のねらいを確認する。（全体）	めあて 本文を通読し、三つのまとまりに分ける。	
2 本文を通読する。（全体）	○漢字の読み方 ○語彙	○形式段落に番号を振らせる。 ○読めない漢字にはふりがなを振らせる。 ○わからない言葉はチェックさせ、意味調べをさせる。
3 序論・本論・結論に分ける。（個人→グループ→全体）	○文章の構成の把握	○三つのまとまり＝序論・本論・結論 ○国語班（3～4人）で考えを交流させる。 【思考力、判断力、表現力等】 取り組みの様子や発表、態度の観察 ・文章の構成に従って、本文をまとまりごとに分けようとしているか確認する。 〈規準に達しない生徒への支援〉 ・机間指導での声かけ
4 序論から、四つの「問い」を見つける（個人→グループ→全体）	○「問い」の文末「～か」	○教科書に線を引かせる。 ○国語班で共有させる。
5 本時の振り返りと次時の内容の確認		○次時では「問い」に対する「答え」を見つけることを予告する。

第3学年2組 理科学習指導案

令和5年10月19日(水) 第1校時

場 所 3年2組教室

生徒数 35名

指導者 永田 仁

1 単元名 「化学変化とイオン」

2 単元について

(1) 教材観

本単元では化学変化をイオンのモデルと関連付けながら、その規則性や関係性を見だし、理解し、表現することが主なねらいである。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、理科の学習への興味関心が高い。1学期末に実施したアンケートでは、「理科の授業は楽しい」という質問に対し、91.4%の生徒が「当てはまる」と回答した。一方、「理科は将来役に立つと思う」という質問に対して、「当てはまる」と回答した割合は57.1%である。授業を通して、様々な自然現象は身近なものであるということ理解できるような授業を展開していく。

(3) 指導観

前時までの学習で、イオンの生成の仕方やイオン式について学習している。本時では、様々な水溶液の性質について実験を行い、結果を分析し、酸とアルカリの強さについて理解を目指す。また、タブレットを活用し、意見を共有し、主体的に学習に取り組める授業を展開していく。

3 本校研究主題との関連について

○本校研究主題「諸問題を自力解決できる生徒の育成」

・教科研究主題「自然を主体的に調べる授業の展開」

本校では、課題を意識せずに観察や実験に取り組む生徒がいる。一人一人が自ら課題を持って観察、実験に取り組み、自然の事物・現象を主体的に学ぶ姿勢を養うことが課題である。その課題を達成するために、少人数による実験の実施、話し合いによる意見の共有、レポート課題における考察の機会の確保などの取り組みを行い、課題の解決を図っている。

4 単元目標

理科の見方・考え方を働かせて、水溶液の電気的な性質、酸とアルカリ、イオンへのなりやすさについての観察、実験などを行い、水溶液の電気伝導性、中和反応、電池の仕組みについて、イオンのモデルと関連付けて微視的に捉えさせて理解させ、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。

5 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
化学変化をイオンのモデルと関連付けながら、水溶液とイオン、化学変化と電池を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	化学変化について、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連付けて結果を分析して解釈し、その規則性や関係性を見いだして表現している。	化学変化とイオンに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

6 本時の目標

酸・アルカリへの特性について、イオンと関連付けて理解しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

7 本時の展開

	学習活動	○教師の働きかけ ・予想される生徒の反応	評価規準及び指導上の留意点
導入	1. 既習事項の確認	○イオンの基本的な性質を確認する。	○イオンの電気的な性質を事前に確認し、これからの学習に紐づけられるようにする。
	2. 学習課題の提示	○本時の課題を提示し、授業の流れを確認する。	
課題 酸・アルカリの性質から、その正体を探ろう			
展開	3. 現状の把握	○酸・アルカリについて知っていることを周りの人と確認をする。 ・リトマス紙に反応して色が変わる。 ・BTB 液に反応して色が変わる。 ・フェノールフタレイン溶液と反応して色が変わる。	○周りの人と意見を共有し、意見を出しやすい時間を作る。
	4. 班で話し合う	○既習知識、ヒントカードをもとに班員で話し合い、酸・アルカリの正体について考える。	○机間指導を適宜行い、生徒の活発的な話し合いを促す。 ○タブレットを通してヒントカードを配り、困っている生徒の支援を行う。
	5. 各班の意見を共有する。	○教師用タブレットに各班の意見を提出してもらい、全体に共有する。	〈主体的に学習に取り組む態度〉 自分の知識や友達の意見、ヒントをもとに、酸・アルカリの正体を探っている。【机間指導】
まとめ	6. 話し合いのまとめ	○生徒たちが話し合った内容をまとめる。	○正解にたどり着かなくても、理論的な考察がなされた結果であれば、それを本時のまとめとする。
	まとめ 酸の正体は水素イオンであり、アルカリの正体は水酸化物イオンである。		
	7. 授業のまとめ	○次回、実験で酸・アルカリの正体を確認することを伝える。	○生徒が次の実験に対する興味・関心を持った状態で終わられるように、話を展開する。

第3学年4組 社会科（公民的分野）学習指導案

日 時 令和5年10月16日（月）第2校時
場 所 3 年 4 組 教 室
在籍数 男子16名，女子19名，計35名
授業者 教諭 岡 直 樹 印

1 単元名 第3章 現代の民主政治と社会

2 節「国の政治の仕組み」 1 「国会の地位と仕組み」（東京書籍『新しい社会 公民』）

2 単元について

（1）教材観

本単元は学習指導要領地理的分野の内容 C「私たちと政治」のうち、(2)「民主政治と政治参加」の（ア）「国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解すること」に基づき、設定したものである。主なねらいは、法に基づく民主政治との基本となる考え方に関する理解をもとに、民主政治の推進と公正な世論の形成や選挙などの国民の政治参加との関連について考察、表現する活動を通して地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚を育成することである。

（2）生徒観

本学級の生徒に「国の政治の仕組みについて知っているか・政治に関心はあるか」などのアンケートをとると「あまり知らない・あまり関心はない」という回答が多かった。まだ政治参加できる年齢ではないこと、政治は難しそうと考える生徒が多い。生徒たちは一生懸命授業に取り組むが思考・判断・表現力が問われる取り組みに対しては消極的になりがちな実態がある。

（3）指導観

本時の授業では「国会の地位と仕組みはどのようなになっているのか？」という課題を設け、国会が国民の代表者によって構成される国権の最高機関であり、国の唯一の立法機関であることを理解させたい。また、二院制の意義についても民主政治との関わりから考えさせ自分の言葉で表現させたい。

3 研究主題との関わり

「諸問題を自力解決できる生徒の育成」

教科研究主題 ～言語活動の充実を軸とした指導と評価を一体化したシステムの構築～

手だて：発表を充実させた授業展開・話し合い活動による発言機会の充実・自身の発言を振り返る場面設定

4 単元のねらい

国会を中心とする民主政治の仕組みを理解させるとともに、民主政治と政治参加における現代の課題を多面的・多角的に考察し表現していく中で主体的に自ら社会に関わろうとする姿勢を育成する。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みや政党の役割を理解している。 ○国民の権利を守り、社会秩序を維持するうえで法に基づく公正な裁判の保障があることを理解している。	○個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して民主政治と国民の政治参加との関連について対話的な活動を通じて多面・多角的に考察し表現している。	○民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題解決に向けて自ら主体的に社会に関わろうとしている。

6 指導計画（9時間扱い）

- | | | | |
|---------------|----------|----------------|------|
| ① 国会の地位と仕組み | …1時間（本時） | ⑥ 裁判所の仕組みと働き | …1時間 |
| ② 法律や予算ができるまで | …1時間 | ⑦ 裁判の種類と人権 | …1時間 |
| ③ 行政を監視する国会 | …1時間 | ⑧ 裁判員制度と司法制度改革 | …1時間 |
| ④ 行政の仕組みと内閣 | …1時間 | ⑨ 三権の抑制と均衡 | …1時間 |
| ⑤ 行政の役割と行政改革 | …1時間 | | |

7 本時の学習指導（第1/9校時）

（1）目標

- ・国会の地位と仕組みについて理解する。（知識・技能）
- ・国会が「国権の最高機関」とされている理由を民主主義に着目して考察し、適切に表現する。

（思考・判断・表現）

（2）本時の展開

	○学習内容	◇学習活動 ■生徒の反応	●指導上の留意点 ◎評価
導入 10分	○国会議員の活動 ○国会議員の地位	◇国会議員が普段どんな仕事をしているか教科書で確認する。 ◇国会議員の議員特権について考える。	●チャイム着席をする。 ●教科書の資料を使いながら説明し、生徒へ理解させる。 ●議員特権が給料だけに目がいかないよう民主主義の観点から考えさせる。
展開 35分	○学習課題を確認する ○国会の種類 ○国会の地位 ○二院制	◇国会議員が働く国会の種類について理解する。 ◇日本国憲法で確認する。 ◇国会が国権の最高機関とされる理由を考える。 ◇教科書を使い違いを確認する。 ◇なぜ違いが必要なのかを考えさせる。	●ワークシートに簡潔にまとめさせる。 ●国民主権や法の支配など既習事項を踏まえて考えさせる。 ◎国会の地位と仕組みについて理解することができる。（知・技） ◎国会が「国権の最高機関」とされている理由を民主主義に着目して考察し、適切に表現することができる。（思・判・表） ●選挙制度の違いに着目させて考えさせる。
終末 5分	○本時の課題についてまとめる。	◇学習課題に対するまとめを書く。	

8 板書計画

学習課題 国会の地位と仕組みはどのようなになっているのか？ ワークシートの答え まとめ

特別支援学級 作業学習指導案

令和5年10月16日(月) 第2校時
 場所 特別支援学級 E教室
 生徒 男子13名 女子7名 計20名
 指導者 山際 洋一(T1) 大山 孝一(T2)
 影山 順子(T3) 小野口大輔(T4)
 補助員 齋藤 園枝(T5)

1 主題名 どんぐり工作

2 ねらい

生徒自ら学校敷地内で取ったどんぐりを使って作品を作り、本校の研究主題である「諸問題を自力解決できる生徒の育成」を目指し、「生活する力」や「働く力」の基となる知識・技能の習得や、実践的な態度を育てる。

3 主題設定の理由

本学級の生徒は、自情学級在籍の生徒が多く、感情をコントロールすることが苦手な生徒もいる。自ら題材を選び、作品作りでうまくいかないところは周りの生徒や教員に聞きながら作業し、さらに出来上がった作品をお互いに良い意味で評価できる関係を作りたい。

4 生徒の実態及び個人のねらい

(知的学級)	生徒の実態	個人のねらい
1年男子 M	物作りは好きだが、細かい作業が苦手。	途中で投げ出さず、作品を完成させる。
1年女子 T	好きなことには集中して取り組む。	自ら選択した課題に取り組む。
2年男子 H	絵が上手で丁寧に作品を作る。	細かい点に注意して作品を仕上げる。
2年男子 K	絵が上手であるが、時間がかかる。	時間配分に気を付けながら作業する。
2年女子 I	細かい作業は苦手、手が震える。	自信を持って作業に取り組む。
3年男子 S	細かい作業は苦手、配色が雑である。	見本をしっかりと見て、作品を仕上げる。
3年女子 F	理解能力が低く、多くの支援が必要である。	わからないところや難しいところを自分勝手に進めず、自分で助けを求める。
3年女子 M	絵に対する苦手意識があり、早く終わらせようとする傾向がある。	細かい点に注意して、丁寧に作品を仕上げる。
(自情学級)	本題材に関する生徒の実態	個人目標
1年男子 M	物作りは好きだが、対人トラブルが多い。	作品作りに集中して取り組む。
1年男子 Y	多弁で注意が逸れやすい。	作品作りに集中して取り組む。
1年男子 S	苦手な活動への参加を嫌がることがあり、気分がむらがある。	途中で投げ出さず、作品を完成させる。
2年男子 S	意欲的に学習に取り組む。	丁寧に作品を仕上げる。
2年男子 T	うまくいかない途中で作業を投げ出してしまふことがある。	途中で投げ出さず、作品を完成させる。
2年男子 I	うまくいかないでイライラして自暴自棄になる。	支援も受けながら、作品を完成させる。
2年女子 T	絵を描くのが上手だが、集中力が続かない時がある。	最後まで集中して作業に取り組む。
2年女子 S	今年度はサポート校に登校している。	授業に参加して課題に取り組む。
2年男子 H	日本語わからない。課題に取り組まないことがある。	支援も受けながら、作品を完成させる。
3年男子 M	絵は上手で、意欲もある。	細かい点に注意して作品を仕上げる。
3年男子 Y	今年度はサポート校に登校している。	授業に参加して課題に取り組む。
3年女子 A	理解力はある。絵には少し苦手意識がある。	最後まで集中して作業に取り組む。

5 本時の展開

時間	学習活動	○生徒の活動 ◎予想される生徒の反応 □指導者主な指示・発言等 ※支援の手立て ◇評価の観点	備考
導入	1 あいさつをする 2 本時のねらいと作業内容を知る	○係の生徒の号令で授業を始める。 □本時のねらい「やり方を聞いたり、教えたりしながら作品を完成させよう」を伝える。 □作業テーブルごとに用意されている道具の説明をする。 ○自分の作業に必要な物がどこにあるか考える。 教室配置 黒板 A (T 2) B (T 1) C (T 5) D (T 4) E (T 3)	PC TV どんぐり 油性ペン アクリル絵の具 修正液 説明書
	3 作業を開始する	○自分の選んだ対象物があるテーブルに移動して、作業をはじめめる。テーブルが込み合っている場合は、他のテーブルに移動する。 ◎どこに行けばよいかわからず、すぐ行動に移せない。 □作業を始められない生徒へ声掛けをする。場合によっては、何から始めるか一緒に考える。 □作業内容によっては、絵の具等が乾いてから次の作業に移るものもあるので、様子を見ながら、他のテーブルで作業するように指示する。 ○やり方がわからないものや難しい場合は、友達や教師に教えてもらいながら、作業を進める。 ※テーブルごとに教員を配置し、うまく作業できない生徒の支援を行う。場合によっては生徒同士での教え合いを促す。 ◇個々の生徒の状況に応じて、最後まであきらめずに集中して取り組んでいるか。	
展開			
終末	4 片付け 5 自己評価	○アクリル絵の具のパレットと筆を協力して洗う。その他の道具を元あった場所に整える。 ○今日の自分の行動を振り返る。	ワークシート

第 3 校時

授業	学年・組	教科	授業者	授業会場	ページ番号
公開	1 年 3 組	国語	伊藤 健紀	1 年 3 組	
	1 年 6 組	社会	安藝 拓人	1 年 6 組	
	2 年 1 組	英語	小森 樹	2 年 1 組	
	2 年 2 組	数学	松井 悠貴	2 年 2 組	
	2 年 3 組	英語	永井 清一	2 年 3 組	
	2 年 4 組	数学	和田 正明	2 年 4 組	
	3 年 3 ・ 4 組	保健体育	大嶋 澄子	校庭	
	3 年 5 組	理科	白石 英之	3 年 5 組	
	特別支援学級	自立活動	大山 孝一	B 教室	

第1学年3組 国語科学習指導案

日 時 令和5年10月16日(月) 第3校時
指導学級・人数・場所 第1学年6組 37人 教室
指導者 伊藤 健紀

1 単元名 音読を楽しもう 「いろは歌」(光村図書)

2 生徒の実態と本単元の意図

本学級の生徒は、意欲的に授業に取り組むことができるが、自分の意見や考えがまとめられず、自信をもって発言できない生徒もいる。自分の意見を説明したり、発信することに対しての苦手意識をなくしたりするために、自分の考えを持たせてから小グループでの課題解決活動に取り組んでいる。また、教え合い活動、他の意見と自分の意見を比較し、自分の考えを深めながら発信できる力を養っていきたい。

本教材「いろは歌」は、仏教思想を基調としているが、一語一語吟味していくと、不明瞭な部分があり、結局はよくわからないところも残る。しかし、細かい解釈こそ明瞭ではないところもあるが、「生」に向き合い「生き方」に思いをはせることのできる深い意味を持つものともいえる。ここでは、大まかな意味を知り、全体を「なんらかの言葉の続き」として捉えられれば、より楽しい音読につながるだろう。

3 本校研究主題との関連について

○本校研究主題「確かな学力の育成と豊かな学びの実現を図る学習指導」

上記の研究主題を受けて、国語科では、「手立ての充実による基礎学力の定着・向上」を念頭において、毎時の授業を行っている。本単元においては、①言語環境を整える雰囲気作り、②生徒の興味を喚起させる課題の設定、③ねらいの提示、④ペアによる教え合いや話し合いの時間の確保、などに留意し、学力を向上させたい。

4 単元の目標

- (1) 音読に必要な文語のきまりを知り、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。
〈知識及び技能〉(3)ア
- (2) 言葉が持つ価値に気づくとともに、我が国の言語文化を大切にし、思いや考えを伝え合おうとする。
〈学びに向かう力、人間性等〉

5 単元の評価規準

知識・技能	主体的に学習に取り組む態度
① 音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。	① 言葉が持つ価値に気づくとともに、進んで音読し、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。

6 本時の学習(1/1時間目)

(1) 目標

- 音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。
【知識・技能】
- 言葉が持つ価値に気づくとともに、進んで音読し、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 評価規準

- 音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。 【知識・技能】
- 言葉が持つ価値に気づくとともに、進んで音読し、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1 本時の学習の目標を知る。【全体】	《めあて》古典の世界に親しむために、古文を音読しよう。	
2 「いろは歌」原文を読む。【個人・ペア・全体/教科書】	○歴史的仮名遣いの確認 ○七五調のリズム	○「ゐ」と「ゑ」の読み方を確かめる。 ○七五調のリズムを感じさせるために、間を取りながら繰り返し読む。
3 「いろは歌」の特徴、大まかな意味を知る。【全体】	○意味の確認	○【出典】を手掛かりにして、特徴を確認させる。 ○原文と中段、下段を対比させながら意味を確認する。
4 「いろは歌」を音読する。【個人・ペア・全体/教科書】	○音読	○歴史的仮名遣いのまま繰り返し音読する。 【知識・技能①】観察 (Aとなる生徒) ・歴史的仮名遣いの読み方や間に注意して読むことができる。 (「努力を要する」状況(C)への手立て) ・ペンを持たせ、振り仮名をつけさせたり、間を取ったところに「/」を書かせたりなどを助言する。
5 本時の振り返りをする。【個人】	○振り返り	

(4) 板書案

いろは歌	【めあて】 古典の世界に親しむために、古文を音読しよう。	いろはにほへと ちりぬるを わかよたれそ つねならむ うゐのおくやま けふこえて あさきゆめみし ゑひもせす
------	---------------------------------	---

第1学年6組 社会科（地理的分野）学習指導案

日 時 令和5年10月16日（月） 3校時
場 所 1年6組教室
指導者 安 藝 拓 人
在籍数 男子23名 女子14名 計37名

1 単元名 第2編 世界の様々な地域

第2章「世界の諸地域」3節「アフリカ州」（東京書籍『新しい社会 地理』）

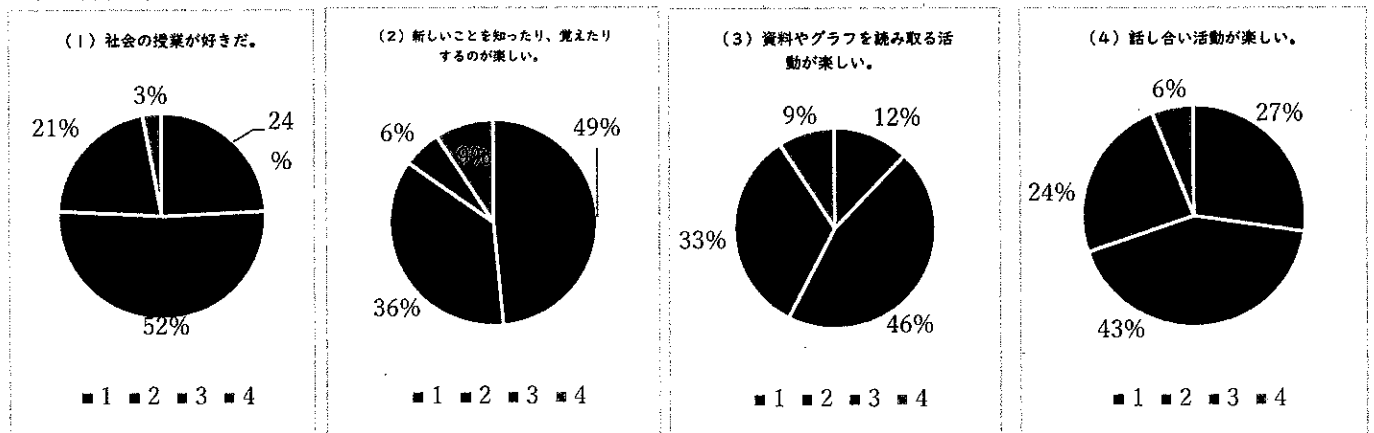
2 単元について

（1）教材観

本単元は中学校社会科学学習指導要領地理的分野のB（2）世界の諸地域を受けて設定したものである。この単元では、世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて現れ方が異なることを理解することが求められている。また、アフリカ州において、地域でみられる地球的課題の要因や影響として、経済問題や国際的支援の必要性について取り上げる。地域内の結びつきや、地球的規模の結びつきに着目し、アフリカ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題の解決について考察できるようにしていく。

（2）生徒観

社会科に関わるアンケートは以下の通りである。



1…とてもそう思う。2…思う。3…あまり思わない。4…思わない。

以上の結果から、社会の学習に意欲的に取り組むことができる生徒が多いことが分かる。また、話し合い活動についても前向きに取り組む生徒が多くいるため、学習活動において話し合い活動を積極的に取り入れつつ、新しい知識等を身につけていきたい。また、資料等の読み取りについては苦手意識を持っている生徒もいる。苦手意識が改善されるよう、丁寧に指導を繰り返し、力をつけていきたい。

（3）指導観

地理的分野における、世界の諸地域の学習は報道などから生徒が身近に感じることができ、興味を持たせながら学習を進めることが重要である。また、アフリカ州においては、その地域の特徴は、自然環境や人口問題と関連付けやすい単元である。本単元の学習では、アフリカ州の地域的課題に対して主体的に取り組むよう学習課題を設定し、グループでの活動を通して地域の特徴をつかみ、アフリカ州が抱える課題解決に向けて考察させられるよう、指導していく。

3 研究主題との関わり

「諸問題を自力解決できる生徒の育成」

教科研究主題 ～言語活動の充実を軸とした指導と評価を一体化したシステムの構築～

手だて：発表を充実させた授業展開・話し合い活動による発言機会の充実・自身の発言を振り返る場面の設定

4 単元のねらい

アフリカ州が抱える地域的特色を、自然環境や人口分布、土地利用との関連に気づかせ、地球的課題（資源・エネルギー問題、人口、食料問題等）から理解させる。

5 単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
アフリカ州で起こっている地球的課題は、それがみられる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。	アフリカ州において、地域でみられる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	アフリカ洲について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

6 指導計画（3時間扱い）

	主な学習内容	学習目標
1 (本時)	1 アフリカ州をながめて 広大な砂漠が広がるアフリカ サハラ砂漠の北と南 アフリカの歩み	・アフリカ州の自然、歴史と文化、産業の特色について、雨温図、分布図、写真などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。(知識・技能) ・アフリカ州の地域的特色を理解するために、「アフリカ州では、なぜ国際的な支援が必要とされているのか。」という課題をたて、見通しをもって主体的に追究する。(主体的に学習に取り組む態度)
2	2 アフリカの産業と新たな開発 世界に輸出されるカカオ	・アフリカ州のプランテーション農業やモノカルチャー経済の実態について、主題図や貿易統計から読み取る。(知識・技能)
3	3 発展に向けた課題 民族分布と国境	・州の二つの写真および、アフリカ各地域と日本、世界における平均寿命を比較し、その共通性と相違点について考察する。(思考・判断・表現)

7 本時の学習指導（第1/3校時）

- (1) 目標：アフリカ州の自然、歴史と文化、産業の特色について、雨温図、分布図、写真などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。(知識・技能)

アフリカ州の地域的特色を理解するために、「アフリカ州では、なぜ国際的な支援が必要とされているのか。」という課題をたて、見通しをもって主体的に追究する。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 本時の展開

過程	○学習内容	◇学習活動 ■生徒の反応	●指導上の留意点 ◎評価
導入 10分	○アフリカ州のイメージ	◇写真などからアフリカ州について知っていることを問う。 ■砂漠 暑い	●生徒の興味、関心を引き出すようにする。
	学習課題：アフリカ州にはどのような特色がみられるのだろうか。		

展開 15分	○アフリカ 州の地形や 文化	◇地図帳や教科書を使用し、アフリカ州の地形 や文化を確認する。 ■配付プリントを使用し、グループごとに調べ て記入し、共有する。	●プリント等を使用し、テン ポよく進める。 ◎アフリカ州の特色につい て、諸資料から読み取り、知 識を身に付けている。(知・技)
展開 20分	○アフリカ 州の課題	◇アフリカ州の探求課題について、予想する。 探究課題：アフリカ州では、なぜ国際的な支援が必要とされているのだろう ■自然環境、文化など、学習した内容と関連付 けながら探究課題について予想する。	◎課題をたて、見通しをもっ て主体的に追究する。(態)
終末 5分	○まとめ	◇本時に学習したことや予想から、探究課題解 決への見通しをたてる。	●生徒の意見を取り上げて、 次時以降の学習にいかすよう にする。

8 板書計画

アフリカ州をながめて

アフリカ州にはどのような特色があるのだろう

- ・アフリカ州について知っていること

◎文化

北部…イスラム教、アジア、ヨーロッパ料理
南部…キリスト教、いも、とうもろこし料理

◎歴史

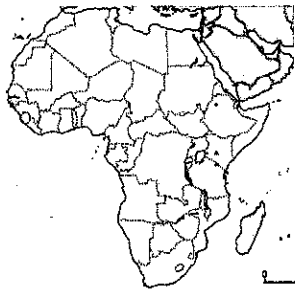
19世紀…ヨーロッパ諸国の植民地

探究課題

アフリカ州では、なぜ国際的な支援が必要と
されているのだろう

予想

・アフリカ州の地形



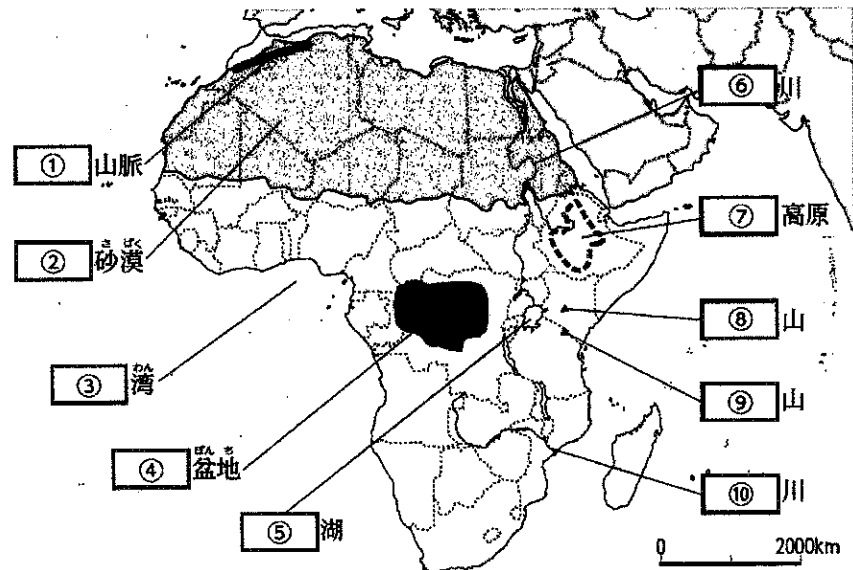
ナイル川
サハラ砂漠

アフリカ州をながめて

【教科書 p 90～】

空欄に当てはまる地形の名称を調べよう。

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦
- ⑧
- ⑨
- ⑩



【気候】

- ・赤道付近……熱帯 → その北部と南部はサバナが広がる
- ・回帰線付近……乾燥帯
- ・地中海沿岸、アフリカ南部…温帯
- ・キリマンジャロ山……高山気候

【人口】

人口密度が多い→ナイル川沿岸、地中海沿岸、ギニア湾沿岸
人口密度が少ない→サハラ砂漠

【サハラ砂漠の北と南】

北部：イスラム教 アジアやヨーロッパの料理
南部：キリスト教 伝統的ないも、とうもろこし料理

【アフリカの歩み】

- 古代 エジプト文明
- 16世紀 アメリカ大陸に奴隷として送られる
- 19世紀 ヨーロッパ諸国の植民地
- 現在 欧米諸国や日本から経済援助を受ける

第2学年1組 英語科学習指導案

日 時 令和5年度10月16日(月) 第3校時
 生徒数 40名
 場 所 2年1組 教室
 指導者 小森 樹

1 単元名

Unit 4 Tour in New York City (Here We Go English Course2)

2 単元目標

- 文法指導については、There is / are ～.、動詞+O1+O2の語順、不定詞(形容詞的用法)を用いて、身近な題材を通して口頭練習を中心としながら、スムーズに運用できるように慣れさせる。
- (ア) ジェスチャーゲームなどを用いて、生徒が興味・関心を持てるようにし、英語を使ってみようという雰囲気をつくるようにする。
- (イ) 友達同士や教師との対話を通して、英語が使えた、自分の言いたいことが通じたなどの達成感を生徒が実感できるようにする。
- (ウ) 生徒にとって身近な出来事を用い、それらを表す表現・用法を理解し、運用できるようにする。

文法指導を踏まえて、Round 3における「穴あき・並び替えリーディング」につなげて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成出来るよう、グループ活動やペアワークなどの学習形態を工夫し、授業を進めていきたい。

3 生徒の実態

クラスの雰囲気は明るく、全体的に英語を用いて積極的にコミュニケーション活動に取り組むことができる。間違いを恐れずに積極的に発言できる生徒が多い。新出単語や新出事項では口頭練習や音読練習、また、口頭練習や音読練習でよく声が出ることを生かし、発表や表現の時にも間違いを恐れずに活動できるように指導したい。一方で、基本的な学習習慣が定着していない生徒もあり、そのような生徒を支援、指導していくことが課題である。

4 本校の研究テーマ

令和5年度 研究テーマ「諸問題を自力で解決できる生徒の育成」

教科研究主題「基礎的・基本的な内容の定着を図り、表現力を高める指導の工夫」

5 単元の指導計画

指導計画 (Round3 4時間扱い・本時 3/4)

時 数	課	目標
第1時	There is / are ～.	There is / are を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。
第2時	動詞+O1+O2の語順	動詞+O1+O2の語順を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。
第3時(本時)	不定詞(形容詞的用法)	不定詞(形容詞的用法)を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。
第4時	穴あき・並び替えリーディング	穴あき・並び替え音読による音読活動を通して、文構造や内容を理解する。

6 本時の単元の評価規準

知識・技能	・不定詞(形容詞的用法)を用いた文の形・意味・用法を正確に理解している。
	・不定詞(形容詞的用法)を用いた文の形・意味・用法を正確に理解し、英語を運用している

7 本時の学習

(1) 本時の目標

- ①友達同士や教師との会話の中で、不定詞（形容詞的用法）を用いて、自分の考えや意見を表現するための口頭運用ができる。
- ②不定詞（形容詞的用法）を用いた言語活動を通して、不定詞（形容詞的用法）の用法や意味を理解し、適切に使用することができる。

(2) 展開

過程	学習活動	学習内容	・指導上の留意点 ◎評価
導入 10分	挨拶 Small Questions Small Talk Warm-up	Q:How's the weather today? What day is it today? What's the date today?など ペアになり、Small Questions をお互いに行う。 英語でしりとり ・英単語を用いたしりとりを行う。	・英語でやりとりしながら始めることにより、英語の授業への切り替えを行う。
展開 30分	Introduction Activity Practice	・「何をするためのもの」を実際の動作を見せながらオーラルイントロダクションで導入する。 (例)I have water to drink. I have water to give flowers. I have water to wash my face. ・不定詞（形容詞的用法）を用いた表現の練習をする。 ・不定詞（形容詞的用法）用いて、カードを使った活動を行う。 ・学習した新出事項を用いて、英文を作って表現する。 (GIGA 端末使用)	・正しい文法を用いて、不定詞（形容詞的用法）を作ることができるように、繰り返し練習と指導を行う。 ◎不定詞（形容詞的用法）を用いた英文を正しく用いて活動している。 (活動観察) ◎不定詞（形容詞的用法）を用いて、正しく英文を作ることができる。 (Forms を活用)
まとめ 10分	板書事項をノートにまとめる。	(例)I want <u>something</u> to eat. I want <u>something</u> to stay. I have <u>a lot of homework</u> to do. など	

8 板書計画

October 16, Monday	
何するためのものかな？	①I want <u>something</u> / <u>to eat</u> .
water to drink	食べるための物＝食べ物
to eat	
to wash my face	②I have <u>a lot of homework</u> / <u>to do</u> .
	するための宿題＝やらなければならない宿題

第2学年2組 数学科学習指導案

日 時 令和5年10月16日(月) 第3校時
場 所 川口市立青木中学校 2年2組 教室
生徒数 男子20名 女子19名 合計39名
授業者 教諭 松井 悠貴

1 単元名 4章 図形の調べ方

2 単元について

(1) 教材観

第1学年では、図形についての豊かな感覚を育み、図形についての理解を深めるとともに、論理的に考察し表現する力を養ってきている。

第2学年では、三角形や四角形などの多角形の角の大きさについての性質を、数学的な推論を用いて調べることができるようにする。その際、図形をよく観察したり、作図したりする操作や実験などの活動を通して、その推論の過程を他者に伝わるように分かりやすく表現できるようにする。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、個人で粘り強く考えることが難しい生徒が多い。そのため、本時の授業では班での学び合い活動を通し、一つの問題に対して粘り強く考える態度を養いたい。また、他者に自分の考えを説明する力も育てていきたい。

(3) 指導観

本時では、補助線を引くことで、既習事項の対頂角、平行線の性質、三角形の内角の和や外角の性質、多角形の内角の和・外角の和などを利用し角度を求めようとする、また、根拠を明らかにして説明していくことがねらいである。

3 本校研究主題との関連について

○本校研究主題「諸問題を自力解決できる生徒の育成」

本校研究主題に迫るために、数学科研究主題を「基礎学力の定着と論理的な表現の向上」とし、日々の指導にあたっている。毎回、授業の開始時には、本時の授業内容を提示し、生徒一人一人にしっかりと課題意識を持たせるようにするとともに、授業最後には、学習内容や理解したこと、今後の課題などのまとめを生徒自身のことばで書くことにより、何を学んだのか振り返りを行い、授業内容を理解できたかどうか把握し、次の授業へとつながるようにしている。また、基礎・基本の定着が重点努力事項と考え、小単元毎の小テストの実施、学習課題の精選および課題達成状況をプリントに視覚化すること、ペア学習やグループ学習の工夫、優秀レポートの構内掲示などを実践し、生徒一人として、取りこぼすことのないよう指導を行っている。

4 単元目標

- (1) 平行線や角の性質を理解している。多角形の角についての性質を見いだすことができる。平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解している。証明の必要性と意味及びその方法について理解している。【知識及び技能】
- (2) 基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質をもとにしてそれらを確かめ説明することができる。三角形の合同条件などをもとにして図形の性質を論理的に確かめることができる。【思考力、判断力、表現力】
- (3) 図形の性質などを証明することのよさを実感して粘り強く考え、平面図形の性質について学んだ

ことを生活や学習にいかそうとしたり，平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりする態度を身につける。【学びに向かう力，人間性等】

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①対頂角，同位角，錯角の意味を理解している。 ②合同な図形の性質や，三角形の合同条件の意味を理解している。 ③証明の進め方について理解している。	①対頂角や平行線の性質を見いだし，根拠を明らかにして説明することができる。 ②多角形の内角の和や外角の和などを予想し，それが正しいことを考察し表現することができる。 ③図形の性質を証明するために，見通しを立てて証明をすることができる。	①多角形の内角の和や外角の和についての性質を見いだそうとしている。 ②三角形の合同条件を用いて，2つの三角形が合同であるかどうかを考えようとしている。 ③図形の性質などを証明することの必要性和意味を考えようとしている。

6 指導計画（16時間）

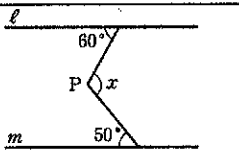
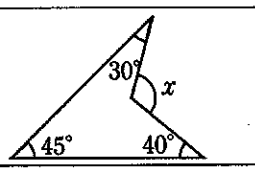
1. 角と平行線（3時間）
2. 多角形の角（4時間）
3. 三角形の合同（3時間）
4. 証明とそのしくみ（2時間）
5. 証明の進め方（2時間）
6. 章末問題（2時間）

7 本時の指導計画（本時 7 / 16）

①本時の目標

・へこみのある図形の角をいろいろな方法で求めようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

②本時の展開

段階 時間	学習活動	教師の指導（○） 予想される生徒の反応（・）	・指導上の留意点 □評価の視点
導入 5分	学習目標の提示 前時までの復習	○前時までの学習内容を振りかえる。	
展開 42分	1 問題1に取り組む。 問題1 右の図で$l \parallel m$のとき，$\angle x$の大きさを求めなさい。  2 補助線の引き方についてまとめる。 ・平行線の性質を使う ・三角形の外角の性質を使う ・多角形の角の性質を使う 3 問題2に取り組む。 問題2 右の図で，$\angle x$の大きさを求めなさい。 	○発表をさせる。	・補助線を引くことで，既習事項が使えないか考えさせる ・学習が進んでいる生徒には補助線の引き方が他にないか考えさせる □いろいろな補助線を引き，角度を求めようとしている 【主体的に学習に取り組む態度】 ・根拠を明らかにして説明できるように指導する
まとめ 3分	本時の振り返りを行う。	○本時の内容について振り返れるように意識する。	

第2学年3組 英語科学習指導案

日 時 令和5年10月16日（月）第3校時

生徒数 40名

場 所 2年3組 教室

指導者 永井 清一

1 単元名

Unit4 Tour in New York City

(Here We Go English Course2)

2 単元目標

文法指導では、**There is/are**構文、授与動詞＋人＋物の語順、不定詞（形容詞的用法）を用いて、身近な題材を表現できるようになる。また、簡単な演習問題を答えられるようになる。

（ア）身近な題材を繰り返し表現することで、自分自身のことを自然に英語で話せるようになる。

（イ）2～3人での言語活動を通して、コミュニケーション能力を高めることができる。

（ウ）できるかぎりのヒントを出すことで、自分で答えることができたという達成感を味わえる。

文法指導と併せて、**Round3**の「穴あきリーディング」を通して5ラウンド方式の最終目的である**Story Retelling**の素地を築くことができる。

3 生徒の実態

クラスの雰囲気は明るく、英語を用いて積極的にコミュニケーション活動に取り組むことができる。間違いを恐れずに自分自身のことを英語で表現できる生徒が多い。ただ、個々での発表では、やや声が小さくなってしまいう傾向がある。自信をもって表現できるように繰り返し表現活動に取り組んでいきたい。

4 本校の研究テーマ

令和5年度 研究テーマ「諸問題を自力で解決できる生徒の育成」

教科研究主題「基礎的・基本的な内容の定着を図り、表現力を高める指導の工夫」

5 単元の指導計画

指導計画（**Round3** 4時間扱い 本時 3／4）

時数	基本文の文法事項	目 標
第1時	There is/are 構文	There is 構文の用法を理解し、表現できる。
第2時	授与動詞＋人＋物の語順	授与動詞＋人＋物の用法を理解し、表現できる。
第3時	不定詞（形容詞的用法）	不定詞（形容詞的用法）の用法を理解し、表現できる。
第4時	穴あきリーディング	本文の穴あき英文を繰り返し音読練習することで、欠けた部分を補いながら表現できるようになる。

6 本時の単元の評価規準

知識・技能	・不定詞（形容詞的用法）を用いた文を積極的に表現できる。	話す
	・不定詞（形容詞的用法）の演習問題に積極的に取り組むことができる。	書く

7 本時の学習

(1) 本時の目標

- ①不定詞（形容詞的用法）を用いた身近な文章を意味を理解しながら表現できる。
- ②不定詞（形容詞的用法）の演習問題を教師のヒントをもとに答えることができる。
- ③自分自身に関する身近なテーマ（趣味）の英文を発表することになれる。

(2) 展開

過程	学習活動	学習内容	指導上の留意点（◎評価）
導入 10分	Greeting Warm-up 〈スピーキングタイム〉	Good morning. How are you? What day is it today? What's the date today? How is the weather today? テーマ：「私の趣味」の英文を5回読む。 縦1列発表する。	英語を話す雰囲気をつくる。 ◎元気よく 自分の趣味を語る英文に熟達する。 ◎人に聞かせるように話す。
展開 35分	Introduction Practice① Activity Practice②	教科書P. 57のListeningを行う。 This is a place to～.の意味に気づく。 This is a place to～.を用いて、restaurant他5つの場所を説明する英文を教師の後についてrepeat練習する。 教科書P. 57のspeakを使って、2～3人でCommunication活動を行う。 例This is a place to eat something. Is it a restaurant? That's right. プリントを使って、基本文のまとめと演習問題に取り組む。	◎集中して聞く。 意味を理解しながら練習する。 ◎元気よく ◎集中して会話をする。 ◎集中して取り組む。
まとめ 5分	振り返りシートをつける。	○今日の授業内容 ○今日がんばったこと ○今日できたこと ○感想	◎集中して書く。

第2学年4組 数学科学習指導案

日 時 令和5年10月16日(月) 第3校時
場 所 川口市立青木中学校 2年4組 教室
生徒数 男子21名 女子18名 計39名
授業者 教諭 和田 正明

1 単元名 図形の調べ方

2 単元について

(1) 教材観

小学校では、第4学年までに、三角形や四角形、二等辺三角形、正三角形、平行四辺形、台形、ひし形などについて理解し、第5学年では図形の合同、第6学年では縮図や拡大図及び図形の対称性について理解してきている。中学校においては、第1学年で、図形の作図や移動を取り扱っている。また、空間における直線や面の位置関係を知り、空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されているものと捉えたり、平面上に表現したり読み取ったりしている。さらに、扇形の弧の長さや面積、基本的な柱体、錐体および球の表面積と体積が求められるようにしている。第2学年では、多角形の角の大きさについての性質を、数学的な推論を用いて調べることができるようにし、その推論の過程を他者に伝えるように分かりやすく表現できるようにしていく。数学的な推論の必要性や意味および方法の理解を深め、論理的に考察し表現する力を養い、第3学年での図形の相似についての学びに繋げていきたい。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、学習に対して前向きに取り組む生徒が多く、数学についても同様である。しかし、クラス全員の前で自分の意見を発表することに抵抗を感じている生徒が多いため、授業中の挙手が比較的少ない状況である。そのため、授業の中で学びあい活動を積極的に取り入れ、数学的な用語を用いて説明する経験を多く積ませることで、人に説明をすることへの自信をつけさせていきたいと考えている。基礎・基本がなかなか定着しない生徒に対しては、個別に対応し、まずは理解を深めさせていきたい。

(3) 指導観

計算を得意とする生徒でも証明を苦手とする生徒は多く、論理的な思考力やそれを表現する力がまだ不足していると感じている。図形の性質についての理解を深め、図形の性質を通して、論理的に確かめ、表現する力を養っていきたい。また、一つの性質を証明するにあたり様々な考え方がある場合、一つの解法に拘らず、それぞれの良さを味わわせていきたい。

3 本校研究主題との関連について

○本校研究主題「諸問題を自力解決できる生徒の育成」

数学科研究主題を「基礎学力の徹底と論理的な表現の向上」とし、日々の指導にあたっている。毎回、授業の開始時には、本時の授業内容を提示し、生徒一人一人にしっかりと課題意識を持たせるようにするとともに、授業最後には、学習内容や理解したこと、今後の課題などのまとめを生徒自身のことばで書くことにより、何を学んだのか振り返りを行い、授業内容を理解できたかどうか把握し、次の授業へとつながるようにしている。また、基礎・基本の定着が重点努力事項と考え、小単元毎の小テストの実施、学習課題の精選および課題達成状況をプリントに視覚化すること、ペア学習やグループ学習の工夫、優秀レポートの構内掲示などを実践し、生徒一人として、取りこぼすことのないよう指導を行っている。

4 単元目標

- (1) 平行線や角の性質を理解している。多角形の角についての性質を見いだすことができる。
平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解している。証明の必要性和意味及びその方法について理解している。【知識及び技能】
- (2) 基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質をもとにしてそれらを確かめ説明することができる。三角形の合同条件などをもとにして図形の性質を論理的に確かめることができる。

【思考力、判断力、表現力】

(3) 図形の性質などを証明することのよさを実感して粘り強く考え、平面図形の性質について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、平面図形の性質を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりする態度を身に付ける。【学びに向かう力、人間性等】

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 対頂角、同位角、錯角の意味を理解している。 ② 合同な図形の性質や、三角形の合同条件の意味を理解している。 ③ 証明の進め方について理解している。	① 対頂角や平行線の性質を見いだし、根拠を明らかにして説明することができる。 ② 多角形の内角の和や外角の和などを予想し、それが正しいことを考察し表現することができる。 ③ 図形の性質を証明するために、見通しを立てて証明をすることができる。	① 多角形の内角の和や外角の和についての性質を見いだそうとしている。 ② 三角形の合同条件を用いて、2つの三角形が合同であるかどうかを考えようとしている。 ③ 図形の性質などを証明することの必要性和意味を考えようとしている。

6 指導計画（16時間）

角と平行線（3時間）、多角形の角（4時間）、三角形の合同（3時間）、証明とそのしくみ（2時間）、証明の進め方（2時間）、章末問題（2時間）

7 本時の指導計画（本時 7 / 16）

(1) 本時の目標

星形五角形の先端にできる角の和が色々な方法で求められることを知り、その求め方を理解する。【知識・技能】

(2) 本時の展開

段階 (時間)	学習活動	教師の指導 (○) 予想される生徒の反応 (・)	・指導上の留意点 □評価の視点
導入 (6分)	前時の学習内容の確認 本時の課題の結果を予想 自分の好きな星形五角形をかいて、先端にできる5つの角の和の大きさが何度になるか考えてみよう  自分で星形五角形をかき、角の和を求める	○図形の性質について確認 ・ 180° ・ 360° ・1つには決まらない	□先端の角の和を求めようとしている【主体的に取り組む態度】 ・角度が図りやすいように大きくかくよう指導する
展開 (39分)	課題の提示 【課題】どんな星形五角形でも、先端にできる5つの角の和は必ず180°になることを説明してみよう。  課題に取り組む 解法を発表	・平行線の性質を使う ・三角形の外角の性質を使う ・真ん中の五角形を使う ○グループごとに発表させる	・使っている図形の性質を明確にさせる □色々な解法を理解する【知識・技能】
まとめ (5分)	振り返りとまとめ	○それぞれの解法について、考え方のポイントを確認する	

保健体育科学習指導案

令和5年10月16日(月)第4校時 校庭
第3学年3・4組 男子33名 女子37名 計70名
川口市立青木中学校 教諭 大嶋 澄子 (T1)
両谷 隆宏 (T2)
白倉 裕三 (T3)

1 単元名 「陸上競技」(長距離走)

2 運動の特性

(1) 一般的特性

- 長距離走は、自己に適したペースを維持して一定の距離を走り通して、最後まで諦めずに走り切ることで達成感を得たり、タイムを短縮したり、相手と競争したりするところに、楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。
- 自己の体力や技能に合った走法や練習方法、ペースを保ちながら走り通すことが大切な運動である。
- 呼吸器系及び循環器系の機能及び全身持久力を高めることのできる運動であり、体力や基礎的な運動技能を維持・向上することも期待できる。また、健康の保持増進のための生涯スポーツとしても適切な運動である。

(2) 生徒から見た特性

長距離走の楽しさや喜びを感じる要因	長距離走を遠ざける要因
・記録が伸びたときの喜びを味わうことができる。 ・全力を尽くして挑戦し、達成感や爽快感を感じる。 ・仲間と声をかけ、励まし合いながら取り組むことができる。	・苦しさや疲れを感じる。 ・記録がなかなか伸びない。 ・技能、体力の差がはっきりと出てしまう。

3 本校研究主題との関連について

○本校研究主題「諸問題を自力解決できる生徒の育成」

～話し合い活動を通じた人間関係づくりの充実～

教科研究主題 保健体育科における「言語活動の充実」を図るためのグループ活動

- ・グループでの話し合い活動の場を設け、他者と相互に意見を出し合い、活動に生かしていく。
- ・学習カードに毎時間感想や反省を書かせ、話し合いが授業に生かしていたかを振り返らす。

4 生徒の実態

(1) 知識及び技能

1・2年次では、基本的なフォームを身につけながら、集団で行うペース走を中心に行った。運動が得意な生徒はフォームやペースを意識して走れるが、ほとんどの生徒は疲労が溜まってくるとフォームやペースが乱れてしまう。知識として長距離の技術の名称等を理解している生徒は多い。令和5年度新体力テスト持久走の結果から、本校の生徒は県平均を大幅に下回り、基礎的な体力を身につけている生徒は少ない。走ることを苦手と感じている生徒が多く、一定のペースで走ることに困難を感じている生徒もいる。

【持久走】	3年男子	本校平均	6分25秒	県平均	6分18秒
	3年女子	本校平均	4分58秒	県平均	4分48秒

(2) 思考力、判断力、表現力等

自分やグループの課題を見つけ学習カードに記入し、次時の活動に生かそうとする生徒は多い。仲間の課題や出来映えを伝えることができる生徒もいる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

意識調査の結果から、苦しいからつらいからという理由から長距離走を「どちらかというと嫌い」・「嫌い」と答えた生徒は12.5%いる。しかし、素直で明るく、授業に積極的に取り組む生徒が多く、ルールや約束を守る意識も高い。チームでの協力や仲間のアドバイスを大切にしようとする生徒も多くいる。全員で励まし合い、認め合う場面も多く見られる。

(4) 意識の実態 <アンケート結果から>男子30名 女子34名

① 体育の授業は好きですか。

	好き	どちらかといえば好き	どちらかと言えば嫌い	嫌い
男子	20人	7人	2人	1人
女子	13人	16人	4人	1人

② 長距離走の授業は好きですか。

	好き	どちらかといえば好き	どちらかと言えば嫌い	嫌い
男子	2人	13人	10人	5人
女子	2人	7人	10人	15人

③ 長距離走の授業で何を身につけたいですか。

男子	・体力(持久力)・ペース配分・忍耐力・協力する力
女子	・体力(持久力)・あきらめない力・呼吸法・同じペースで走りきる力

④ 長距離走が好きまたはどちらかと言えば好きと答える理由は何ですか。

・走り終わったときの達成感・記録が上がる・伸びがわかる

⑤ 長距離走が嫌いまたはどちらかと言えば嫌いと答える理由は何ですか。

・苦しいから・つらいから・次の授業に集中できないから・体力がないから

5 教師の指導観

(1) 知識及び技能

長距離走の技術の名称や行い方を確認しながら、自分に合った効率のよい走り方を身につけていく。そのために、正しい姿勢、腕振り、ピッチとストライド、そして安定したペースを中心にペース走を同程度の技能別にグルーピングを行い、授業を展開していく。長距離走は個人種目だがグループでの活動を通して苦しさやつらい思いを軽減させ、知識・技能の定着を図る。

(2) 思考力、判断力、表現力等

ペースを守りながら一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり競走したりできるように、自分に合ったペースを選択できるようにする。

(3) 学びに向かう力、人間性等

仲間と協力し主体的に取り組むとともに、楽しく積極的な活動を大切にして健康・安全に取り組ませ、長距離走の授業を通して、辛いことを乗り越えたときの達成感や、長距離走を走り終えたときの爽快感を味合わせる。

6 単元の目標

(1) 長距離の特性や走り方を知り、関連して高まる体力などを理解するとともに、リラックスしてペースを守って一定の距離を走ることができるようにする。【知識及び技能】

(2) 練習方法のポイントを参考に、仲間の課題や出来映えを伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】

(3) 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、みんなで達成する喜びを味わえるようにする。【学びに向かう力、人間性】

7 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ① 自己の動きや仲間の動き方を分析するには、自己観察や他者観察などの方法あることについて、言ったり書き出したりしている。 ○技能 ② 自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持学して走ることができる。	① 健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返り、仲間に伝えている。 ② ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返り、仲間に伝えている。	① 仲間と互いに合意した役割について、自己の責任を果たそうとしている。 ② 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。 ③ 健康・安全を確保している

8 単元の計画

(1) 領域（陸上競技）の取り上げ方

学年	短距離・リレー	ハードル走	走り幅跳び	長距離走
第1学年	6			9
第2学年			6	9
第3学年		10		7

(2) 領域の内容（運動種目）と目指す動き

学	内 容	目指す動き
1	長距離走	・余分な力を入れずにリラックスして走ること。
2		・ペースを守り、一定の距離を走ること。
3	長距離走	・自己に適したペースを維持して走ること

(3) 指導と評価の計画（7時間扱い） 本時は○印 2 / 7 時

	1	② 3	4 5 6	7
ねらい	学習の進め方を理解し、学習の見通しをもとう。	ペースを守り一定の距離を走ることができるようにしよう。	速いペースに挑戦したり仲間と協力して走りきる楽しさを味わおう。	記録会を行い、学習の成果を十分に発揮し評価しよう。
指導内容	・特性や約束事 ・役割分担や準備	・ペース走	・ペース走	・記録会 ・学習のまとめ
学習過程	1 長距離走の特性や約束事を理解する。 2 学習の進め方の確認 ・学習カードや資料 3 長距離走の学習の準備 ・グループ編成や役割分担 用具の準備方法の確認 4 準備運動 5 試しの記録会（1000m・1500m） 6 学習の振り返りとまとめ	1 集合・挨拶・健康観察 2 心拍数計測（30秒） 3 準備運動・補強運動 4 ねらいの確認 5 ペース走 3000m 5 ペース走 3000m 5 記録会 3000m 6 心拍数計測（30秒） 6 心拍数計測（30秒） 6 学習のまとめ 7 整理運動 8 学習の振り返り 9 次時の予告 10 挨拶		
評価計画	知技	①	① ②	②
	思判表		①	①
	態	③	①	②
	方法	観察 学習カード	観察 学習カード	観察 学習カード
	場面	3	5 8	5 8

9 本時の学習と指導 (2/7)

(1) 本時のねらい

ペースを守り一定の距離を走ることができるようにする。【知識及び技能】

(2) 準備

学習カード ホワイトボード ペン 鉛筆 ストップウォッチ コーン ビブス

(3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点 (○指導 ◆評価基準)	
		T1	T2・T3
導入 10分	1 集合、挨拶、健康観察	○素早く集合させ、元気よく挨拶できるよう声をかける。 ○健康観察をする。	○体調不良・見学者の確認をし活動の指示を出す。
	2 心拍数の計測 (30秒)	○素早く正確に心拍数を測定するよう声をかける。 ○準備運動を体育委員中心に、声を出してできるよう声をかける。	○つまづいている生徒に助言する。
展開 30分	3 準備運動 補強運動 ・馬跳び (10回) ・集団走 (400m)	○補強運動はリズムよくできるよう声をかける。 ○ランニングは正しいフォームで行うよう声をかける。	
	4 本時のねらいと学習内容の確認	○本時の流れ、ねらいを説明する。	○各チームが活動場所に素早く移動できるよう積極的に声をかける。
	ペースを守り一定の距離を走ることができる。		
	5 ペース走 3000m ・速度別10チームに分かれる ・コースの振り分け Lv10・9 240m 12.5周 8・7 220m 13.5周 6・5 200m 15周 4・3 180m 16.5周 2・1 160m 18.5周 校舎側スタート Lv10・8・6・4・2 1周70秒 道路側スタート Lv9・7・5・3・1 1周72秒	○自己のペースを正しく判断し、ペースを守ることと決められた距離を走りきる学習であることを説明する。 ○チームの設定ラップタイムを確認するよう指示を出す。 ○見学者には、測定の補助やアドバイスをするよう指示する。	○練習中に生徒が自信を持って走れるよう肯定的な声かけをする。 ○ペースを守れない生徒がいた場合は、励まししながら助言する。 ○仲間同士で教え合ったり、励まし合いながら学習に取り組めるよう声をかける。
	6 心拍数の測定 (30秒)	○走り終わったチームから直ちに心拍数を計測するよう指示する。	○つまづいている生徒に声をかける。
整理 10分	7 整理運動	○チームごとに整理運動を行うよう声をかける。	○体調不良者、けがの確認を行う。
	8 学習の振り返り 9 次時の予告 10 挨拶	○学習カードや仲間との話し合い活動をもとに、本時の学習のまとめを行い、ねらいに対する達成状況を学習カードに記入するよう指示を出す。 ○次時の授業の見通しを持たせ次時への意欲につなげる。	○素早く集合できるよう声をかける。 ○本時のねらいの振り返りがうまくできていない生徒を支援する。

第3学年5組 理科学習指導案

令和5年10月16日(月) 第3校時
 場所 3年5組 教室
 男子17名 女子18名 計35名
 授業者 白石 英之

1 単元名 「化学変化とイオン」

2 単元について

(1)教材観

本単元では化学変化をイオンのモデルと関連付けながら、その規則性や関連性を見だし、理解し、表現することが主なねらいである。

(2)生徒観

本学級の生徒は理科の学習への興味関心は高い。一方、特に化学分野に苦手意識を持っている生徒も少なくない。授業を通して、既習事項の復習を取り入れながら、身近な自然の事物・現象について理解を深められるような授業を展開していく。

(3)指導観

前時までの学習で、イオンの生成の仕方やイオン式について学習している。本時では、実験結果を元に、電池の基本的なしくみを理解させるとともに、化学エネルギーが電気エネルギーに変換されていることについても理解させることを目指す。

3 本校研究主題との関連について

○本校研究主題「諸問題を自力解決できる生徒の育成」

・教科研究主題「自然を主体的に調べる授業の展開」

本校では、課題を意識せずに、観察や実験に取り組む生徒がいる。一人一人が自ら課題を持って観察、実験に取り組み、自然の事物・現象を主体的に学ぶ姿勢を養うことが課題である。その課題を達成するために、少人数による実験の実施、話し合いによる意見の共有、レポート課題における考察の機会の確保などの取り組みを行い、課題の解決を図っている。

4 本時の目標

電池の基本的なしくみを理解する。

5 本時の評価規準

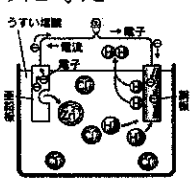
電池が電極における電子の授受によって外部に電流を取り出していることを見だし、電池の仕組みについてイオンと関連付けて表現している。【思考・判断・表現】

6 本時の展開

	学習活動	教師の働きかけ(○)と 予想される生徒の反応(・)	指導上の留意点
導入	- 前時の復習をする。 - 実験結果の確認 - 本時の課題を知る。	○実験結果が整理できていない生徒にしっかり整理させる。	・実験結果がちゃんと整理してあるかを確認する。
	課題 水溶液に電流が流れるのはどういうしくみか		
	【手順①】 +極、一極で起こっている変化を考える		
	- 手順①の説明。 - 考えを発表する。	○既習事項を元に考えさせる。 ○作業を中断させて発表に集中させる。	・机間指導しながら、必要に応じて生徒への助言を行う。

展 開	【手順②】 +極、一極で起こっている変化をイオン式を用いて考える ・手順②の説明。 班ごとに考えをまとめる。 ・班ごとの考えを発表する。	○協力しながら班の考えをまとめさせる。 ○作業を中断させて他の班の発表に集中させる。	・机間指導しながら、必要に応じて生徒への助言を行う。 ・両極での反応をイオン式として理解させる。
	【手順③】 電流が流れるしくみをイオンのモデルで考える。 ・手順③の説明。 班ごとに考えをまとめる。 ・班ごとの考えを発表する。 ・水溶液に電流が流れるしくみを理解する。	○協力しながら班の考えをまとめさせる。 ○作業を中断させて他の班の発表に集中させる。	・机間指導しながら、必要に応じて生徒への助言を行う。 ・イオンのモデルを使って電池のしくみを理解させる。
ま と め	・授業のまとめ。 ・次回の授業の課題を知る。	○板書に整理したものをノートに整理させる。	・電池は化学エネルギーを電気エネルギーに変換する仕組みであることを理解させる。
課題 電池の能力を向上させる方法を考えよう			

7 板書計画

課題 水溶液に電流が流れるのはどういうしくみか					
【手順①】 +極、一極で起こっている変化を考える					
一極: 電極表面がきれいになった ⇒ 金属が○○○ +極: 気体が発生した ⇒ ○○が発生					
【手順②】 +極、一極で起こっている変化をイオン式で考える					
各班でまとめた考え					
例 <table> <tr> <td>一極</td><td>$\text{Zn} \rightarrow \text{Zn}^{2+} + \ominus \ominus$</td></tr> <tr> <td>+極</td><td>$2\text{H}^{+} + \ominus \ominus \rightarrow \text{H}_2$</td></tr> </table>	一極	$\text{Zn} \rightarrow \text{Zn}^{2+} + \ominus \ominus$	+極	$2\text{H}^{+} + \ominus \ominus \rightarrow \text{H}_2$	
一極	$\text{Zn} \rightarrow \text{Zn}^{2+} + \ominus \ominus$				
+極	$2\text{H}^{+} + \ominus \ominus \rightarrow \text{H}_2$				
【手順③】 電流が流れるしくみをイオンのモデルで考える。					
各班でまとめた考え					
例 	電子の流れ: 一極 → +極 電流の流れ: +極 → +極				
【まとめ】 電 池 : 化学エネルギーを電気エネルギーに変える装置 (うすい塩酸と亜鉛板・銅板を用いた電池の場合) 一極 $\text{Zn} \rightarrow \text{Zn}^{2+} + \ominus \ominus$ +極 $2\text{H}^{+} + \ominus \ominus \rightarrow \text{H}_2$					
次回の課題 電池の能力を向上させる方法を考えよう					

特別支援学級 自立学習指導案

日 時 令和5年10月16日(月)第3校時

場 所 特別支援学級 B教室

生 徒 男子1名 女子3名 計4名

指導者 大山 孝一(T1)

補助員 齋藤 園絵(T2)

1 主題名 心のリボン

2 ねらい 人間関係の形成(2)他者の意図や感情の理解に関すること

自分とは違う感情や感覚を持つ人もいることを理解することで、より良い日常生活を送れるようにする。そしてその学習を通し、本校の研究主題である「諸問題を自力解決できる生徒の育成」を目指し、「生活する力」や「働く力」の基礎となる知識・技能の習得や自薦的な態度を育てる。

3 主題設定の理由

本授業の生徒は、全員、知的障害学級からなる4人の集団で、日頃から人なつっこく、とても仲の良い集団である。学習する意欲はあるが、自分の意見を文章に書く力や的を得た内容で発表する力は身についていない。また、他人の感情に気づき対応できる力も身についていない。他人も自分も同じ感情や感覚を持っているというご認識からトラブルに発展することもある。また、人なつっこさがあるが故、人との距離が近づきすぎてしまうこともある。

そこで、本授業を通し、「人との距離で許容できる範囲には個人差がある」ということを学ぶことにより、他人と自分の感情の違いを学習し、本講の研究に主題につなげていきたいと考える。

4 生徒の実態及び個人のねらい

(知的学級)	生徒の実態	個人のねらい
1年男子 M	足し算は指を使って数える。ひらがなも完全には把握していない。	人との距離について考える。他人と自分に違いがあることを知る。
1年女子 T	九九は8割方マスターしている。漢字も小2程度まで。発表は苦手。	人との距離について考える。他人と自分の違いを理解できる。
2年女子 I	九九は5の段くらいまでなら対応できる。人前で話すことは苦手。手が震える。	人との距離について考える。他人と自分、男女差を理解する。
3年女子 F	九九は5の段くらいまでは言えるようになった。漢字も小1程度。	人との距離について考える。他人と自分、男女差を理解する。意欲的に発表する。

5 本時の展開

時間	学習活動	○生徒の活動 ◎予想される生徒の反応 ※支援の手立て □指導者のおもな指示・発言 ◇評価の観点	備考
導入	1 あいさつ 2 前回の復習 3 本時のねらい	○係の生徒の号令で授業を始める。 □前時の復習をする。 ○「0の声」～「5の声」を確認する。 ◎どんな声だったかを思い出しながら声を出す。 □人との距離を同じように考えることを指示する。 ※近いと感じる距離を測ることを理解させる。	
展開	4 授業の内容の把握 5 教師が見本 6 順番に活動 数字の記入 7 活動結果考察 8 発表	□プリントを配布し、授業の内容を説明する。 ○プリントに名前を書き、活動の内容を知る。 ※初めに教員が実践し、やり方を確認させる。その後、順番に、全員が、『近い』と感じる距離を測定する。 ○許容できる距離を数字で表したりボンを黒板に貼り、5の距離から近づいてもらい、『近い』と感じたら、合図をする。 ○その数字をプリントに記入する。 ※T1は、黒板での子どもの活動を補助し、黒板に記入する。 ※T2は、プリント記入をしている生徒の支援を行う。 ◇近いと感じる距離を考え、合図をすることができる。 ◎距離を測定している生徒は、思い思いの方法で反応し、ストップの合図をすると予想される。 ※それを全て受け入れ、意欲的に活動できるよう補助する。 ◎プリント記入する生徒は、近いという距離が、いくつの数字か判断できない生徒もいると思われる。 ※数字をはっきりと発表し、生徒が飽きないよう配慮する。 ○活動結果の表を見ながら気づいたことを考える。 ※一人ひとり個別に机間指導をし、ヒントを与えながら、「自分と人は違うということ」「男女による差があること」等に気づかせ、まとめさせる。 ◎『書けない』という生徒が必ず出ると予想される。 ◇活動結果からわかることを考えることができる。 ○全員が発表する。 ※いやがる生徒もいるが、一言でもいいので発言させる。 ※発表内容の不備な部分を補佐してあげる。	プリント配布 テープ設置
終末	9 まとめ	○授業からわかったことを考え、まとめる。 ○授業を振り返り、自己評価する。	

第4校時

授業	学年・組	教科	授業者	授業会場	ページ番号
公開	1年2組	社会	佐々木 亜貴子	1年2組	
	1年5組	国語	犬竹 崇文	1年5組	
	1年7組	理科	伊奈 直人	第2理科室	
	2年6組	技術	川下 泰信	2年6組	
	3年1・2組	保健体育	両谷 隆宏	校庭	
	3年4組	数学	関 隆俊	3年4組	
	3年7組	英語	阿部 順子	3年7組	
	特別支援学級	職業	影山 純子	D教室	

第1学年2組 社会科（地理的分野）学習指導案

日 時 令和5年10月16日（月）第4校時

場 所 1 年 2 組 教 室

在籍数 男子22名、女子15名、計37名

授業者 教諭 佐々木 亜貴子 印

1 単元名 第2編 世界のさまざまな地域

第2章「世界の諸地域」3節「アフリカ州」（東京書籍『新しい社会 地理』）

2 単元について

（1）教材観

本単元は、学習指導要領の地理的分野の大項目「世界のさまざまな地域」の中項目（2）「世界の諸地域」に含まれる小項目「アフリカ」について取り扱う。1学期に学んだ「世界の姿」や「世界各地の人々の生活と環境」を踏まえて、人類が誕生した場所であり古代にはエジプト文明が栄えるなど長い歴史があり、16世紀から19世紀末にかけてヨーロッパ諸国の植民地となったアフリカ州について学んでいく。アフリカ州の自然環境の基本事項を理解させるとともに、現在のアフリカ産業がヨーロッパ諸国による植民地時代の歴史に未だ大きく影響されており、今後の発展のための課題への理解を深めさせたい。

（2）生徒観

本学級の生徒たちは明るく素直で、穏やかな生徒が多い。「アフリカ」に関するアンケートでは「古代エジプト文明」「サハラ砂漠」「資源」「黒人」「奴隷問題」「差別問題」などの言葉をあげている。生徒たちは、基礎基本について自ら学ぼうとする姿勢も概ね満足でき、知識・理解を繰り返し学ぶことに懸命に取り組んでいる。一方で、思考・判断・表現力が必要な問題など社会的事象を探究することを苦手とする生徒が多い実態がある。

（3）指導観

本学級の生徒は「思考・判断・表現力」に課題があると捉えられる。世界の中のアフリカ州について、面積・人口・GDPの割合グラフを活用し、アフリカ州を学ぶ際の課題について意見を出し合い予測することにより、今後の学習内容を深めていく。地図帳索引調べや雨温図・地図を活用することを通して、生徒が得意とする基礎的・基本的知識の確認を行う。アフリカ州の基礎・基本をとらえたうえで、アフリカが歩んできた歴史を学び、次の産業や課題をとらえる際に「思考・判断・表現力」を伸ばしていきたい。

3 研究主題との関わり

「諸問題を自力解決できる生徒の育成」

教科研究主題 ～言語活動の充実を軸とした指導と評価を一体化したシステムの構築～

手だて：発表を充実させた授業展開・話し合い活動による発言機会の充実・自身の発言を振り返る場面設定

4 単元のねらい

面積・人口・GDPについて、先に学んだアジア州やヨーロッパ州との違いを確認し、自然環境と土地利用との関連に気付かせ、アフリカの歴史的背景をとらえ、アフリカが抱える問題（資源・エネルギー問題、人口・食糧問題など）を理解させる。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界各地で顕在化している地球的課題は、それがみられる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。	アフリカ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつき方などに着目して、それぞれの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	アフリカ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に考察している。

6 指導計画（3時間扱い）

- ① アフリカ州をながめて … 1 時間（本時） ③ 発展に向けた課題 … 1 時間
② アフリカ州の産業と新たな課題 … 1 時間

7 本時の学習指導（第1/3校時）

（1）目標

- ・アフリカ州の自然・文化・産業の特色について地図・写真などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。（知識・技能）
- ・アフリカ州の学習に積極的に取り組む。（主体的に学習に取り組む態度）

（2）本時の展開

	○学習内容	◇学習活動 ■生徒の反応	●指導上の留意点 ◎評価
導入 7分	○アフリカ州をながめて	◇世界の中のアフリカ州（面積・人口・GDP）、写真を確認する。 ■世界の各州と比べたアフリカ州は、人口の割合は高く、GDPは非常に低い。	●チャイム着席をする。 ●豊かな自然環境のわりに発展できていない現状から、アフリカの課題を想起させる。
展開 33分	○学習課題を確認する。 ○アメリカ州の地名を地図帳調べする。 ○雨温図を読み取る。 ○アフリカの地形・地名について調べる。 ○アフリカの歴史・課題について知る。	◇地図帳索引調べを行う。 ◇これまでの知識で、雨温図の特徴を捉える。 ◇地図帳、教科書地図を使い、アフリカの地形・地名を調べる。 ◇古代、16～19世紀、独立後の歴史について学ぶ。 ■現在のアフリカの課題について、教科書と資料を参考にテーマごとに調べさせる。 ■班ごとに調べた内容を発表する。	●学習課題は見通しを持たせるためにワークシートに記入させる。 ●積極的に地図帳を活用させる。 ●雨温図のとらえ方を確認。 ◎アフリカの自然、歴史や文化について、資料を読み取り、理解することができる。（知識・技能） ◎アフリカ州が、国際的な支援を必要とする理由について、見通しをもって主体的に追究しようとしている。（態度）
終末 10分	○本時の課題についてまとめる。	◇課題に関連する写真資料を提示して、次の授業についてのイメージを持たせる。 ◇まとめを黒板に書く。	●生徒のコメントをいくつか紹介し、次の単元の導入につなげられるようにする。

8 板書計画

アフリカ州 面積・人口・GDP	学習課題 アフリカ州の課題とはなにか	世界地図
雨温図	ワークシートの答え	
	1班 2班 3班 4班 5班 6班	まとめ

第1学年5組 国語科学習指導案

日 時 令和5年10月16日(月) 第4校時
指導学級・人数・場所 第1学年5組 37人 教室
指導者 犬竹 崇文

1 単元名 音読を楽しもう 「いろは歌」(光村図書)

2 生徒の実態と本単元の意図

本学級の生徒は、意欲的に授業に取り組んでいる。その一方、説明的文章や文学的文章の音読となると、ぎこちない様子が見受けられる。本教材では、おおよその意味内容を知り、原文が読めるようになるということが大切であるが、音読を繰り返し、楽しむことを主眼としている。本教材を通して、文章を読む楽しみが生徒に生まれるようにしたい。

また、本教材は、仏教思想を基調としているが、一語一語吟味していくと、不明瞭な部分があり、結局はよくわからないところも残る。しかし、細かい解釈こそ明瞭ではないところもあるが、「生」に向き合い「生き方」に思いをはせることのできる深い意味を持つものともいえる。ここでは、大まかな意味を知り、全体を「なんらかの言葉の続き」として捉えられれば、より楽しい音読につながるはずである。

3 本校研究主題との関連について

○本校研究主題「確かな学力の育成と豊かな学びの実現を図る学習指導」

上記の研究主題を受けて、国語科では、「手立ての充実による基礎学力の定着・向上」を念頭において、毎時の授業を行っている。本単元においては、①言語環境を整える雰囲気作り、②生徒の興味を喚起させる課題の設定、③ねらいの提示、④ペアによる教え合いや話し合いの時間の確保、などに留意し、学力を向上させたい。

4 単元の目標

- (1) 音読に必要な文語のきまりを知り、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。 〈知識及び技能〉 (3) ア
- (2) 言葉が持つ価値に気づくとともに、我が国の言語文化を大切にし、思いや考えを伝え合おうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

5 単元の評価規準

知識・技能	主体的に学習に取り組む態度
① 音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。	① 言葉が持つ価値に気づくとともに、進んで音読し、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。

6 本時の学習(1/1時間目)

(1) 目標

- 音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。 【知識・技能】
- 言葉が持つ価値に気づくとともに、進んで音読し、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 評価規準

- 音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。 【知識・技能】
- 言葉が持つ価値に気づくとともに、進んで音読し、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1 本時の学習の目標を知る。【全体】	《めあて》古典の世界に親しむために、古文を音読しよう。	
2 「いろは歌」原文を読む。【個人・ペア・全体/教科書】	○歴史的仮名遣いの確認 ○七五調のリズム	○「ゐ」と「ゑ」の読み方を確かめる。 ○七五調のリズムを感じさせるために、間を取りながら繰り返し読む。
3 「いろは歌」の特徴、大まかな意味を知る。【全体】	○意味の確認	○【出典】を手掛かりにして、特徴を確認させる。 ○原文と中段、下段を対比させながら意味を確認する。
4 「いろは歌」を音読する。【個人・ペア・全体/教科書】	○音読	○歴史的仮名遣いのまま繰り返し音読する。 【知識・技能①】観察 (Aとなる生徒) ・歴史的仮名遣いの読み方や間に注意して読むことができる。 (「努力を要する」状況(C)への手立て) ・ペンを持たせ、振り仮名をつけさせたり、間を取ったところに「/」を書かせたりなどを助言する。
5 本時の振り返りをする。【個人】	○振り返り	

(4) 板書案

いろは歌	【めあて】 古典の世界に親しむために、古文を音読しよう。	いろはにほへと ちりぬるを わかよたれそ つねならむ うゐのおくやま けふこえて あさきゆめみし ゑひもせす
------	---------------------------------	---

第1学年7組 理科学習指導案

令和5年10月19日（水）第4校時

場 所

第2理科室

生徒数

36名

指導者

伊奈 直人

1 単元名 「光の性質」

2 単元について

(1) 教材観

本単元では身近な物理現象について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、凸レンズの規則性や関係性を見いだして表現する。

(2) 生徒観

これまで生徒は、日光は直進し、反射させることができる。(小学校3年生) 日光は集めることができる。(小学校3年生) を学習してきている。本学級の生徒は、理科の学習への興味関心が高い。授業、実験を通して、様々な自然現象は身近なものであるということ理解できるような授業を展開していく。

(3) 指導観

前時までの学習で、光の屈折についてまで学習している。本時では、凸レンズによる像のでき方について実験を行い、結果を分析し、凸レンズによる像のでき方について理解を目指す。また、タブレットを活用し、主体的に学習に取り組める授業を展開していく。

3 本校研究主題との関連について

○本校研究主題「諸問題を自力解決できる生徒の育成」

・教科研究主題「自然を主体的に調べる授業の展開」

本校では、課題を意識せずに観察や実験に取り組む生徒がいる。一人一人が自ら課題を持って観察、実験に取り組み、自然の事物・現象を主体的に学ぶ姿勢を養うことが課題である。その課題を達成するために、少人数による実験の実施、話し合いによる意見の共有、レポート課題における考察の機会の確保などの取り組みを行い、課題の解決を図っている。

4 単元目標

身近な物理現象を日常生活や社会と関連付けながら、光の働きを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。また、事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。

5 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
物体の位置と凸レンズによる像のでき方について理解している。 凸レンズによる像のでき方の規則性を調べる技能や、凸レンズによる像を作図する技能を身につけている。	凸レンズによる像をつくる実験を見通しをもって行い。その規則性や関係性を見いだして表現している。	凸レンズのはたらきに関するに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

6 本時の目標

凸レンズによってできる像に着目して、光源やスクリーンを凸レンズに近づけたり遠ざけたりしたときのスクリーンにうつる像の位置や大きさ、向きを調べることを通して、凸レンズによる実像、虚像のでき方の規則性を見いだす。

7 本時の展開

	学習活動	○教師の働きかけ ・予想される生徒の反応	評価規準及び指導上の留意点
導入	1. 光のみちすじについて確認する。	○光は直進し屈折することを確認する。	○光のみちすじを事前に確認し、これからの学習に紐づけられるようにする。
	2. 学習課題の提示	課題 凸レンズによる像のでき方には、どのようなきまりがあるのだろうか。	
展開	3. 実験を行う。	○実験の説明をする。凸レンズは動かさずに、物体とスクリーンを動かして実験を行うことを説明する。 ・実験を行う。 ・像は上下左右とも逆にうつった。	○物体とスクリーンの位置を動かして、スクリーンに像をうつすことができる。
	4. 物体を凸レンズから遠ざけたり、焦点まで近づけたりしたときの像の様子を調べる。	物体を凸レンズから遠ざけたときのぞうのようす ・像は焦点に近づき、小さくなり、上下左右逆にうつる。 物体を凸レンズから遠ざけたときのぞうのようす ・像は凸レンズから遠ざかり、大きくなり、上下左右逆にうつる。	○机間指導を適宜行い、生徒の活発的な実験や話し合いを促す。 〈主体的に学習に取り組む態度〉 自分の知識や友達の意見を参考、に凸レンズの規則性を見通しをもったり振り返ったりするなどして科学的に探っている。【机間指導】
まとめ	5. 物体を焦点よりも凸レンズの近くに置いたときの像を調べる。	物体をさらに近づける ・スクリーンに像はうつらない。 ・凸レンズを通して見ると、大きい像が物体と同じ向きにうつって見えた。	
	6. 像の位置や大きさ、向きと、物体の位置や凸レンズの焦点距離との間にどのような関係があるか見いだす	○実験装置を用いて凸レンズによる像のでき方の規則性や関係性を説明する。 ○実像や虚像を利用した道具や機器には、どんなものがあるか質問する。 ・カメラ、虫眼鏡、顕微鏡	○実像と虚像のちがいについて理解する。

2年6組 技術・家庭科（技術分野）学習指導案

日 時 令和5年10月16日（月）第4校時
場 所 木工室
生徒数 計40名
授業者 川下 泰信

1 題材名 「発電効率のよいオリジナルブレードを開発しよう」 技術分野（1）ア イ[6時間扱い]

2 題材設定の理由

（1）ねらいや指導内容について

発電効率のよいオリジナルブレードの開発を製作することを通して、「生活や社会を支える技術」について深く興味を持たせていきたい。また、自らが気付いた技術から「見方・考え方」を働かせ、技術によって「課題を解決する力」や自分なりの新しい考え方や捉え方によって「解決策を構想しようとする態度」を育成していきたい。

（2）これまでの学習状況及び生徒の実態において

生徒たちは、意欲的に取り組み、理解できない時は理解できないと、素直な反応を示す生徒が多い。また、中学生になったばかりで図工と似て異なる技術に戸惑いながらも興味と期待値は大きい。その為、教師側の働きかけによっては、学力向上への大きな期待を抱かせる生徒たちである。

（3）教材の特質や活用方法について

本教材の特質として身の回りにある物から技術の役割に気づき、様々な角度から課題を見つけ自ら考える解決策を見出すことができる。その見出した課題と解決策を他者と共有することで、根拠に基づいた新しい解決策を見出さそうとする態度が養われると考える。

3 本校研究主題との関連

研究主題「確かな学力の育成と豊かな学びの実現を図る学習指導」

教科研究主題「手立ての充実による基礎学力の定着、向上」

本校の研究主題を受け、「考える教具の工夫」や「気付く教具の工夫」を行い、豊かな学びにつながる指導法として研究を進めた。

4 題材の目標

発電効率のよいオリジナルブレードの開発を通して、ものづくりの基本的な内容や技術を習得させるとともに、技術が果たす役割について理解を深め、生活をよりよく工夫し創造する能力を育成する。

5 指導と評価の計画（5/20）

時間	ねらい・学習活動	評価方法等
1 2	身の回りにあるエネルギーの変換の技術の原理・法則と仕組みを理解し、電気の発電方法の特徴と課題を理解する。	・観察 ・ワークシート
3	電源の種類や特徴を知り、動力を効率よく伝えるしくみと供給するための仕組みを考える。	・観察 ・ワークシート
4	エネルギー問題について考え、発電効率のよいオリジナルブレードを開発する。	・ワークシート（設計）
5 本時	ブレードデザインコンテストを通して、生産者の見方・考え方について考える。	・観察 ・ワークシート

6 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・発電効率のよい設計を通して、生産者の見方・考え方を働かせ、問題解決をする態度を養う。

(思考・判断・表現)

(2) 本時の展開

◆学力向上プランとの関連

学習過程	生徒の活動	時間	教師の働きかけ	評価と指導の工夫 《評価の方法》
				◎十分満足できる状況 ○おおむね満足できる状況 △努力を要する状況
導入	・前時の確認をする。 ・本時の学習目標を知る。	5	・前時の確認 ・本時の課題を提示する。	
学習課題：ブレードデザインコンテスト				
展開	・班毎にオリジナルのブレードを「でんまね wind」に取り付け、電圧を計測する。 ◆他の生徒と電圧を確認しあい、ブレードの調整しながら課題解決に向けて最適解を見出そうとする。 (生徒自らの考えを含め、他者の改善策から、効率を丈夫な構造にするための最適解を考える。) ・各班の最高電圧を挙手で確認し、代表生徒を選抜し実演発表を行う。 ・他の生徒の考え方を知り、視点の深さを深め、ワークシートに記入する。	2 5 5 1 0	・班毎にオリジナルのブレードを「でんまね wind」に取り付け、電圧を計測させ、記録をさせる。 ◆ブレードを調整しながら課題解決に向けて最適解を見出させる。 (生徒自らの考えを含め、他者の改善策から、効率を丈夫な構造にするための最適解を考える。) ・各班の最高電圧を挙手で確認し、代表生徒を選抜し実演発表させる。 ・他の生徒の考え方を知り、視点の深さを深め、ワークシートに記入させる。	◎さまざまなブレードについてメリット・デメリットを把握したうえで多面的・多角的に評価し技術的に折り合いをつけ、自分の考えをまとめている。 ○さまざまなブレードについてメリット・デメリットを把握したうえで技術を単一的な目線で評価し技術的に折り合いをつけ、自分の考えをまとめている。 △他者の意見を聞き、さまざまなブレードについての知識とメリット・デメリットを把握できるようにする。
まとめ	・本時の目標の到達度や視点についての理解できたか自己評価をする。 ・次時の連絡を知る。	5	・本時の目標の到達度や視点についての理解できたか自己評価をする。 ・次時の連絡を知る。	

7 評価の視点

- ・ブレードのメリット・デメリットを把握したうえで、自分なりの考えがまとめられている。

保健体育科学習指導案

令和5年10月16日(月)第4校時 校庭
 第3学年1・2組 男子33名 女子37名 計70名
 川口市立青木中学校 教諭 両谷 隆宏(T1)
 大嶋 澄子(T2)
 白倉 裕三(T3)

1 単元名 「陸上競技」(長距離走)

2 運動の特性

(1) 一般的特性

- 長距離走は、自己に適したペースを維持して一定の距離を走り通して、最後まで諦めずに走り切ることで達成感を得たり、タイムを短縮したり、相手と競争したりするところに、楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。
- 自己の体力や技能に合った走法や練習方法、ペースを保ちながら走り通すことが大切な運動である。
- 呼吸器系及び循環器系の機能及び全身持久力を高めることのできる運動であり、体力や基礎的な運動技能を維持・向上することも期待できる。また、健康の保持増進のための生涯スポーツとしても適切な運動である。

(2) 生徒から見た特性

長距離走の楽しさや喜びを感じる要因	長距離走を遠ざける要因
・記録が伸びたときの喜びを味わうことができる。 ・全力を尽くして挑戦し、達成感や爽快感を感じることができる。 ・仲間と声をかけ、励まし合いながら取り組むことができる。	・苦しさや疲れを感じる時。 ・記録がなかなか伸びない時。 ・技能、体力の差がはっきりと出てしまう時。

3 本校研究主題との関連について

○本校研究主題「諸問題を自力解決できる生徒の育成」

～話し合い活動を通じた人間関係づくりの充実～

教科研究主題 保健体育科における「言語活動の充実」を図るためのグループ活動

- ・グループでの話し合い活動の場を設け、他者と相互に意見を出し合い、活動に生かしていく。
- ・学習カードに毎時間感想や反省を書かせ、話し合いが授業に生かされていたかを振り返らす。

4 生徒の実態

(1) 知識及び技能

1・2年次では、基本的なフォームを身につけながら、集団で行うペース走を中心に行った。運動が得意な生徒はフォームやペースを意識して走れるが、ほとんどの生徒は疲労が溜まってくるとフォームやペースが乱れてしまう。知識として長距離の技術の名称等を理解している生徒は多い。令和5年度新体力テスト持久走の結果から、本校の生徒は県平均を大幅に下回り、基礎的な体力を身につけている生徒は少ない。走ることを苦手と感じている生徒が多く、一定のペースで走ることに困難を感じている生徒もいる。

【持久走】	3年男子	本校平均	6分25秒	県平均	6分18秒
	3年女子	本校平均	4分58秒	県平均	4分48秒

(2) 思考力、判断力、表現力等

自分やグループの課題を見つけ学習カードに記入し、次時の活動に生かそうとする生徒は多い。仲間の課題や出来映えを伝えることができる生徒もいる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

意識調査の結果から、苦手・疲れる等の理由から長距離走を「どちらかというと嫌い」・「嫌い」と答えた生徒は59%いる。しかし、素直で明るく、授業に積極的に取り組む生徒が多く、ルールや約束を守る意識も高い。チームでの協力や仲間のアドバイスを大切にしようとする生徒も多くいる。全員で励まし合い、認め合う場面も多く見られる。

(4) 意識の実態 <アンケート結果から>男子31名 女子33名

① 体育の授業は好きですか。

	好き	どちらかといえば好き	どちらかと言えば嫌い	嫌い
男子	19 人	10 人	1 人	1 人
女子	13 人	15 人	2 人	3 人

② 長距離走の授業は好きですか。

	好き	どちらかといえば好き	どちらかと言えば嫌い	嫌い
男子	5 人	8 人	8 人	10 人
女子	4 人	9 人	12 人	8 人

③長距離走の授業で何を身につけたいですか。

男子	・持久力・一定のペースで走る・忍耐力・後半にペースを落とさない・呼吸法
女子	・持久力・諦めない気持ち・タイムを縮めたい

④長距離走が好きまたはどちらかと言えば好きと答える理由は何ですか。

・走ることが好き・達成感・タイムが縮むのが嬉しい・爽快感・忍耐力

⑤長距離走が嫌いまたはどちらかと言えば嫌いと答える理由は何ですか。

・疲れる・苦手・きつい・つまらない・同じ景色・次の授業が眠くなる・気持ちが重くなる

5 教師の指導観

(1) 知識及び技能

長距離走の技術の名称や行い方を確認しながら、自分に合った効率のよい走り方を身につけていく。そのために、正しい姿勢、腕振り、ピッチとストライド、そして安定したペースを中心にペース走を同程度の技能別にグルーピングを行い、授業を展開していく。長距離走は個人種目だがグループでの活動を通して苦しさやつらい思いを軽減させ、知識・技能の定着を図る。

(2) 思考力、判断力、表現力等

ペースを守りながら一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり競走したりできるように、自分に合ったペースを選択できるようにする。

(3) 学びに向かう力、人間性等

仲間と協力し主体的に取り組むとともに、楽しく積極的な活動を大切にして健康・安全に取り組ませ、長距離走の授業を通して、辛いことを乗り越えたときの達成感や、長距離走を走り終えたときの爽快感を味合わせる。

6 単元目標

(1) 長距離の特性や走り方を知り、関連して高まる体力などを理解するとともに、リラックスしてペースを守って一定の距離を走ることができるようにする。【知識及び技能】

(2) 練習方法のポイントを参考に、仲間の課題や出来映えを伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】

(3) 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、みんなで達成する喜びを味わえるようにする。【学びに向かう力、人間性】

7 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①自己の動きや仲間の動き方を分析するには、自己観察や他者観察などの方法あることについて、言ったり書き出したりしている。 ○技能 ②自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持学して走ることができる。	①健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返り、仲間に伝えている。 ②ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返り、仲間に伝えている。	①仲間と互いに合意した役割について、自己の責任を果たそうとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。 ③健康・安全を確保している

8 単元の計画

(1) 領域（陸上競技）の取り上げ方

学年	短距離・リレー	ハードル走	走り幅跳び	長距離走
第1学年	6			9
第2学年			6	9
第3学年		10		7

(2) 領域の内容（運動種目）と目指す動き

学	内 容	目指す動き
1	長距離走	・余分な力を入れずにリラックスして走ること。
2		・ペースを守り、一定の距離を走ること。
3	長距離走	・自己に適したペースを維持して走ること

(3) 指導と評価の計画（7時間扱い） 本時は○印 2 / 7 時

	1	② 3	4 5 6	7
ね ら い	学習の進め方を理解し、学習の見通しをもとう。	ペースを守り一定の距離を走ることができるようにしよう。	速いペースに挑戦したり仲間と協力して走りきる楽しさを味わおう。	記録会を行い、学習の成果を十分に発揮し評価しよう。
指 導 内 容	・特性や約束事 ・役割分担や準備	・ペース走	・ペース走	・記録会 ・学習のまとめ
学 習 過 程	1 長距離走の特性や約束事を理解する。 2 学習の進め方の確認 ・学習カードや資料 3 長距離走の学習の準備 ・グループ編成や役割分担 用具の準備方法の確認 4 準備運動 5 試しの記録会（1000m・1500m） 6 学習の振り返りとまとめ	1 集合・挨拶・健康観察 2 心拍数計測（30秒） 3 準備運動・補強運動 4 ねらいの確認 5 ペース走 3000m 6 心拍数計測（30秒） 7 整理運動 8 学習の振り返り 9 次時の予告 10 挨拶	5 ペース走 3000m 6 心拍数計測（30秒）	5 記録会 3000m 6 学習のまとめ
評 価 計 画	知技 思判表 態 方法 場面	① ③ 観察 学習カード 5 8	① ② ① ① 観察 学習カード 5 8	② ① ② 観察 学習カード 5 8

9 本時の学習と指導 (2/7)

(1) 本時のねらい

ペースを守り一定の距離を走ることができるようにする。【知識及び技能】

(2) 準備

学習カード ホワイトボード ペン 鉛筆 ストップウォッチ コーン ビブス

(3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点 (○指導 ◆評価基準)	
		T1	T2・T3
導入 10分	1 集合、挨拶、健康観察	○素早く集合させ、元気よく挨拶できるよう声をかける。 ○健康観察をする。	○体調不良・見学者の確認をし活動の指示を出す。
	2 心拍数の計測 (30秒)	○素早く正確に心拍数を測定するよう声をかける。 ○準備運動を体育委員中心に、声を出してできるよう声をかける。	○つまづいている生徒に助言する。
展開 30分	3 準備運動 補強運動 ・馬跳び (10回) ・集団走 (400m)	○補強運動はリズムよくできるよう声をかける。 ○ランニングは正しいフォームで行うよう声をかける。	
	4 本時のねらいと学習内容の確認	○本時の流れ、ねらいを説明する。	○各チームが活動場所に素早く移動できるよう積極的に声をかける。
	ペースを守り一定の距離を走ることができる。		
	5 ペース走 3000m ・速度別10チームに分かれる ・コースの振り分け Lv10・9 240m 12.5周 8・7 220m 13.5周 6・5 200m 15周 4・3 180m 16.5周 2・1 160m 18.5周 校舎側スタート Lv10・8・6・4・2 1周70秒 道路側スタート Lv9・7・5・3・1 1周72秒	○自己のペースを正しく判断し、ペースを守ることと決められた距離を走りきる学習であることを説明する。 ○チームの設定ラップタイムを確認するよう指示を出す。 ○見学者には、測定の補助やアドバイスをするよう指示する。	○練習中に生徒が自信を持って走れるよう肯定的な声かけをする。 ○ペースを守れない生徒がいた場合は、励まししながら助言する。 ○仲間同士で教え合ったり、励まし合いながら学習に取り組めるよう声をかける。
		◆ペースを守り一定の距離を走ることができる。 (観察) 【知識・技能】	
		△努力を要すると判断される状況 (C) の生徒への指導の手だて ・正しい走り方やペース配分等を教科書等で確認したり、修正しながら取り組むことができるようにする。 ◎十分に満足できると判断される状況 (A) の生徒の具体的な姿 ・設定したペースで走りきることができている。 ・ラップタイムを確認し、ペースを調整できている。	
整理 10分	6 心拍数の測定 (30秒)	○走り終わったチームから直ちに心拍数を計測するよう指示する。	○つまづいている生徒に声をかける。
	7 整理運動	○チームごとに整理運動を行うよう声をかける。	○体調不良者、けがの確認を行う。
	8 学習の振り返り 9 次時の予告 10 挨拶	○学習カードや仲間との話し合い活動をもとに、本時の学習のまとめを行い、ねらいに対する達成状況を学習カードに記入するよう指示を出す。 ○次時の授業の見通しを持たせ次時への意欲につなげる。	○素早く集合できるよう声をかける。 ○本時のねらいの振り返りがうまくできていない生徒を支援する。

第3学年4組 数学科学習指導案

日 時 令和5年10月16日(月) 第4校時
場 所 川口市立青木中学校 3年4組 教室
生徒数 男子16名 女子19名 計35名
授業者 教諭 関 隆敏

1 単元名 $y=ax^2$

2 単元について

(1) 教材観

第1学年では、比例、反比例を学習し、第2学年では、一次関数を学習している。いずれにおいても、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を漸次高めてきている。第3学年では、この学習の上に立って、具体的な事象における二つの数量の変化や対応を調べることを通して、関数 $y=ax^2$ について考察する。その際に表、式、グラフを相互に関連付けながら、変化の割合やグラフの特徴など関数の理解を深める。

(2) 生徒観

本学級は前向きに授業に取り組む生徒が多いが、挙手する生徒が限られていることや、自力解決ができず支援を必要とする生徒がいることが課題である。グループ内で質問したり、教え合ったりする習慣は身につくつあるもので、小グループでの意見交換や問題演習の反復の機会を設定し、自信をもたせながら、自主的な発言や意見発表ができるよう指導していく。

(3) 指導観

基礎・基本は定着しつつあるので、今後は論理的な思考力や表現力の育成に力を入れていく。日常の事象を数学と関連付けて考察し、数学的に表現する力を養い、関数の理解をさらに深めさせていきたい。本授業では、具体的な事象から取り出した2つの数量の関係が関数 $y=ax^2$ であるかどうかを判断し、その変化や対応の特徴を捉え、式をつくり、問題を解決する過程を説明することができるよう指導をしていく。

3 本校研究主題との関連について

○本校研究主題「諸問題を自力解決できる生徒の育成」

数学科研究主題を「基礎学力の徹底と論理的な表現の向上」とし、日々の指導にあたっている。基礎・基本の定着のために、グループ学習とリトルティーチャーを取り入れ、問題演習を全生徒が最後までやり切るのを見届けながら、日々授業を進めている。授業→宿題→小単毎の小テスト→章末の問題演習というように計画的にアウトプットの機会を設定することで、知識や技能の定着を図っている。論理的な表現力を向上させるために、ペアや4人1組での意見交換、課題レポートの提出を行っている。

4 単元目標

- (1) 関数 $y=ax^2$ についての基礎的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。【知識及び技能】
- (2) 関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。【思考力、判断力、表現力】
- (3) 関数 $y=ax^2$ について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。【学びに向かう力、人間力等】

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 関数 $y=ax^2$ について理解している。 ② 事象の中には関数 $y=ax^2$ として捉えられるものがあることを知っている。 ③ いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解している。	① 関数 $y=ax^2$ として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ② 関数 $y=ax^2$ を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	① 関数 $y=ax^2$ のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。

6 指導計画（16時間）

関数 $y=ax^2$ （3時間），関数 $y=ax^2$ のグラフ（4時間），
 関数 $y=ax^2$ の値の増減と変域（2時間），関数 $y=ax^2$ の変化の割合（2時間），
 関数 $y=ax^2$ の利用（2時間），いろいろな関数（1時間），章末問題演習（2時間）

7 本時の指導計画（本時 12／16）

（1）本時の目標

- ・ふりこ（ブランコ）の長さが周期の2乗に比例することを見だし、問題を解決する方法を説明することができる。【思考力・判断力・表現力】

（2）本時の展開

段階 (時間)	学習活動	教師の指導(○) 予想される生徒の反応(・)	・指導上の留意点 □評価の視点
導入 (15分)	問題を把握する		
	問題 平成30年に山口県で開催された山口ゆめ花博で、日本一長い(当時)ブランコが制作されました。このブランコの周期は11秒です。どのくらいの長さでしょう。	・5m, 10m, 20m	
展開 (30分)	課題1 ふりこの周期(ふりがが1往復する時間)と長さの間には、どんな関係がどんな関係があるか調べてみよう。		
	実験映像を見て、実験データからふりこの長さと周期の関係を考察する	○長さと周期のどちらを x, y とおくかで関係の見え方が異なる	□ふりこの長さが周期と関数関係にあることを見いだしている【思・判・表】
	課題2 山口県ゆめ花博の日本一長い(当時)ブランコの周期は11秒でした。課題1をもとに、長さを求めてみましょう。		
まとめ (5分)	課題に取り組む	○おもりの重さは周期に影響しない(小学校理科)	□問題を解決する方法を説明することができる【思・判・表】
	解法を発表する	・表の変化の関係から求める ・式から求める	
まとめ (5分)	本時の振り返り	○それぞれの解法について、考え方のポイントを確認する。	

第3学年7組 英語科学習指導案

令和5年10月16日(月) 第4校時
 在籍生徒 35名 教室
 指導者 教諭 阿部 順子
 ALT Jayne Kuroiwa

1. 単元名

You can do it!2 学校に必要なものを考えて意見を伝えよう

2. 単元について

本単元では、「世界中の中学生が集うウェブサイトの議論に参加して自分の意見を述べる」というテーマで学習する。agree/disagreeを用いて既習文法を使用し、理由も含め、自分の意見を伝え合うことが身に着けられるようにしたい。

3. 生徒の実態

本学級の生徒は大変明るく、積極的に発言しようとする意欲が高い生徒が多い。また、授業規律を守り、各ラウンド活動において次に何を行うかの指示にも的確に反応できる。しかし、基礎学力の不足により、英語が苦手だと意識している生徒もいるため、積み上げた学びを土台に、課題を少しずつ与え、できることを増やしていき、「英語で言えた、分かった。」という達成感と合わせて、自分の考えや意見を自分の言葉で伝えられるよう実践させていきたい。

4. 指導観

P.19 Your Coach「考えや意見をやりとりしよう」のなかで、agree, disagreeを用いた表現を学んでいる。内容を理解させながらこれまでの既習事項を用いて、自分の意見をまとめ、理由を含め自分の意見を言葉で相手に伝えるという活動をさせたい。

5. 本校の研究テーマとの関わり

令和5年度 研究テーマ：諸問題を自力解決できる生徒の育成

教科研究主題：基礎的・基本的な内容の定着を図り、表現力を高める指導の工夫

〈課題〉

5ラウンドの学習を進めている中で、話の内容を聞き、概要をつかむことはできるようになっているが、文法が苦手な生徒もあり、話す活動が不十分であると感じる。帯活動のSmall Talkで話したことをリライトすることにより、「話すこと」「書くこと」の基礎・基本を定着させていきたい。

6. 単元の指導計画

指導計画(2時間扱い・本時1/2)

時数	課	目標
第1時(本時)	Reading/Thinking/ Speaking	生徒の提案「制服について」を読んで賛否の立場を決め、その理由を整理して議論する。
第2時	Reading/Thinking/ Speaking	生徒の提案「昼寝について」を読んで賛否の立場を決め、その理由を整理して議論する。

7. 単元の評価規準

知識・技能	・書き手の意見とその理由を正確に読み取ることができる
	・提案に対する賛否や自分の意見とその理由などを話すことができる。
思考・判断 ・表現	・提案に対する賛否を決めるために、生徒の提案とその理由を読み取り、適切に理解している。
	・提案に対する自分の意見を伝えるために、賛否の立場をはっきりさせて、その理由を適切な表現を使って伝えている。

7. 本時の学習指導

(1) 本時の目標

- ・記事を読んで自分の意見を考えて伝え合おう

(2) 本時の展開

過程	学習活動 (時間)	JTE	ALT	★指導上の留意点 ◎評価
導入 (12分)	Greeting (1分)	・日付、曜日、天気を板書する。	Hello, class. How are you today? What day is it today? What's the date today? How's the weather today?	★笑顔で挨拶し、英語を話すことに対する意欲を高める。
	Small Talk (6分)	・巻末の"Let's Talk"の "My Life"を開くよう 指示する。 ・今日の質問を指示する。 ・ペアワーク (ペア変え2回) ・学級全体で共有する。	・"My Life"のQuestion 部分を音読し、生徒は リピートする。 Question4 モデルリーディング ALT/JTE 生徒と一緒に活動に参加する	ペアワーク中に中間指導を行う。自分の答えについての理由や追い質問について考える。
	3min-Writing (5分)	・Small Talkで話した 内容を書く。 ・ペアでチェック。 ALT/JTE 生徒の活動を支援する		★机間指導を行い、エラーについて指導する。ペア同士で気づいたエラーについて教え合うように指示する。
展開 (33分)	本時のねらいを確認する。 記事を読んで自分の意見を考えて伝え合おう			
	Oral Interaction (2分) Reading (8分)	・本文の内容を確認する。 ・生徒の提案を読んで提案の内容とその理由を述べている部分に線を引く。 ・それぞれの提案に対する賛否を決め、その理由になりそうな部分に線を引く。 ・提案の内容とその理由を全体で確認する。	・Oral Interaction ・モデルリーディング	◎書き手の意見とその理由を正確に読み取ることができる。 【ワークシート】
	Thinking (10分)	・提案の賛否を選び、席を分ける。 ・賛否の意見とその理由を整理して書き出す。 ALT/JTE 生徒の活動を支援する		◎積極的に2人の提案を読み、賛否を判断しようとしている。 【ワークシート】
	Speaking (13分)	・賛成派と反対派人数を確認し自由に討論する。自分の意見と理由を発表する。 ALT/JTE 生徒の活動を支援する		◎提案に対する賛否や自分の意見と理由を話すことができる。 ◎友達に納得してもらえよう意見と理由を伝えようとしている。 【ワークシート】
まとめ (5分)	本時の活動を振り返る。 (5分)	・Self-Evaluation Sheetに何を学んだか、何ができたようになったのかを具体的に書く。	Good bye, class.	★次回授業の連絡をして、予習・復習をしやすい状況を作る。

(3) 板書計画

Monday, October 16 th , cloudy	
Today's Menu	Q: What is good about this school?
Small Talk	A: I think that ...
3min-Writing	
Reading	
Thinking	
Self-Evaluation	

特別支援学級 職業家庭科指導案

令和5年10月16日(月)第4校時

場 所 特別支援学級 D 教室

生 徒 3年生 男子3人 女子3人 計6人

指導者 影山 純子

1 主題名 これからの私と家族

2 ねらい

私たち一人一人が唯一の存在であるように、家族一つ一つもかけがえのないものである。家族との関わりに関心を持つことや関係をより良くする方法を考える。また、本校の研究主題である「諸問題を自力解決できる生徒の育成」を目指し、これからの自分と家族との関わりや自分の生活について考えをまとめさせたい。

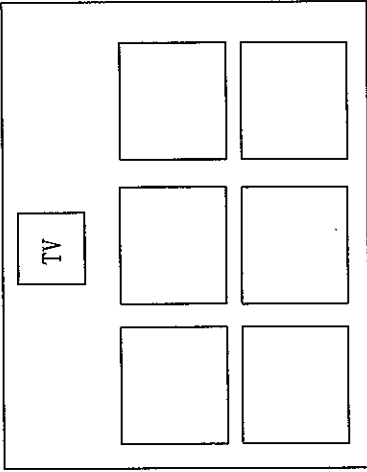
3 主題設定の理由

よりよい家族関係を築くことは、現在だけではなく将来の家庭生活を心地よいものにすることにつながっている。現在3年生は進路などいろいろなことで悩み、家族と意見や考え方が合わないこともある。そこで幼い頃から今まで、自分を育ててくれた家族について考えさせたい。さらに3月に卒業を迎えるにあたりこれからの自分の将来について考えさせたい。

4 生徒の実態及び個人のねらい

知的学級	生徒の実態	個人のねらい
男子 S	気になることがあるとすぐに質問をする。	自分の考えをまとめる。
女子 F	理解能力が低く、会話も成立しない。多くの支援が必要である。	自分で助けを求めながら、自分の考えをまとめる。
女子 M	困っている人を見るとすぐに声かける。自信がないと嫌がる傾向がある。	不安なところは助けを求めながら、課題に取り組む。
自情学級	生徒の実態	個人のねらい
男子 M	何か気になることがあると不安になる。	最後まで集中して自分の考えをまとめる。
男子 Y	今年度はサポート校に登校している。	授業に参加して課題に取り組む。
女子 A	周囲の状況と自分の考えが違っていると気持ちが不安定になる。	最後まで集中して自分の考えをまとめる。

5 本時の展開

時間	学習活動	○生徒の活動 ◎予想される生徒の反応 □指導者主な指示・発言等 ※支援の手立て ◇評価の観点	備考
導入	1 あいさつをする 2 本時のねらいを知る	○生徒の号令で授業を始める。 □「家族とのかかわりに関心をもとう」  教室配置	PC TV
展開	3 家族・家庭のことをどのくらい知っているか考える 4 動画を見ながら家族について考える 5 これからの自分について、曲を聴きながら歌詞を見て考える	○TVを見ながら教師の話を聞く。 ○ワークシートを見ながら課題を記入する。 ※課題に取り組めない生徒については適宜、助言を入れ思考を促す。 ○動画を見て、家族のために取っていた行動や言葉がけ、気づいたこと、感じたことをワークシートに記入する。 ◇課題に集中して取り組んでいるか。	PC TV ワークシート
終末	6 これからの自分に手紙を書く 7 教師の説話を聞く 8 あいさつをする	◎文章を書くことに抵抗を感じる。 ※考えがまとまらない生徒については適宜、助言を入れ思考を促す。 ○説話を聞けるように、体制を整える。 ○係の生徒の号令で授業を終える。	PC TV ワークシート

第5校時

授業	学年・組	教科	授業者	授業会場	ページ番号
研究	1年1・2組	保健体育	得能 宏樹	校庭	
	1年3組	美術	岡田 行生	絵画室	
	1年6組	数学	阿部 佳恵	1年6組	
	2年2組	社会	湯田 拓人	2年2組	
	2年3組	理科	加藤 琉唯	第1理科室	
	3年3組	国語	曾田 望	3年3組	
	3年4組	家庭	豊川 夏乃	3年4組	
	3年5組	音楽	山田 凌	第1音楽室	
	3年6組	英語	芝田 すみれ	3年6組	
	特別支援学級	自立活動	小野口 大輔	C教室	
公開	日本語指導	日本語指導	古山 三保	日本語指導教室	

第1学年1・2組 保健体育科学習指導案

令和5年10月16日(月)第5校時 校庭
 第1学年1・2組 男子45名 女子29名 合計74名
 授業者T1 川口市立青木中学校 教諭 得能 宏樹
 授業者T2 川口市立青木中学校 教諭 平井 千秋

1 単元名 「陸上競技」(長距離走)

2 題材設定の理由について

(1) 生徒の実態

全体的に素直で真面目な生徒が多く、与えられた課題に対して前向きに取り組むことができる。一方で、自ら運動のポイントを見付けたり、仲間の学習を補助したり、助言したりするなど、互いに気持ちよく学習しようという雰囲気や姿勢はやや少ない。運動部に所属している生徒が多く、1年生ながら高い運動能力をもつ生徒もいるが、長く走ることが苦手なことの他に、自分の足が遅いことや、足が遅いことで周りに迷惑をかけてしまうなど、走ることにに対して消極的な考えを持っている生徒もいる。

今年度新体力テスト【持久走】	1年男子	本校平均	7分28秒	県平均(昨年度)	7分05秒
	1年女子	本校平均	5分25秒	県平均(昨年度)	5分03秒

○意識調査の結果から

調査数 男子38名 女子28名

Q1. 体育の授業は好きですか。

回答	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
男子	16人 42%	16人 42%	6人 16%	0人 0%
女子	7人 25%	12人 42%	8人 29%	1人 4%

Q2. 「長距離走」は好きですか。

回答	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
男子	2人 5%	10人 26%	17人 45%	9人 24%
女子	2人 7%	8人 29%	9人 32%	9人 32%

Q3. 「長距離走」から思い浮かぶイメージには、どんなものがありますか。(複数回答可)

駅伝、マラソン、持久走、走り、難しい、疲れる、汗をかく、シャトルラン、筋肉痛

Q4. 「長距離走」で身に付けたいことや学びたいことは何ですか。(複数回答可)

体力、長い距離を走る力、肺活量、呼吸の方法、フォーム、テンポ、足を速くしたい

(2) 題材について

長距離走は、記録に挑戦するという克服型スポーツであり、技能を身に付けるために時間がかかることもあるが、自己の課題や目標を乗り越えたときの喜びも大きい種目である。陸上競技における第1学年及び第2学年では、「記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率のよい動きを身につけることができるようにする」ことをねらいとし、第3学年では、「各種目特有の技能を身につける」ことをねらいとしている。生徒の陸上競技に対する興味・関心を高め、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てることを目指し、本単元を設定した。

(3) 指導観

本校の研究主題である、「諸問題を自力解決できる生徒の育成」をするためには、個々の能力、適性、興味、関心に応じた学習指導に努めるとともに、学び合いや教え合い、主体的な学び方を提供する「アクティブラーニング」や、生徒一人一人に最適化された学び方を提供する「アダプティブラーニング」が有効である。今回は、陸上競技の「長距離走」でそれらを実践し、生徒の主体的な学び合いや教え合いを引き出すための計画的・意図的な指導の工夫をすることで、課題解決に主体的に取り組む学習指導の工夫になるのではないかと考えた。

本単元では、1年生で主体的な学び合いや教え合いをするために、保健分野と体育分野の関連を密にし、生徒自らが課題を設定し、何に取り組むかを自己決定していく機会を数多く設定した。その結果、生徒が何を学び、どんな成果が見られたのかを記録・蓄積し、2・3年時も見据えた長期的な指導・評価を行うとともに、学習指導要領のねらいにある通り、長距離走を走るための基本的な動きや、効率のよい動きを生徒自身がを見つけることで、長距離走の記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わわせたい。

3 本校研究主題との関連について

○本校研究主題「諸問題を自力解決できる生徒の育成」～話し合い活動を通じた人間関係づくりの充実～
教科研究主題「保健体育科における「言語活動の充実」を図るためのグループ活動」

生徒が諸問題を自力解決するための支援として、学習計画の最初に単元についての知識を座学にて重点的に学ぶ機会を設けることで、生徒が授業の活動に抵抗なく取り組めるようにしている。また、単元を通してペア活動を基本とし、選手役とコーチ役として役割分担をすることで、仲間の学習の伸びや課題をとらえやすくし、ペアへの助言やグループでの話し合い活動につなげやすいようにしている。また、毎時間、授業の導入で、本時の授業の流れとねらい、活動内容、発問等をホワイトボードに記入して提示している。さらに視聴覚教材を活用して技術の動画を用いたり、個に応じてきめ細やかな言葉かけを行うなど、生徒一人ひとりに適した学び方をふまえた指導を行っている。

4 題材（単元）の目標

- (1) 長距離走の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、ペースを守って走るなど、基本的な動きや効率の良い動きを身に付けることができる。
- (2) 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 陸上競技に積極的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ることができる。

5 題材（単元）の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に運動に取り組む態度
○知識 ①陸上競技の特性や成り立ちについて言ったり書き出したりしている。 ②技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。 ○技能 ③腕に余分な力を入れないで、リラックスして走ることができる。（正しい姿勢と腕振り・歩幅・接地） ④ペースを一定にして走ることができる。（ペース）	①提供された練習方法から、自己の課題に応じて、動きの習得に適した練習方法を選んでいる。 ②提示された動きのポイントやつまづきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ③体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や競走を行う方法を見付け、仲間に伝えている。	①自身の体調の変化等、健康・安全に留意している。 ②長距離走の学習に積極的に取り組もうとしている。 ③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。 ④用具等の準備や後片付け、記録などの分担した役割を果たそうとしている。

評価	1	2	③	4	5	6	7	8
ねらい	長距離走の特性や学習のねらいを理解し、知識を身に付けよう。	自己に適した練習のテーマを選択して走ろう。	ペース走で中間の課題や出来映えを伝えよう。①	ペース走で中間の課題や出来映えを伝えよう。②	第1回タイムトライアルで、練習の成果を確認しよう。	自己の理想の走り方の完成イメージを作ろう。	自己に適した走り方で前向きに気持ちよく走ろう。	第2回タイムトライアルで、自己の目標タイムに挑戦しよう。
指導内容	・特性や約束事、学習の仕方、高まる体力 ・授業の流れの説明 ・準備・片付けや安全に配慮した練習の行い方 ・練習方法の内容 ・練習計画の立案	・W-up計画の確認 ・練習のテーマの選択	・W-up計画の実践 ・練習のテーマの決定・実践	・前時の継続及び発展 ・ペアの課題発見と出来映えの伝え方の確認	・自己の目標の確認 ・自己のペースの確認 ・自己のテーマの確認	・自己のテーマの確定 ・自己のペースの確定	・自己の目標の確定 ・話し合いの参加の仕方 ・仲間との関わり方	・学習の成果の発表
学習過程	4 オリエンテーション ・長距離走の特性や、高まる体力についての説明 ・授業の目標の確認 ・授業の流れの説明 ・ルールや授業の約束事についての説明 ・練習のテーマ（歩幅・姿勢・接地・呼吸）の説明 ・W-up方法の紹介・計画の立案 ・練習方法の説明 5 まとめ・振り返り 6 次時の予告 7 挨拶・片付け	4 W-up方法の確認・実践（10分間） 5 試走 ・ペース走（10分間） ・レーン選択 ・テーマを1つ選択 6 整理運動 7 健康観察 8 まとめ・振り返り 9 次時の予告 10 挨拶・片付け	4 W-up（10分間） 5 ペース走 ・テーマを1つ選択 ・前半組・後半組の決定 ・各10分間走 ・レーン選択 ・役割分担（選手役・コーチ役に分かれる） ・ICTを活用 6 整理運動 7 話し合い活動 ・目標ラップの確認 ・テーマの反省 8 健康観察 9 次時の予告 10 挨拶・片付け	4 W-up（10分間） 5 ペース走 ・テーマを1つ選択 ・前半組・後半組の決定 ・各10分間走 ・レーン選択 ・役割分担（選手役・コーチ役に分かれる） ・ICTを活用 （ペアの課題や出来映えを伝える。動きを確認する） 6 整理運動 7 話し合い活動 ・目標ラップの確認 ・テーマの反省 8 健康観察 9 次時の予告 10 挨拶・片付け	4 W-up（10分間） 5 タイムトライアル ・2000m（200mトラック）または3000m（250mトラック）を選択 ・テーマを1つ選択 ・前半組・後半組の決定 ・役割分担（選手役・コーチ役に分かれる） 6 整理運動 7 健康観察 8 まとめ・振り返り 9 次時の予告 10 挨拶・片付け	4 W-up（10分間） 5 ペース走 ・テーマを1～2つ選択 ・前半組・後半組の決定 ・各10分間走 ・レーン選択 ・役割分担（選手役・コーチ役に分かれる） ・ICTを活用 （ペアの課題や出来映えを伝える。動きを確認する） 6 整理運動 7 話し合い活動 ・目標ラップの確認 ・テーマの反省 8 健康観察 9 次時の予告 10 挨拶・片付け	4 W-up（10分間） 5 ペース走 ・テーマを1～2つ選択 ・前半組・後半組の決定 ・各10分間走 ・レーン選択 ・役割分担（選手役・コーチ役に分かれる） ・ICTを活用 6 整理運動 7 話し合い活動 ・目標ラップの確認 ・テーマの反省 8 健康観察 9 次時の予告 10 挨拶・片付け	4 W-up（10分間） 5 タイムトライアル ・2000m（200mトラック）または3000m（250mトラック）を選択 ・前半組・後半組の決定 ・役割分担（選手役・コーチ役に分かれる） ・ICTを活用 6 整理運動 7 話し合い活動 ・目標ラップの確認 ・テーマの反省 8 健康観察 9 次時の予告 10 挨拶・片付け
評価計画	知・技 ①	① ④	②	②	③	③	③	④
	思考表							
	①				②			③
方法	観察 学習カード	観察 学習カード ICT	観察 学習カード ICT	観察 学習カード ICT	観察 学習カード ICT	観察 学習カード ICT	観察 学習カード ICT	観察 学習カード ICT
場面	4, 5	4, 5, 8	4, 5, 8	4, 5, 7, 8	4, 5, 8	4, 5, 8	4, 5, 7, 8	4, 5, 8

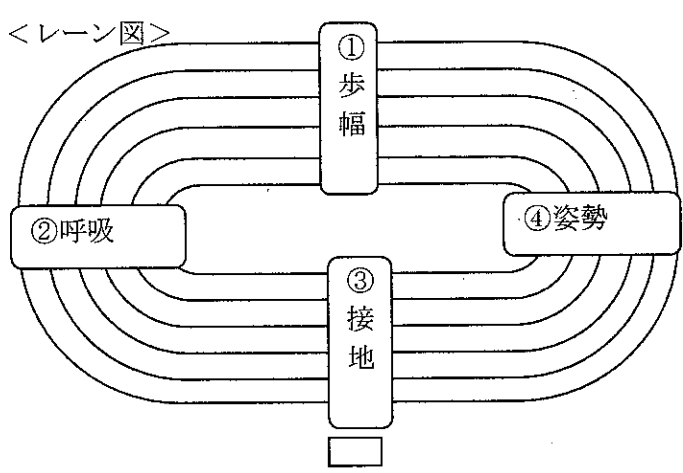
7 本時の学習（3/8）

（1）本時のねらい 仲間の課題や出来映えを伝えることができるようにする。【思考力・判断力・表現力】

（2）準備

- ・ビブス ・ストップウォッチ ・デジタルタイマー ・カラーコーン ・スピーカー ・延長コード
- ・ホワイトボード ・学習カード

（3）展開

段階	学習活動	指導上の留意点（○：指導 ◆：評価基準）
導入 12分	1 準備、集合、整列、挨拶、出欠確認、健康観察 2 本時のねらいの確認 仲間の課題や出来映えを伝え合おう。 3 ペアやグループで準備運動 ・ウォーミングアップ計画表に沿って、①体温の上昇、②関節の可動域の拡大、③心拍数の増大を目的に行う。	○始業前に集合・整列をさせる。 ○大きな声を出して挨拶をさせる。 ○体育委員を中心に欠出確認及び健康観察をさせる。 ○ホワイトボードを利用して、本時の流れ及びねらいを理解させる。 ○巡視を行い、必要に応じて個別指導を行う。 ○準備運動の目的①②③をバランスよく行わせる。
展開 30分	4 テーマ別練習（ペース走） ・テーマを ① 歩幅（ピッチとストライド） ② 呼吸 ③ 接地 ④ 姿勢（フォーム） から1つ選択する。 ・自分の走るトラック 160m・180m・200m・220m・240mを選択する。 ・ペース走を行う。 ・ペースは、共通して1周 60 秒とする。 ・周数は、共通して10 周とする。 ・時間は、共通して10 分間とする。 ・前半組は選手役としてトラックを走り、後半組はコーチ役としてトラック内で選手役を観察しながら助言を行い、学習カードを記入する。 <レーン図>  ・前半組・後半組を交代して行う。	○前時の振り返りを行い、本時のねらいをわかりやすく説明する。 ○見学者には、計時の補助やアドバイスをするように指示する。 ○活動場所に素早く移動できるように積極的に声かけをする。 ○ペース通りに走れない生徒がいた場合は、励ましながらか助言する。 ○ペア（選手役とコーチ役）で教え合ったり、励まし合ったりしながら学習に取り組めるよう声かけを行う。 ○音楽を流し、生徒が前向きに気持ちよく走れるように声かけを行う。 ◆仲間の課題や出来映えを伝えることができる。 【思考力・判断力・表現力】 △努力を要すると判断される状況（C）の生徒への指導の手立て ・正しい走り方やフォーム等を学習資料等から確認したり、修正したりしながら取り組むことができるようにする。 ・選択したペースより遅れている場合は、内側のレーンに入って集団で走ることができるように指導する。 ◎十分に満足できると判断される状況（A）の生徒の具体的な姿 ・選択したテーマについて、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ・選択したレーンで、設定したペースで走りきることができる。
整理 8分	5 集合、整列、整理運動、健康観察 6 本時のまとめと次時の課題の確認 7 挨拶、後片付け	○素早く集合させ、整理運動を行わせる。 ○学習カードの記入を行い、本時の学習について評価し、次時への意欲を持たせる。 ○大きな声を出して挨拶をさせ、協力して後片付けをさせる。

日 時 令和5年10月16日(月) 第5校時

場 所 絵画室

生 徒 男子23名 女子14名 計37名

授業者 教諭 岡田行生

1 題材名 「タンブラー制作」

2 題材設定の理由について

(1) 生徒の実態

本学級は元気で明るく、美術の授業に前向きに取り組んでいる生徒が多い。美術に苦手意識を持っている生徒もいるが、一生懸命に授業に取り組み、最後まで諦めずに作品を完成させようと努力する姿が見受けられる。与えられた課題に対しては、活発な意見交換や、生徒同士が自然に教え合うなど、お互いに刺激し合ってよいものを作ろうとする雰囲気がある。課題によっては制作進度に差が出てしまうことがあるので、わかりやすい指導を心掛けるとともに、一人一人丁寧に対応していきたい。

(2) 題材について

身の回りにはたくさんの商品が溢れている。生徒が持ち歩くお気に入りの筆箱の中には、こだわりの文具が揃っている。使用する側として生徒が自分のお気に入りを選んだ理由は何だろうか。その理由を考えることから、さらに商品を作る側の意図を想像させていきたい。この題材では、タンブラーという商品の企画からデザイン化に至るまでの工程を体験し、コンセプトを持ったデザイン制作の面白さや楽しさを感じ取らせたい。

(3) 指導観

タンブラーを使用する対象や目的を考え、作る理由を明確にしていく作業をする。誰に使用してもらいたいのか、使用した人をどんな気持ちにさせたいかなど、デザイン案に取り掛かる前の考える作業の大切さを伝え、発想や構想を広げていく。具体的なテーマが決まった段階で、アイデア案を数点作成する。実制作にあたっては、アクリル絵具をメインに、サインペンや色鉛筆など、より効果的な彩色手段も考えていく。タンブラーのデザイン制作を通して、表現意図を明確にするための発想や構想の能力、それらを表現するための技能を伸ばしていきたい。

3 本高研究主題との関連について

本校の研究主題は「確かな学力の育成と豊かな学びの実現を図る学習指導」である。

美術は作品制作を通して、主体的に課題に取り組むことを自然に学ぶことができる教科である。自分自身の様々な能力を働かせながら、創造的な作品を作り出すことは、問題を解決していく学習活動そのものと言える。そして、作品を制作する過程や鑑賞の時間の中で、他者との違いを感じ、その作品のよさを認めることは、一人一人の個を尊重する寛容の精神を育み、様々な価値観を共有する多様性を授業の中で学ぶことができる。

本題材においては、商品としてのデザイン制作を通して、生活と美術の関係を考えるきっかけを作りたい。美術の表現活動は社会と深い関わりを持ち、自分の生活を豊かにしていくことにつながる。

4 題材の目標

- ・ 商品を作る人と商品を受け取る人の気持ちをイメージしながら発想し、デザインの構想を練ることができるようにする。
- ・ 商品イメージを効果的に伝えるために、図柄や配色を考え、表現方法を創意工夫して制作できるようにする。

5 題材の評価基準

- ・ 形や色彩が感情にもたらす効果を理解し、意図に応じて表現方法を創意工夫し、制作の手順なども考えながら、見通しをもって課題に取り組んでいる。(知識及び技能)
- ・ 使用する目的や条件などを基に、その商品を受け取る人の気持ちを考えたデザインの構想を練っている。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の学習活動に取り組んでいる。(主体的に学習に取り組む態度)

6 指導計画 (8時間扱い)

構想を練る	使用する人の気持ちを考えながら、商品のコンセプトを練り、それを基に商品2点のイメージ図を作成する。	2時間
デザイン案	イメージ図を基に、タンブラーの展開図の形にデザイン案を作成する。	2時間
下書き	デザイン案を基に、清書用のケント紙に鉛筆で丁寧に下書きをする。	1時間
彩色	アクリル絵具をメインに、サインペンや色鉛筆など効果的な方法を工夫しながら彩色し、完成させる。	2時間
鑑賞	自他の作品のよさを感じ取り、制作者に伝わるようにわかりやすく文章化する。	1時間

7 本時の学習 (3/8時間)

(1) 目標

前回作成したイメージ図を基にデザイン案を作成する。タンブラー独特の扇型の形を意識しながらイメージを落とし込む作業をする。そのまま清書の作業ができるくらい完成度の高いデザイン案にする。

(2) 展開

学習過程	学習活動	指導上の留意点
導入 (10分)	・ 前時の学習を振り返る。	・ 使用する人の気持ちを考えてイメージしたものであることを確認する。
展開 (30分)	・ イメージ図を基に、アイデアスケッチを繰り返しながらデザイン案を作成する。 ・ 席移動をして、周りの生徒の発想に刺激を受ける。	・ タンブラー独特の扇型にデザインをすることを理解させる。 ・ アイデアスケッチを促し、イメージを具現化させる。 ・ 一人一人に声をかけ、生徒の作品のイメージが広がっていくように、よさや可能性に気付かせる。
まとめ (10分)	・ 本時の学習活動を振り返る。	・ 次時の見通しや用意してくるものなどを伝える。

第1学年6組 数学科学習指導案

日時 令和5年10月15日(月) 第5校時
場所 川口市立青木中学校1年6組教室
生徒数 女子23名 男子14名 計37名
授業者 教諭 阿部 佳恵

1 単元名 変化と対応

2 単元について

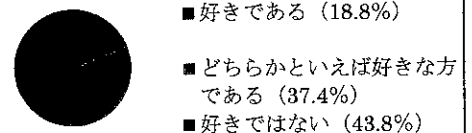
(1) 題材観

小学校では、第4学年から第6学年にかけて、数量の関係を□、△や文字 x, y を使って式に表し、それらに数を当てはめて調べたり、変化の様子を折れ線グラフで表して特徴を読み取ったり、比例や反比例の関係を理解し、これらを用いて問題解決する場面が設定されている。中学校においては、第1学年で、具体的な事象の中からともなって変わる2つの数量を取り出して、その変化や対応の仕方に着目し、関数関係の意味を理解できるように教材が設定されている。また、負の数への拡張や関数の概念を基にして、算数で学習した比例・反比例を関数として捉え直す必要がある。中学校における関数についての学習内容を深めていく第一歩として、かつ後の学習の素地となる大切な単元である。

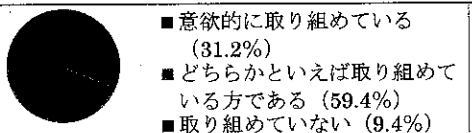
(2) 生徒観

本学級の生徒は学習アンケート(8月実施、生徒数32名回答)によると、「数学を学習することについて」という質問に対し、肯定的な回答をした生徒が56%ほどであった。また「数学の学習の取り組みについて」という質問に対し、肯定的な回答をした生徒は90%ほどであった。このことから、数学を学習することに対して難しさを感じつつも前向きに捉えて取り組む生徒が多い。授業中は、こうした生徒を支援しつつ、生徒同士が互いに考え方を話し合う活動を意図的に取り入れて指導していく。

① 数学を学習することについて



② 数学の学習の取り組みについて



(3) 指導観

この単元は、これから先の関数の学習の基礎となる。特に、比例や反比例の関係を表やグラフに表すことを通して、その特徴を把握することは、今後の学習でもよく出てくる内容であるので、その手法をきちんと理解させたい。また、表やグラフは、説明の手段としても利用することを理解させ、積極的に利用するように指導する。さらに、式が2つのともなって変わる数量の関係を表したものであることや変数と定数の違いは生徒にとって理解しにくいことであるので丁寧に扱い、きちんと理解できるようにさせたい。

3 本校研究主題との関連について

○本校研究主題「諸問題を自力解決できる生徒の育成」

数学科研究主題を「基礎学力の徹底と論理的な表現の向上」とし、日々の指導にあたっている。毎回、授業の開始時には、本時の授業内容を提示し、生徒一人一人にしっかりと課題意識を持たせるようにするとともに、授業最後には、学習内容や理解したこと、今後の課題などのまとめを生徒自身のことばで書くことにより、何を学んだのか振り返りを行い、授業内容を理解できたかどうか把握し、次の授業へ

とつながるようにしている。また、基礎・基本の定着が重点努力事項と考え、小単元毎の小テストの実施、学習課題の精選および課題達成状況をプリントに視覚化すること、ペア学習やグループ学習の工夫、優秀レポートの構内掲示などを実践し、生徒一人として、取りこぼすことのないよう指導を行っている。

4 単元の目標

- (1) 関数、比例、反比例について理解することができる。また、座標の意味を理解することができる。
 比例、反比例の関係を表、式、グラフに表すことができる。【知識および技能】
- (2) 比例、反比例として捉えられる2つの数量について、表、式、グラフを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだすことができる。また、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。【思考力、判断力、表現力】
- (3) 比例、反比例のよさに気付いて粘り強く考え、比例、反比例について学んだことを生活や学習に活かそうとしたり、比例、反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりする態度を身に付ける。【学びに向かう力、人間力等】

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①反比例の意味を理解している。 ②反比例の関係を、表や式に表すことができる。 ③反比例の変化や対応の特徴を理解している。	①具体的な事象の中にある2つの数量の関係を、変化や対応の様子に着目して調べ、反比例の関係として捉えられた2つの数量を見いだすことができる。 ②変数や定数が負の数の場合について、反比例の変化や対応の特徴を考察し表現することができる。	①具体的な事象の中から反比例の関係として捉えられる2つの数量を見いだしたり、その関係を式で表したりしようとしている。 ②変数や定数が負の数の場合について、反比例の変化や対応の特徴を考えようとしている。

6 指導計画（時間）

小単元等	授業時数	
1. 関数	3時間	18時間
2. 比例の式	2時間	
3. 座標	1時間	
4. 比例のグラフ	3時間	
5. 反比例の式	2時間	
6. 反比例のグラフ	3時間	
7. 比例、反比例の利用	2時間	
8. 単元のまとめ	2時間	

7 本時の指導計画（本時 10/18 時間）

(1) 本時の目標

面積が一定のときの長方形の縦と横の長さの関係について調べる活動を通して、2つの数量の変化や対応の特徴を見出し、反比例の意味を正しく理解する。
 (知識および技能)

(2) 本時の展開

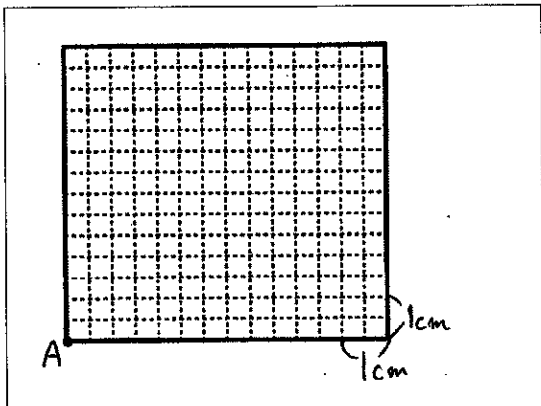
段階 (時間)	学習活動	教師の指導 (◎) 予想される生徒の反応 (・)	指導上の留意点 (○) 評価の視点 (□)
導入 (5分)	1 課題を知る。	○ワークシートを配布し、課題を板書する。	
	【課題】 面積が 6 cm^2 の長方形の横の長さを $x\text{ cm}$、縦の長さを $y\text{ cm}$ とするとき、x と y の関係を考えよう。		
展開 (40分)	2 個人で考える。	◎ワークシート①に面積が 6 cm^2 の長方形をいろいろ書くように指示する。 ・横の長さが 1 cm のとき、縦の長さは 6 cm 、横の長さが 2 cm のとき、縦の長さは 3 cm …、と長方形をかいている。 ・辺の長さを整数値ばかりとって長方形をかいている。 ◎ワークシート②に、 x と y の関係を表にまとめるよう指示をする。 ◎ワークシート③に、①②をふまえて x と y の関係で気付いたことをかくよう指示する。 ・ x と y は関数の関係にある。 ・ x が 2 倍、3 倍、4 倍、…になると y の値は $\frac{1}{2}$ 倍、 $\frac{1}{3}$ 倍、 $\frac{1}{4}$ 倍、…になる。 ・ $x \times y = 6$ ・ x と y は反比例の関係。 ・ $y = \frac{6}{x}$ ・ x の値が増加すると、 y の値は減少する関係になっている。	○1つの頂点を A として長方形をかくこと、方眼の 1 目盛りが 5 mm であることを確認する。 □反比例の意味を正しく理解しているか。 【知識および技能】 B：反比例の特徴のうち、1 つは分かる。 C：特徴が全く分からない。 <評価方法> 行動観察 <手立て> ○B の生徒には、気づいていない特徴のヒントを出す。 ○C の生徒には、既習事項の比例と比べたり、表を縦に見たり横に見たりするように促す。
	3 グループで話し合い (他者の考えに触れる)	◎3～4 人のグループで考えを発表し合い、意見をまとめるよう指示する。 ◎友達の考えもワークシートに書くよう指示する。	○3～4 人グループをつくり、発表しあう。 ○文字式の表し方を確認する。
	4 全体で考えを共有する	◎グループ内で出た考えを、発表用としてホワイトボードに書くよう指示する。 ◎ワークシートの活動から、 $y = \frac{6}{x}$ の関係を見いだした後、一般化して反比例を定義する。	○関数としての反比例を小学校で学んだときよりも広げて考察していく。
	5 反比例を定義する		

	6 問題を解く	◎身近にある具体的な数量の関係を式に表し、式の形から反比例であることを示す問題を解くよう指示する。	○式に表すことができないければ、数量の関係を読み取って、×や÷を用いて関係を式に表してから、 $y = \frac{a}{x}$ の形に式変形するように助言する。
問題 次の(1)、(2)について、yはxに反比例することを示しなさい。 (1) 50 cmのテープをx等分したときの、1本の長さy cm (2) 面積が18 cm²の三角形の底辺x cmと高さy cm			
		・(1) xとyの関係を式に表すと、$y = \frac{50}{x}$だから、yはxに反比例する。比例定数は50。 ・(2) xとyの関係を式に表すと、$y = \frac{36}{x}$だから、yはxに反比例する。比例定数は36。	
まとめ (5分)	6 本時のまとめをする	◎今日の授業で学んだことは何かを尋ねる。 ・反比例 ・反比例の性質 ・反比例は関数 ◎振り返りシートに記入するよう指示する。 ◎次回の授業にむけて、「反比例の負の数への拡張」を示唆する。	○何を学んだか自由に口頭で発表させる。

(3) 板書計画

[課題]

面積が6 cm²の長方形の横の長さを x cm、縦の長さを y cmとすると、 x と y の関係を考えよう。



x	1	2	3	4	5	6
y	6	3	2	1.5	1.2	1

ホワイト
ボード

ホワイト
ボード

ホワイト
ボード

ホワイト
ボード

ホワイト
ボード

ホワイト
ボード

ホワイト
ボード

ホワイト
ボード

ホワイト
ボード

[問題]

(1) x と y の関係を式に表すと、 $y = \frac{50}{x}$ だから、 y は x に反比例する。比例定数は50。

(2) x と y の関係を式に表すと、 $y = \frac{36}{x}$ だから、 y は x に反比例する。比例定数は36。

まとめ

y が x の関数で、その間の関係が、
 $y = \frac{a}{x}$ a は定数
 で表されるとき、
 y は x に反比例するという。このとき、
 定数 a を比例定数という。

第2学年2組 社会科（地理的分野）学習指導案

日 時 令和5年10月16日（月）5校時

場 所 2年2組教室

指導者 教諭 湯田 拓人

在籍数 男子20名 女子19名 計39名

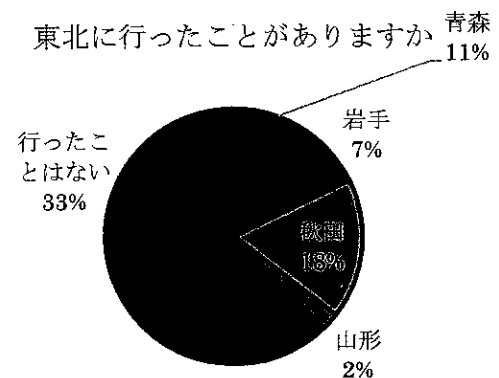
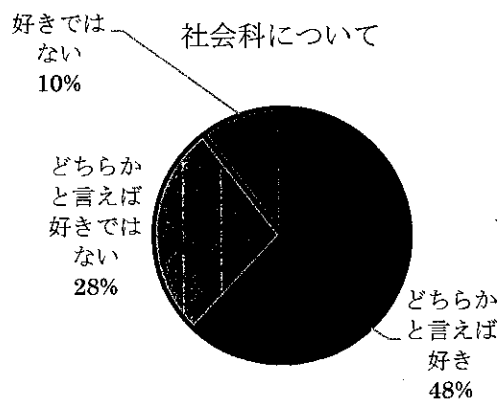
1 単元名 日本の諸地域 東北地方

2 単元について

(1) 教材観

本小単元は、「中学校学習指導要領（平成29年）」社会の地理的分野の大項目C「日本の様々な地域」の（3）日本の諸地域 に位置付く。小単元の主なねらいは、①幾つかの地域に区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解すること。②各考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解すること。③日本の諸地域において、それぞれ各考察の仕方でも扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することである。こうした学習の全体を通して、日本の諸地域の地域的特色や地域の課題とともに事象間の関係性を理解できるようにすることが求められている。

(2) 生徒観



どちらかと言えば社会科が好きな生徒が多い学級集団である。「社会科の授業・学習で難しい・苦手と覚えるのはどんな部分ですか」という質問からは、「覚えることが多い」「地名などを覚えるのが苦手」「グラフを読み取る問題」「理由を文章で説明すること」というような答えが多く、知識の習得への苦手意識が強い生徒が多いことに加え、思考・判断・表現にかかわる学習活動への苦手意識を持つ生徒が多いことが分かった。また、本単元で学習する東北地方については、30%近くの生徒が訪れたことがなく、「東北地方について知っていることを教えてください」という質問には、「寒い」「リンゴが有名」「米を作っている」など気候・特産物に関する答えが多い一方、東北が災害の多い地域であることを挙げる答えはなかった。

(3) 指導観

指導にあたっては、次の3点を指導上の工夫として実践する。第一に、資料を積極的に提示するよう心がける。数値などのデータはもちろん、写真資料や映像資料を積極的に活用することで、文字のみでの理解に陥らないようにしていきたい。第二に、対話的な学びの場面において、自分の考えを持たせたうえで小グループでの活動に臨ませる。課題や資料をまず各自で読んだり読み取ったりする時間を設け、一人ひとりに一度は自分の力で取り組ませるようにする。それを踏まえて小グループで意見を出し合わせたり話し合わせたりすることで、学びが深まるようにしていきたい。その際、生徒の実態を踏まえて個別での声掛けを適宜行っていく。第三に、学習課題を意識させる働きかけを行う。授業の途中で一度課題に立ち返る場面を設けることで、課題に対する答えがどこまで明らかになっているのか、次にどんなことを考える必要があるのかなど生徒に問いかけ、生徒が課題を意識できるようにしたい。

3 研究主題との関わり

本校研究主題「確かな学力の育成と豊かな学びの実現を図る学習指導」

教科研究主題 ～言語活動の充実を軸とした指導と評価を一体化したシステムの構築

手立て：発表を充実させた授業展開、話し合い活動による発言機会の充実

自身の発言を振り返る場面の設定

4 単元のねらい

- ・生活・文化を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象とそれに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。(知識・技能)
- ・東北地方の生活・文化の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。(思考・判断・表現)
- ・東北地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。(主体的に学習に取り組む態度)

5 単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・東北地方の地域的特色や地域の課題を理解している。 ・生活・文化を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。	・東北地方において、生活・文化の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	・東北地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

6 指導計画（4時間扱い）

	主な学習内容	学習目標
1	1 東北地方をながめて 東北地方の地形と人々 東北地方の気候と人々 2 祭りや年中行事の伝統とその変化 いましめと祝いの民俗行事 農家の生活と結び付いた夏祭り 気候に応じた食文化	・東北地方について、地形図や、写真などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。 ・東北地方の生活・文化について、伝統的な民俗行事の資料を通して理解する。 ・東北地方の伝統行事や習慣を通して、自然環境や歴史的背景、産業などの地域的特色を理解する。
2	3 伝統工芸品の生産・販売とその変化 地域の資源と結び付いた伝統工芸 世界の市場と結び付いた伝統工芸 社会の変化と結び付いたものづくり	・東北地方の伝統産業や地場産業の特色について、自然環境との結び付きから理解する。 ・伝統的な産業が、世界市場や社会の変化と結び付きながら変化し、発展していることを考察する。
3 本時	4 過去の継承と未来に向けた社会づくり くり返す地震や津波の被害 教訓を伝え、引きつぐ 新しいまちや社会をつくる	・東北地方でくり返されてきた地震や津波の被害に着目し、被災した人々が残した教訓について理解する。 ・東北地方の生活・文化と不可分な災害の歴史と教訓を通して、先人の思いや今後の社会の在り方について考察する。
4	東北地方をふり返ろう 東北地方の地名を確認しよう 東北地方の探究課題を解決しよう	・東北地方で伝統を守り継承する動きが見られる理由について多面的・多角的に考察し、表現する。

7 本時の学習指導（3／4時）

（1）目標

- ・東北地方でくり返されてきた地震や津波の被害に着目し、被災した人々が残した教訓について理解する。（知識・技能）
- ・東北地方の生活・文化と不可分な災害の歴史と教訓を通して、先人の思いや今後の社会の在り方について考察する。（思考・判断・表現）

（2）本時の展開

	○学習内容	◇学習活動 ■生徒の反応	●指導上の留意点 ◎評価
導入 5分	○過去の継承と未来に向けた社会づくり	◇東日本大震災に関する映像を視聴する。 ◇東北地方は災害に見舞われてきた地方であることを認識する。	●過度にショッキングな内容にならないようにする。
	学習課題：災害の被害を少なくするには、何が必要？		

展開① 10分	くり返す地震や津波の被害	◇東北地方に立てられた石碑を見て、何を伝えるものか読み取る。 ■津波がどこまで来たか ■ここより下に家を建てると危険という警告 ◇東北地方には、過去の地震の被害を後世に伝えるものが残されていることを知る。 ◇災害に強い社会をつくるためには何が必要か考える。 ■過去の災害を風化させずに教訓を継承していくこと。	◎東北に残る災害の教訓について理解している。(知技) ●ここまでの学習を踏まえて考えさせる。
展開② 30分	教訓を伝え、引きつぐ新しいまちや社会をつくる	◇災害に強い社会をつくるために他に何が必要か、課題意識を高める。 ◇仮想のまちをもとに、地震や津波につよいまちにするための取り組みを考える。 ◇発表用のシートにまとめて、発表する。	●個人で考えた後、4人班で考える。 ●優先順位を意識させる。
まとめ 5分		◇災害に強い社会をつくるためには何が必要か考える。 ■避難の要になる施設を海岸や崖付近から遠ざける。 ■一人ひとりの防災意識を高める。	◎災害に強い社会をつくるために必要なことが何か、多面的・多角的に考えている。

8 板書計画

課題

災害の被害を少なくするには、何が必要？

①津波がどこまで来たか
ここより下に家を建てると
危険という警告

②津波のことを忘れないために、あえて建て
替えが必要な木製にしている。

各グループの発表

災害の被害を少なくするには？

- ・過去の災害の記録を残すこと
- ・被害が予想される場所に建物を建てない



地理 23 東北地方②

教 236-239



←東北地方にある石碑
書いてある文章はどういう意味でしょうか。

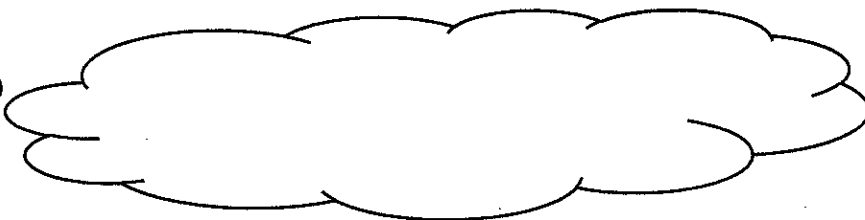
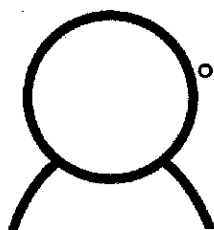
①



←この碑はなぜ、

②

③碑を建てた人々は、



問題 1

必要だと考えますか。

するためには、どんなことが

災害に強い「まち」、強い「くに」とは…？（その2）

「危険な所」から「安全な所」に

いろいろなもの「移されて」いる

まず、「危険な場所」はどこかを考えます。そしてその危険な場所にあるいろいろなものを、できるだけ「安全な場所」に移していきます。これできれば「まち」も「くに」も災害に強くくなります。どんな所が危険かといえば…

- 「津波が来る」と言われている海辺（しかも、堤防なし）
- 「洪水になる」と言われている川辺（しかも、ダムも堤防もない）
- 「地震が来る」と言われている「まち」（しかも、地震によわい建物）
- 「崖の立て地」（よく揺れ、家壊れしやすい）
- 「急ながけ」の下（おけ崩れ、になりやすい）
- 「谷筋」の場所（しかも、砂防ダムなし、土砂流の被害にあいやすい）

考えよう

このイラストの

「まち」や「くに」、何をどこに移動させれば、強くなるのか考えてみよう。

●ポイント1

全てをすぐに移すことはできないので、何を優先すればよいでしょうか？

●ポイント2

移すことが無理な所は、どのように強くすればいいのでしょうか？

（前のページなども見ながら考えてみよう）

日本地図が描かれているところに、たくさんの人々が集まっている町を、どうすれば災害に耐えて、強くするのでしょうか？ いろいろ考えてみよう。

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い

人口の多い
人口の多い



第2学年3組 理科学習指導案

令和5年10月16日(月)第5校時

第2学年3組・40人・第一理科室

授業者 加藤 瑠唯

1 単元名「電流とその利用」

2 題材設定の理由について

(1) 生徒観

本学級の生徒は、授業に対して意欲的に参加する生徒が多い。積極的に発言をする生徒も多い。特に一問一答形式の質問に対してよく答えられる。ただし、実験の結果から分析し解釈し規則性や関係性を見いだすことが苦手な生徒が多い。また、記述でまとめることも苦手である。身の回りの事象について自分の予想や仮設を立て、課題を主体的に解決し、理科への探求心を見いだせるように授業の展開を図る。

(2) 教材観

本単元では、理科の見方・考え方を働かせ、電流とその利用についての観察、実験を行い、電流、電流と磁界について日常生活や社会と関連付けながら理解させるとともにそれらの観察、実験などに関する技能を身に付けさせ、思考力、判断力、表現力等を育成していく。

(3) 指導観

思考力、判断力、表現力等を育成するにあたっては、電流、磁界に関する現象について、見通しをもって課題を解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流の働き、電流と磁界、静電気の規則性や関係性を見いだして表現させるようにする。「電流とその利用」の学習では、第2学年で主に重視する探求の学習過程として、課題を解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する活動場面を取り入れて展開する。

3 本校研究主題との関連について

本校研究主題「諸問題を自力解決できる生徒の育成」

教材研究主題「自然を主体的に調べる授業の展開」

本校では、課題を意識せずに観察や実験に取り組む生徒がいる。一人一人が自ら課題を持って観察、実験に取り組み、自然の事物・現象を主体的に学ぶ姿勢を養うことが課題である。その課題を達成するために、少人数による実験の実施、話し合いによる意見の共有、レポート課題における考察の機会の確保などの取り組みを行い、課題の解決を図っている。

4 単元の目標

電流、磁界に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、電流、電流と磁界のことを理解する。電流、磁界に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案、実験を行い、その結果を分析し、電流と電圧、電流の働き、静電気、電流と磁界の規則性や関係性を見いだして表現する。また、電流とその利用に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養うとともに自然を総合的にみることができるようにする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
電流、磁界に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、電流、電流と次回を理解しているとともにそれらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	電流、磁界に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流の働き、静電気、電流と磁界の規則性や関係性を見いだして表現している。	電流とその利用に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。

6 学習計画及び評価計画(19時間扱い)

本単元 電流とその利用

1章 電流と回路 (7/11時間)

2章 電流と磁界 (5時間)

3章 電流の正体 (3時間)

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考
1	豆電球を光らせる 直列回路と並列回路	主		小学校での知識をもとに豆電に電流を流すための方法を科学的に探求しようとしている。
2	電流の向き・大きさ 電流計の使い方	知		・電流の向き、大きさの表し方を理解している。 ・電流計の使い方を理解している。
3	回路図の書き方 回路図をもとに回路を組み立てる	知	○	回路図を理解して、実際に回路を組み立てることができる。
4	直列回路と並列回路の電流の大きさを調べる実験 ①	思 ・ 判 ・ 表	○	直列回路と並列回路の各点を流れる電流を調べる実験を見通しをもって立案し、表現している。
5	直列回路と並列回路の電	思	○	直列回路と並列回路の各点を流れ

	流の大きさを調べる実験 ②	・ 判 ・ 表		る電流を調べる実験の結果を分析して解釈し、回路の各点を流れる電流の規則性見いだして表現している。
6	電圧の大きさ 電圧計の使い方 直列回路と並列回路の電圧の大きさを調べる実験 ①	思 ・ 判 ・ 表		電圧の大きさ、電圧計の使い方をもとに直列回路と並列回路の各点を流れる電圧を調べる実験の見通しをもって立案し、表現している。
7	直列回路と並列回路の電圧の大きさを調べる実験 ②	思 ・ 判 ・ 表	○	直列回路と並列回路の各点を流れる電流を調べる実験の結果を分析して解釈し、回路の各点を流れる電流の規則性見いだして表現している。
8	直列回路と並列回路の電流と電圧の関係①	主		直列回路と並列回路の各点を流れる電流を調べる実験の結果から電流と電圧の関係を科学的に探求しようとしている。
9	直列回路と並列回路の電流と電圧の関係②	知		回路の電流と電圧の関係を調べる実験を行い、電圧と電流の関係をグラフで表す技能を身に付けている。
10	オームの法則 抵抗のつながり方と抵抗の大きさ	知	○	回路の電流と電圧の関係、抵抗や合成抵抗を計算して正しく求めている。
11	電力と熱量の関係	知	○	電流から熱や光などを取り出せること、電力と熱量の関係や電力量について電圧や電流、時間、水の温度変化などから適切に説明し、電力や熱量、電力量を計算して正しく求めている。

7 本時の学習(7/11)

(1) 本時の目標

直列回路と並列回路に加わる各点の電圧の違いを調べ、その規則性を明らかにする。

(2) 本時の展開

	学習活動	T教師の働きかけ S生徒の予想される反応	評価規準及び指導上の留意点 ★重点評価項目
導入	1. 既習事項の確認	Sプリントにて前時の復習をする。	

	2. 課題の提示	T 本時の課題を提示する。	
	課題：直列回路と並列回路に加わる電圧の規則性を見つけよう。		
	3. 予想	T 前時で予想したことをクラスで共有する。	T 直列回路と並列回路に流れる電流と関連付けて予想を立てさせる。
	4. 検証計画の見直し	S 班ごとに実験方法を見直し、実験の流れを確認する。	
展 開	5. 実験の実施	S 班ごとに実験を行う。	T 立案した実験手順、回路図通りに組み立てが行えるように机間指導を行い、各班の進捗を把握する。
	6. 結果の処理	S GIGA 端末を用いて結果をまとめる。	
	7. 考察	S 自班の結果から考察をまとめる。 1～2 班が結果・考察を発表する ・直列回路では、豆電球に加わる電圧の大きさの和が回路全体の電圧の大きさに等しい。 ・並列回路では、豆電球に加わる電圧の大きさ、回路全体の大きさは全て等しい	【思考・判断・表現】 ★直列回路と並列回路の各点を流れる電流を調べる実験の結果を分析して解釈し、回路の各点を流れる電流の規則性見いだして表現している。
ま と め	8. 授業のまとめ	S 直列回路と並列回路に加わる電圧の大きさの違いについてまとめる。 1～2 名が発表し、クラスで共有する。	

8 板書計画

課題	直列回路と並列回路に加わる電圧の規則性を見つけよう。		
復習	予想	まとめ	
・(電圧) →電流を流す働きの大ささ ・(電流) →電気の流れ	・直列回路は、電圧も各点によって異なる ・並列回路は、電圧はどの点も同じになる。など	・直列回路 電圧 $E = \text{電圧 } E1 + \text{電圧 } E2$ ・並列回路は 電圧 $E = \text{電圧 } E1 = \text{電圧 } E2$	

第3学年3組 国語科学習指導案

日時 令和5年10月16日(月) 第5校時
指導学級・人数・場所 第3学年3組 34人 教室
指導者 曾田 望

1 単元名・教材名

君待つと一万葉・古今・新古今

2 生徒の実態と本単元の意図

(1) 本単元に至るまでの指導の系統

育成すべき国語の能力 〔知識及び技能〕 (3) 我が国の言語文化に関する事項	学習内容	単元・教材名 (実施時期)	学習活動と関連する多領域の指導
- 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむこと。(2年ア) - 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ること。(2年イ)	- 作品の特徴を生かして朗読することなどを通して、生徒と古典の世界との距離を縮め、古典の世界に親しむこと。 - 関連する音声や映像メディアを活用したり、音読をしたりして、古典に表れたものの見方や考え方を知ること。	「平家物語」 「扇の的一『平家物語』から」 (2年11月)	文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)オ

(2) 生徒の実態と本単元の意図

本学年の生徒は、コロナ禍に小学校を卒業し、本校へ入学してきた。そのため、本来経験しているはずの経験ができず、人とのかかわりや大きな声を出すことなども極力避けるようにして生活してきた。また、それに付随して、静かに物事を進めること、出された指示を素直に聞くことは得意だが、自分たちから発信し、主体的に考え、行動する力は未熟であると感じる。

2年生の古典の単元では、「枕草子」、「平家物語」「扇の的一『平家物語』から」、「仁和寺にある法師—『徒然草』から」を学習してきた。それぞれの単元で、音読、単語の意味や読みの確認、文章の内容理解をしてきた。特に「扇の的一『平家物語』から」では、音読で平曲独特のリズムを感じ、関連する資料として講談を聞くという活動を取り入れてきた。

本単元は、「伝統的な言語文化」の「イ 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うこと。」に基づいて設定した。本教材の『万葉集』、『古今和歌集』、『新古今和歌集』は、我が国を代表する歌集である。それぞれの歌集の特徴や成立した時代背景を知識として知るだけでなく、個々の歌に着目させることで、その時代背景があるからこそ、という作者の思いを読み取らせたい。

また、現代の韻文作品を見せることが歌を鑑賞する際の手助けになると考える。生徒が、現代の韻文

作品を鑑賞することと同じように歌集の歌を鑑賞することで、当時の作者と生徒自身が共感し、歌の面白さ、作者の思いを捉える授業にしたい。

3 本校研究主題との関連について

○本校研究主題「確かな学力の育成と豊かな学びの実現を図る学習指導」

本校の国語科では、「手立ての充実による基礎学力の定着・向上」を念頭において、毎時の授業を行っている。本単元においては、①言語環境を整える雰囲気づくり、②生徒の興味を喚起させる課題の設定、③ねらいの提示、④ペアによる教え合いや話し合いの時間の確保などに留意し、学力を向上させる。

4 単元の目標

- (1) 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。
〈知識及び技能〉(3) ア
- (2) 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。
〈知識及び技能〉(3) イ
- (3) 和歌の表現の仕方について評価することができる。
〈思考力、判断力、表現力等〉C 読むこと (1) ウ
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。
〈学びに向かう力、人間性等〉

5 本単元における言語活動

歌集に収められている歌を読み、その表現について評価したり、考えたことなどを伝えあったりすることで歌の面白さを感じたり、作者の思いを想像したりする活動 言語活動例C (2) イ

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
①歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。 ②長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。	①「読むこと」において、和歌の表現の仕方について評価している。	①進んで和歌の表現の仕方について評価し、学習課題に沿って話し合おうとしている。

6 指導と評価の計画（全4時間扱い）

時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1 (本時)	○単元の流れを知り、学習の見通しをもつ ○成立年代や編者などを確認する ○範読を聞く ○和歌を音読する ○和歌の意味を確認する（古今和歌集まで）	○内容理解 ○新出漢字 ○和歌のリズム	○鑑賞文の例を確認し、作文活動への意欲を高める。 ○年表（ワークシート）で、歌が詠まれた時代背景なども大まかに確認する。 ○音読は、始めに一斉読みを行い、読めない字や、読む際の区切りなどに注意させる。 【知識及び技能①】 <u>音読する様子、説明を聞く様子の観察</u> ・和歌を読むことで歌の意味を捉え、親しもうとしているかを確認する。
2	○和歌を音読する ○和歌の意味を確認する（古今和歌集） ○鑑賞文を書く	○内容理解 ○鑑賞文 ○和歌について想像する	○鑑賞文の書き方や書く時の約束を確認することで、生徒が迷わずに進められるようにする。 ○和歌を現代詩に書き換えることで、当時の時代背景を踏まえつつ、和歌の表現から作者の思いを想像するように指導する。（TVに例を示す） 【知識及び技能②】、【思考力、判断力、表現力等①】 <u>鑑賞文の観察（ワークシート）</u> ・気に入った言葉や表現を使い、和歌の核心について自分の考えをもっているかを確認する。
3	○和歌を音読する ○鑑賞文を書く（仕上げる）	○鑑賞文 ○和歌について想像する	○和歌を現代詩に書き換えることで、当時の時代背景を踏まえつつ、和歌の表現から作者の思いを想像するように指導する。（TVに例を示す） 【知識及び技能②】、【思考力、判断力、表現力等①】 <u>鑑賞文の観察（ワークシート）</u> ・気に入った言葉や表現を使い、和歌の核心について自分の考えをもっているかを確認する。

4	○和歌を音読する ○鑑賞文について発表する	○和歌の表現について評価する ○和歌の解釈を広げる	○小グループで発表した後、全体に向けて発表者が発表することで、なるべく多くの他者の考えを知ることができるようにする。 ○取り上げた和歌が同じでも、他者との解釈や想像の相違点を知り、和歌の面白さを感じることができるように指導する。 【主体的に取り組む態度①】 <u>発表する様子の観察、ワークシート</u> ・自分が考えたことが伝わるように発表しているか、また、発表を聞いて、他者との相違点に気づき、和歌に親しんでいるかを確認する。
---	--------------------------	------------------------------	--

8 本時の学習活動（第 1 / 4 時の内容）

（1）本時の目標

歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。

〈知識及び技能〉（3）ア

（2）評価規準

歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。【知識及び技能】

（3）本時の展開

段階	学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
導入 10分	1 単元の学習の流れと本単元の目標を確認する。	○学習の流れと目標、活動の確認	○TVで鑑賞文を示す
	和歌の世界に触れ、和歌に親しもう		
	2 年表で作品の成立年代などを確認する。	○歌集の概要	

展開 35分	3 「和歌の世界」を確認し、「古今和歌集 仮名序」の範読を聞く。 4 「古今和歌集一仮名序」の説明を聞く。 5 「古今和歌集一仮名序」を音読する。 6 「君待つと一万葉・古今・新古今」の説明と範読を聞く。 7 「君待つと一万葉・古今・新古今」を音読する（一斉読み）。 8 それぞれの和歌の説明を聞く。	○3つの歌集について ○「古今和歌集一仮名序」の読みと内容 ○「君待つと一万葉・古今・新古今」の内容 ○それぞれの和歌の読みと意味 〈予想される生徒の反応〉 ・仮名序を読み、当時の人々の考えとして、和歌の力の影響力を知る。 ・万葉集には、為政者から無名の庶民までの幅広い層の和歌が収められていることがわかる。 ・それぞれの和歌の意味を知り、現代の私たちとの共通点を知る。	○全員が該当箇所を確認しているか確認する。 ○生徒の読む様子を確認し、読みが難しいところは繰り返す。 評価規準 【知識及び技能①】 音読する様子、説明を聞く様子の観察 ・和歌を読むことで歌の意味を捉え、親しもうとしているかを確認する。 〈「努力を要する」状況への手立て〉 ・どこかの和歌の説明をしているか、確認させる。 ・和歌の読みの区切れに／を入れるよう促す。
終末 5分	9 本時のまとめをおこなう。 それぞれの和歌を読むことで、当時の人々の思いがわかり、現代に生きる私たちと同じであると感じることができる。 9 振り返りを記入する。 〈期待される〉生徒の振り返り 和歌を読むことで、当時の人々の物事の感じ方がわかり、現代に生きる私たちと共通する部分があるとわかる。		

9 板書計画

	神無月 十六日 君待つと一万葉・古今・新古今 ◎和歌の世界に触れ、和歌に親しもう
--	---

○の所に当てはまる作品名と作者・編者を書こう。

三年 組 晩()

時代	西暦	作品(作者明・編者)	社会の動き
奈良	七五九以降	○	東大寺大仏殿開眼供養
平安	七九四		平安京遷都
	九〇〇頃	○ 竹取物語(作者不明)	菅原道真 筑紫に左遷
	九〇五	○	
	一〇〇一	○ 枕草子(清少納言)	藤原道長 摂政となる
二〇〇年 			
鎌倉	一一九二		源頼朝 鎌倉幕府を開く
	一二〇五	○	
	一二一九	○ 平家物語(信濃前司行長か)	
	一二三五	○ 小倉百人一首(藤原定家)	
	一三三一	○ 徒然草(兼好法師)	
室町	一三三八		足利尊氏 室町幕府を開く
三〇〇年 			
江戸	一六〇三		徳川家康 江戸幕府を開く
	一六九四	○ おくのほそ道(松尾芭蕉)	
	一八六七		大政奉還

第3学年4組 技術・家庭（家庭分野）学習指導案

令和5年10月16日(月) 第5校時

場 所 3年4組教室

生徒数 計 35名

授業者 豊川 夏乃

1. 題材名「乳幼児1日の生活とおやつの役割」

【「A 家族・家庭生活」(2)「幼児の生活と家族」ア及びイ】

2. 題材設定の理由について

(1) 生徒について

対象学級に乳幼児に関するアンケートを行った。その結果、家族の中に乳幼児がいると答えた生徒は6%と少なく、親戚や近所の子どもなど乳幼児と触れ合う機会があると答えた生徒は20%の割合だった。「乳幼児が好きですか」という問いに対しては、94%の生徒が「はい（どちらかといえばはい）」、6%の生徒が「いいえ（どちらかといえばいいえ）」と回答した。「はい」と答えた生徒の理由としては「かわいいから」「素直だから」という意見が多く、「いいえ」と答えた生徒の理由としては「関わり方が難しい」「うるさい」などの意見があった。

この結果から乳幼児は好きだが、日常生活で関わりがある生徒は少なく上手な関わり方が分からない生徒が多いのではないかと考えられる。乳幼児の発達や乳幼児との関わり方を学ぶことで将来自分も子どもを育てる環境の一人として、よりよい家庭生活の実現へ向け乳幼児に対して主体的に関わりを持ち課題解決に向かう生徒の育成を図りたい。

(2) 題材について

現在の日本社会は、少子高齢化やグローバル化などで、中学生の多くは、家庭内や近隣地域において幼児と触れ合う経験が得にくい状況にある。将来的に、乳幼児を取り巻く大人として乳幼児を見守りながら、適切にかかわることが求められる立場になっていくことを踏まえると、中学生は乳幼児や家族との関わりについての知識を深める必要がある。本単元では、実際に乳幼児と自分自身を比べ様々な相違点を見つけることや乳幼児のおやつを実際に考えることで乳幼児への関心を高め、自分自身に身近な課題として感じられるような学習を展開していく。乳幼児について意欲的に学ぼうとする姿勢や、乳幼児を取り巻く大人としての立場を実感しながら、乳幼児との関わり方を工夫し、積極的に実践していくことのできる能力と態度を育てることをねらいとしている。

(3) 指導について

前時まで、生徒は乳幼児の心身の発達について学んだ。本時では、乳幼児と中学生の1日の生活を比べてどのような点が異なるか自分で思考判断することや、乳幼児のおやつについて実際にグループ活動を通し深められる場面を作る。前時で学んだ心身の発達と結び付けながら乳幼児の1日の特徴やおやつの特徴を考えさせたい。おやつの計画を3学期の調理実習につなげ次の指導に結びつけていく。また、自分の幼い頃を振り返り、自分自身のこれまでの成長とかかわらせながら学ぶことで多くの人に支えられてきたことを実感し中学校卒業後の自分の生き方へ活かしていこうとする態度を育みたい。

3. 本校研究主題との関連について

本校研究主題「諸問題を自力で解決できる生徒の育成」

教科研究主題「手立ての充実による基礎学力の定着、向上」

本校では、グループ活動を通し主体的対話的な授業展開ができています。しかしながら、ICT を使用した授業では個人作業が多くグループ活動を取り入れた授業展開できていない現状が多くある。そのため、ICT を効果的に使用し自分で深めた知識を共有し深め合うグループ活動を通し課題解決を図り基礎学力の定着、向上させるよう努める。

4. 題材の目標

(1) 乳幼児の1日の生活と中学生の1日の生活を比べて乳幼児の1日生活の特徴と乳幼児のおやつ
の役割を知る。 (知識、技能)

(2) 乳幼児と中学生の生活がなぜ異なるのか、また乳幼児のおやつの意義とはなにか自分自身で思
考判断し表現する力を身に付ける。 (思考力、判断力、表現力)

(3) 乳幼児の生活に関心をもち、課題をもって乳幼児との関わり方を考え、その考えを評価・改
善し、生活を工夫し創造し、実践しようとする。 (学びに向かう力、人間性)

5. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・乳幼児と中学生の1日の生活の違いについて理解している。 ・乳幼児と中学生のおやつの違いについて理解している。	・乳幼児の生活とおやつについて自分自身で課題を見つけ解決に向け表現することができる。	乳幼児の生活に関心をもち、課題をもって乳幼児との関わり方を考え、その考えを評価・改善し、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

6. 題材の学習計画及び評価計画 (12. 5 時間扱い)

時間	○ねらい・学習活動	評 価		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(0. 5)	○幼い頃を振り返り、周囲の人との関わり大切さに気付くことができる。 ・幼い頃の振り返りをグループで共有し全体で発表する。	・幼児の発達と生活の特徴が分かり、子供が育つ環境としての家族と自分の役割について理解している。		
(1)	○幼児の体の発達の特徴について理解することができる。 ・幼児期の発達段階や発達の個人差や順序性を知る。			
(1)	○幼児の心の発達の特徴について理解することができる。 ・幼児期の心情を考えることや心身の発達の種類を知る。			

(1) 本時	○幼児の1日の生活の特徴について理解することができる。 ・幼児と中学生を比較し幼児の生活の特徴に気づかせる。	・幼児と中学生を比較することで、幼児の特徴を理解する。	・幼児と中学生の生活がなぜ異なるのか、思考判断し、表現する。	・幼児との関わり方について主体的に考え、振り返って、実践しようとしている。
(1)	○幼児の生活習慣と、その習慣を支える家族の役割について理解することができる。 ・社会的な生活習慣と基本的な生活習慣の特徴と生活習慣を育むため自分ができることを考える。			
(2)	○幼児にとっての遊びの意義について理解し、それを踏まえ、幼児との関わり方を工夫することができる。 ・幼児にとっての遊びにどのような役割があるかグループ活動を通して考える。	・幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解している。		
(4)	○幼児の発達や遊びなどを踏まえ、触れ合い体験の計画を立てることができる。 ・計画に基づいて触れ合い方を工夫し、幼児と関わる。		・幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて幼児の生活と家族について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
(1)	○幼児との関わり方についてまとめることができる。 ・計画通りにできたか評価・改善する。			
(1)	○子どもが育つ環境としての家族の役割について理解し、家族の立場から子どもとの関わり方を考え、工夫することができる。 ・よりよい生活の実現に向けて幼児の生活と家族について考えたことをグループでまとめ学級で発表し理解を深める。			

7. 本時の学習 (3. 5 / 12. 5 時間)

(1) 本時の目標

乳幼児と中学生の1日の違いと乳幼児のおやつの役割を学び乳幼児への関わり方を考える。

【思考、判断、表現】

(2) 本時の展開

時間 (分)	・学習活動	○指導上の留意点	◇評価場面（評価方法等） 【評価の観点】
導入 (5分)	・前時までの学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。	○前回までにどんなことを行ったか振り返らせる。	
	課題：乳幼児の1日の生活の特徴とおやつ役割について知ろう。		
展開 (40分)	・乳幼児と中学生の1日の生活の相違点を考える。 ①遊び時間：長い ②睡眠時間：長い ③おやつの回数：多い ・自分達のおやつと乳幼児のおやつの例を出す。 そこからなぜ違いがあるのか見出す。 ・乳幼児と大人の胃の違いを理解する。 ・乳幼児のおやつ選びのポイントを出し合う。 ・タブレット端末使用し班で乳幼児のおやつを考える。	○乳幼児と中学生の1日の生活時間を比べた時に「睡眠」「遊び」「おやつ」が多いことに気づかせる。 ○机間巡視し手の止まっている生徒に声掛けする。(補助質問) ○実際に子どもの時の記憶を思い出させる。 ○体の成長(歯や胃)が未発達なことに気付かせる。 ○乳幼児のおやつと中学生のおやつは異なることに気付かせる。 ○実際に色水の入ったペットボトルを使用し乳幼児と大人の胃の違いを理解させる。 ○前回の学習を思い出させる補助発問を行い幼児のおやつで考慮すべき点を考えさせる。 ○タブレット端末を使用させおやつを考えさせる(情報収集させまとめさせる)	◇乳幼児と中学生の1日の生活時間を比べ相違点を見つけまとめる。 (ワークシート、発言) 【知識技能】 ◇乳幼児のおやつと中学生のおやつがなぜ異なるか考え発表する。 (ワークシート、発言) 【思考、判断、表現】 ◇乳幼児のおやつを考える際に考慮すべきポイントを乳幼児の心身の発達(前回の学習を考慮し考える。) 【思考、判断、表現】 ◇タブレット端末を使用し班でおやつを考えまとめる。(タブレット端末：ワード)【思考、判断、表現】
まとめ (5分)	・本時の学習のまとめをする。	○次時への意欲につながるようにする。	◇今回の学習での重要な点を自分でまとめる。 (ワークシート、発言) 【思考、判断、表現】

8. 板書計画

課題 乳幼児の1日の生活の特徴とおやつ役割について知る	
本時の流れ 1. 乳幼児と私達の1日の生活の違いを考える。 2. 乳幼児にとってのおやつの役割を学ぶ 3. 班で乳幼児のおやつを考える。 4. まとめ(振り返り)	まとめ 乳幼児の睡眠時間や遊び時間は体の成長のため長く必要。 おやつは乳幼児にとって食事の1部であり重要なエネルギー源

第3学年5組 音楽科学習指導案

日 時 令和5年10月16日(月) 第5校時

場 所 第一音楽室

指導者 教諭 山田 凌

生 徒 男子17名 女子18名 計35名

1 題材名

「楽曲からのメッセージを受け取り、表現してみよう」

2 題材について

(1) 生徒の実態

12月7日に合唱コンクールを控え、クラス毎に合唱曲に取り組んでいる。これまで「相手に伝える」ことを大切にし、1年次より継続してクラス合唱、学年合唱などの合唱活動に取り組んできた。皆で協力しながら美しい表現に到達する喜びに触れながらも、集団活動として表現する難しさを感じ始めている。そして、最上級生となった今、協働的に学ぶ学習を通じて、学級や学年、学校全体の人間関係の構築や、集団での活動の中でも同じように楽しさや難しさを感じ始めている。これまでの中学校での授業の中から、さまざまな教材を通じて、楽曲には必ず「作者の意図が含まれていること」を知ることができた。また、それを楽譜から読み取り、想像し、より自分の気持ちをのせた表現を工夫することの大切さを学習してきた。少しずつではあるが、そのことのおもしろさを感じ始めている生徒も増えてきている。

(2) 題材について

本題材では、教材として EXILE「道」を取り上げる。本題材では合唱活動を通して子どもたちに感動を味わわせることを目指している。合唱曲は、「詩」と「音楽」があってできているという器楽にはない歌ならではの魅力がある。特に、合唱活動では曲を皆で作り上げるとき、音楽の旋律やハーモニー、強弱、速さなど音楽的なことの他に、詩を味わい自分の思いや感じたことを伝えながら表現に生かすという時間が大切だと考える。しかし、普段合唱教材に取り組む際には音取りに多くの時間を費やし、合唱表現の工夫をする時間を十分に確保できないことも多い。そこで、今回は詩と音楽から生まれる表現を追求する学習に重点を置き、表現することから生まれる感動を味わってほしいと願っている。演奏の巧拙だけにとらわれるのではなく、一人ひとりに詩のイメージや自分の思いを持たせ、思いが共有する中から生まれる表現活動に取り組ませたい。また、その思いを表現に生かそうと取り組む課程を大切にしたいと考えた。教材の「道」は、パフォーマンスグループ「EXILE」の楽曲である。詩と音楽の関わりを感じさせられる教材だと考える。この詩は、思春期の様々に揺れ動く感情の機微を巧みな文章構成で歌い上げる内容である。生徒自身の思いと重なる部分も多く、実感を持って表現する活動に適切な教材であると考えた。詩から受け取った思いを、強弱やアゴーギグなどの音楽表現の工夫へとつなげ、仲間とともに音楽をつくり上げる感動を味わわせたい。

(3) 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕との関連及び具体的な学習活動

指導事項	歌唱ア 歌唱表現に関わる知識や技能を生かしながら、「春に」にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。 歌唱イ 次の（ア）及び（イ）について理解できること。 （ア） 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解する。 （イ） 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりを理解する。 歌唱ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の（ア）及び（ウ）の技能を身に付けること。 （ア） 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につけること。 （イ） 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身につけて歌うこと。
共通項目ア	速度・旋律・テクスチャ・強弱
具体的な学習活動	・ 楽曲中の速度や強弱の変化、フレーズの流れの特徴を生かして歌う。 ・ 「道」の歌詞から受け取ったイメージを合唱として表現する。

3 本校研究主題との関連について

本校では、学力向上のための研究主題として「諸問題を自力解決できる生徒の育成」を掲げている。それを受け、音楽科では学力向上プランとして「基礎・基本の定着を図り、言語活動を充実させ音楽的感性を育てる」を主題に設定している。本校の生徒の現状として①「発声が弱い」②「表現活動に対して消極的な生徒が多い」という2点の問題を抱えている。これらの原因として考えられるのは表現活動に対しての羞恥心、他者からどのようにみられているかという恐怖感情があるのではないかと。また、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底したことで他者とのコミュニケーション活動不足からの弊害と考えている。そこで、教科と研究主題の関わりとして、「気づき、学び合い、教え合いの時間を通して、他者を理解する心を育てる」「音楽に対する美しさや感性は、美しいものや崇高なものを尊重していく心情を育てる」の二点を柱立てた。本題材においては、①「気づき、発見、学び合いができる授業の工夫」②「思いや願いが聴き手に伝わるような表現活動の工夫」の二点を重点目標とし、授業を展開してゆく。

3 題材の目標

- ・ 正しい音程、明確な発音で歌唱することができる。（知識及び技能）
- ・ どんな表現が楽曲に適切なのか考えて表現することができる。（思考力・判断力・表現力等）
- ・ 仲間と協力し合い、合唱の練習に取り組める。（学びに向かう力、人間性等）

4 観点別評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	【知】曲想と音楽の形式や歌詞の内容との関わりについて理解している。 【技】思いや意図を持った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて自然で無理のない音楽的発声を身に付けて歌唱表現をしている。	【思】歌詞の内容から受け取ったイメージを楽曲の諸要素と照らし合わせながら、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら表現を工夫し、思いや意図をもって歌唱している。	音色、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式の特徴に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画（8時間）

時	◆ねらい○学習内容・学習活動	○指導上の留意点	四・四	四	四
			() は評価方法		
	◆呼吸及び発音の仕方に気をつけて、効率的に音取りを進める		【技】		【態】
1 2	○「道」の模範演奏を聴き、全体の流れを捉える。 ・主旋律の流れを確認する。 ・主旋律以外の部分を知覚する。 ○パートに分かれ音取りをする。 ・パートリーダーを中心に、パート練習をする。 ○自分のパートの役割を踏まえて全体合唱をする。 ・自分の苦手な場所（音程がとりづらいところ、他パートと歌うとつられてしまうところ等）を把握する。	○楽曲の持つ雰囲気全体を全体的にとらえさせる。 ○主旋律以外の音を重点的に確認する。 ○パートリーダーを中心に練習に取り組めるよう支援する。 ○主旋律や副次的な旋律、強弱等を意識させ、正確な音程、リズムで歌えるようにする。 ○全体で合唱をし、本時までの到達度を振り返らせる。 その後パートリーダーが全体に発表。各パートの到達度を共有する。	〈観察・演奏〉 【知】 〈記述〉		〈記述・観察〉

◆声部の役割や旋律の重なりを理解し、表現に生かす。					
3 4 (本時)	○全体で楽譜に出てくる音楽記号や発音を注意すべき歌詞を確認する。 ・練習番号ごとに練習の進め方を確認する。発想記号やテクスチュアに留意させる。 ○各パートで音取りをする。 ・パートリーダーを中心に、前時に確認したことを踏まえてパート練習をする。 ○各パートの役割と全体の響きとのかかわりを理解して表現を工夫する。	○音楽用語を把握して、表現の工夫につながるようにする。 ○録音を活用した「聞き返し」を軸によりよい表現を模索する。 ○難しい場所を中心に取り出して練習するようにする。 ○録音やアカペラ唱を活用し、効率的に音取りを進める。 ○各パートで工夫した表現（強弱、声の音色、発音）を意識しながら歌えるようにする。 ○生徒から出た意見はすぐに音楽で確認し、表現の変容が実感できるよう配慮する。		思 〈観察〉	態 〈観察〉
◆表現豊かな混声合唱を創り上げる。					
5 6	○音楽を形作っている要素や歌詞の内容から構造を捉え、表現を工夫する。 ・合唱を録音し、視聴する。 ・パート毎に意見交換をし、それぞれ発表する。 ・発表された意見をもとに表現を工夫し、全体で合唱をする。	○どのような歌い方をすれば全体の響きがよりよくなるかを、生徒自身が主体的に考えることができるよう学習形態を工夫する。 ○生徒から出た意見は、すぐに音楽で確認し、表現の変容が実感できるように指導を徹底する。 ・主旋律と他声部の関係について ・強弱の扱いについて ・声の音色や歌詞の発声について		思 〈観察〉	態 〈観察〉
◆合唱コンクールリハーサル（体育館）					
7 8	○本番での流れを確認する。 ○学年内での発表をする。 ・自分たちのクラスの発表をふりかえりながら、他のクラスの発表と比較し、改善点を考え、よりよい合唱にしてゆく。	○本番に向けての心構えや、他のクラスの発表を鑑賞する際の望ましい態度を養えるよう、指導する。 ☆声部の役割と全体の響きとの関わりに関心を持ち、音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習活動に主体的に取り組んでいる。（主） ☆声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、どのように歌うかについて思いや意図を持っている。（思）	技 〈観察・演奏〉	思 〈観察・演奏〉	態 〈記述〉

6 本時の学習指導

(1) 本時の目標 「聞き返し」を活用して表現を工夫しよう

(2) 本時の展開

段階	○学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準
導入 10分	○発声練習 ・ロングトーン スタッカート シラブル ・校歌、市民歌 ○本時の課題を確認する。	○既習事項に寄り添った丁寧なウォーミングアップを心掛ける。 よい姿勢や開口、音楽的発声ができるよう留意する。 ○本時の目標を達成するための導入になるよう配慮する。そのために、発声練習や校歌・市民歌を通じて音色、強弱、発音等を指導していく。 ○目標を提示し、主体的に取り組むよう意識させる。 ○具体的な指示になるよう留意する。 「聞き返し」を活用して、音取りを進め、表現につなげよう
展開 30分	○パートリーダーを中心に、録音を活用しながら練習する ○全員でDから最後までめの合唱をする ・意見交換によって工夫された音楽表現で歌えるようにする。	○録音を聴く際に、どこに着目して聴くのかを焦点化しておく。 ・主旋律と他声部の関係について ・強弱の扱いについて ・声の音色や歌詞の発声について ○録音を聴く→振り返る→意見交換→表現の工夫の流れを作る。 生徒から出た意見は音楽で確認し、表現の変容が実感できるよう指導する。 ○教師による指揮や指示により、本時の目標にせまれるよう、指導する。 ○意見交換をしたことによる表現の変容を、生徒が実感できるよう努める。 予想される生徒の反応 Aと判断される生徒 自分の思いや意図を明確に持ち、積極的に意見交換をしている。 改善点を明確に理解し、パートの中心となって歌唱に参加している。 Cと判断される生徒 自分の思いや意図があいまいである。意見交換に参加していない。歌唱でも積極的な活動が見られない。 →Cと判断される生徒への手立て ひとつでも改善点を見つけ、意見交換に参加できるよう支援していく。また、教師の思いを伝え、支援する。

まとめ 10分	○本時の学習を振り返る。 ・パートリーダーを中心に振り返りを行う ○次時の予告 ・次時の学習内容を知る。	○パート毎に「本時の目標」に即した振り返りをするよう指示する。 ○次時は全体でより合唱表現を高める授業を展開する。 次時までのクラス練習での取り組みを指示する。
------------	--	---

7 板書計画

本日の目標 「聞き返し」を活用して表現を工夫しよう ポイント 旋律 フレーズ 強弱 ハーモニー 持ち物 楽譜 筆記用具	タブレット PC の録音機能を活用して聞き返しトレーニングをしよう ○フレーズごと ○揃えることの大切さ
---	---

第3学年6組 英語科学習指導案

令和5年10月16日(月) 第5校時

人数・場所 35人・3年6組教室

授業者 芝田 すみれ

- 1 単元名 Unit6 「The Chorus Contest」(Here We Go! ENGLISH COURSE③)
Round3 【本文の穴あき音読シートによる「文の構造を意識した音読」と
穴埋め転写をする。】

2 単元設定の理由について

(1) 生徒の実態

本学級の生徒は、明るく積極的に授業に取り組む姿が見られる。英語に対する興味関心が高く、対話活動や音読活動等に積極的に取り組んでいる。挙手や発言も進んで行っている。中には英語への苦手意識を持つ生徒もいるが、一生懸命に取り組み、理解しようと努力している。学力差がある学級で「集団で学ぶ」をポイントに、授業で生徒が互いに教え合い、学び合うことができる場面を設ける。このようにして、上位層の生徒の知的好奇心を引きつつ、下位層の生徒に学ぶ喜びを与えることができる授業を実践していきたい。

(2) 単元について

Round3 (※) では、今までの学習を通して親しんできた教科書本文のストーリーと英語表現をもとに、穴あき音読シートを見ながら音読する。穴あき音読シートを活用することにより、文の構造を意識させる。最後には、音読した本文をノートに転写する。徐々に本文を見る回数を減らしながら多くの単語、文を書けるようになることを目的とする。

また、Unit6 では「絵の説明から、場面や状況を聞き取ることができる。」「絵にふさわしいせりふを考えて発表することができる。」を目標に学習する。これらの目標は次のRound4に続く活動となる。円滑にリテリング活動が進むように、十分な技能を定着させたい。本文は3年生の合唱コンクールをテーマとしており、問題が起きながらも練習に励む生徒の姿がある。本文の内容と関連付けて、自分たちのこれまでの経験の振り返りや今年の合唱コンクールの目標についてなどの対話活動を行いたい。

(※本校3学年の年間指導計画では、1・2学年で行ったRound2「文の並び替え」をRound1「絵の並び替え」と同時に行ったため、全4Roundで指導している。)

(3) 指導観

本単元では、文の構造を意識した穴あき音読を行う。音読活動の際には、ストーリーの場面を考え、登場人物の経験やせりふについて思考を巡らせながら読むことを目的としている。正しい音声を確認しながら音読を繰り返すことにより、聞く力と読む力をより身に付けさせたい。また、ラウンド2で後置修飾(動詞のing形・過去分詞形)と間接疑問文の2つの文法を扱った。帯活動の時間を利用して復習し、これらの文法事項の定着度を高めたい。次のラウンド4でのリテリング活動に向けて、語彙や表現、文法の知識を自らの力で表現していく活動を行っていく。

3 本校研究主題との関連について

○本校研究主題「諸問題を自力解決できる生徒の育成」

教科研究主題「基礎的・基本的な内容の定着を図り、表現力を高める指導の工夫」

<課題>

「話す」活動では意欲的に取り組んでいる様子が見られるが、正確性が不十分である。授業では基礎基本を身に付けるための手立てとして、新出単語や文法を活用した Small Talk、確認テストを繰り返し行う。また、本校には「書く」ことに苦手意識を持っている生徒が多い。教科書本文の転写や会話の内容を rewrite する活動を通して、書く力を高められるようにしていく。

4 単元の目標

- (1) 絵の説明から、場面や状況を聞き取ることができる。【知識・技能】
- (2) 絵にふさわしいせりふを考えて、発表することができる。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 後置修飾を含む文や間接疑問文の構造を意識した穴あき音読ができる。【知識・技能】
- (4) 映像に合わせて、場面を意識した音読をしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

5 単元の評価規準

(本単元における「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」については、目標に向けて指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。)

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	【知識】 後置修飾（動詞の ing 形、過去分詞形）や間接疑問文の特徴やきまりに関する事項を理解している。 【技能】 絵の説明から、場面や状況を聞き取る技能を身に付けている。	教科書の登場人物の対話から、経験した事柄や人物のせりふについて、必要な情報を捉え、理解している。	教科書の登場人物の対話から、経験した事柄や人物のせりふについて、必要な情報を捉え、理解しようとしている。
読むこと	ストーリーの内容や場面を理解した上で、文の構造を意識した穴あき音読ができる。	教科書の登場人物の対話から、経験した事柄や人物のせりふについて理解した上で、音読することができる。	教科書の登場人物の対話から、経験した事柄や人物のせりふについて理解した上で、音読しようとしている。

話すこと	[知識] 後置修飾（動詞の ing 形、過去分詞形）や間接疑問文の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 絵の説明から、場面や状況についてやり取りすることができる。	絵にふさわしいせりふを考えて、後置修飾（動詞の ing 形、過去分詞形）や間接疑問文の特徴やきまりに関する事項の知識を活用して発表することができる。	絵にふさわしいせりふを考えて、話すことができる。
書くこと	ストーリーの内容や場面を理解した上で、文の構造を意識した転写ができる。	絵にふさわしいせりふを考えて、後置修飾（動詞の ing 形、過去分詞形）や間接疑問文の特徴やきまりに関する事項の知識を活用して正しく書くことができる。	絵にふさわしいせりふを考えて、正しく書こうとしている。

6 学習計画及び評価計画（24時間扱い）

授業時数 時期	Round	主な学習活動・内容	評価の観点・方法		
			知・技	思・判・表	態
1 4～5月	1	1 帯活動 Small Talk Reading 教材	L		SI
		2 Oral Interaction 3 Listening (ピクチャーカードの並び替え)			
4 5～7月	2	1 帯活動 Small Talk 3min-Writing Reading 教材	R	R	SI W
		2 Oral Interaction 3 新出単語(発音・意味の確認) 4 Reading 5 文法(意味・使用場面の確認) 6 Daily Life 等の活動			
3 本時 7～10月	3	1 帯活動 Small Talk Reading 教材 Listening 教材 文法復習	R	SI	
		2 Oral Interaction 3 Reading (穴あき・並び替え) 4 Writing 5 Goal の活動			

4 11～12月	4	1 帯活動 Small Talk Reading 教材 Listening 教材		SI	
		2 Oral Interaction 3 Reading 4 Pre-Retelling 5 Pair Retelling 6 Writing (本文写し)	活動の記録 パフォーマンステスト		

7 本時の学習 (16 / 24時間)

(1) 本時の目標

- ・絵の説明から、場面や状況を聞き取ることができる。
- ・穴あき音読シートを使って、文の構造を意識した音読ができる。

(2) 本時の展開

過程 (時間)	学習活動	学習内容	・指導上の留意点 ◎評価
導入 (15分)	Greeting	Good afternoon. How are you today?	・笑顔で挨拶し、英語を話すこと に対する意欲を高める。
	文法復習① Listening Activity	教科書77ページのListening音 声を聞いて、イラストの内容を確 認する。	・復習として、後置修飾(動詞の ing形)の使用場面、意味、文の形 を理解する。
	文法復習② Speaking Activity	ペアで交互にイラストの人物につ いて尋ね合う。(横のパートナー) Who is the woman holding a book? She is Ms. Green. Who is the man eating a piece of cake? He is Mr. Chiba.	・生徒同士で活動させるために、 全体での練習を繰り返してからペ アワークに移る。
	文法復習③ Writing Activity	ワークシートにイラストの人物に ついての文を3文以上書く。 The man talking with two women is Mr. Rios Who is the man ○○? He is ○○.	・わからない表現等はまわりの生 徒と教え合ったり、教科書やタブ レットを使って調べたりする。 書き終えたら、ペアで確認し合う。 (縦のパートナー)

展開 (25分)	本時の目標を確認する。		
	どんな場面か考えながら、穴あき音読をしよう。		
	教科書内容に関する Oral Interaction	教科書75ページのイラストを見ながら、内容を確認する。 What are they doing? They are practicing singing. What is a big problem? Eri twisted her wrist.	・必要に応じて、本文の音声を聞く。 ・内容確認とともに重要である単語や表現の意味を復習する。
	音読練習① オーバーラッピング 音読練習② 穴あき音読 音読練習③ 穴あき音読	デジタル教科書の音声に重ねて一斉に音読する。 (ワークブック37ページ) ペアになり、Partごと交互に音読する。side A (ワークシート) からFまで間違えずに音読できたらレベルを上げていく。組み合わせを変えて、1回3分で行う。 (穴あき音読シート side A~F) side A~Fの中から1つ選び、一斉に音読する。 (穴あき音読シート side A~F)	・正しい発音、アクセントを確認する。 ・ペアで発音について学び合うように指示をする。 ・教室を6つ(A~F)に分けて、sideごとに活動場所を決める。 ・必要に応じて中間指導をする。 ◎ [知識・技能] ストーリーの内容や場面を理解した上で、文の構造を意識した穴あき音読ができる。＜観察＞
まとめ (10分)	Writing Activity	穴あき音読シートを見ながら、本文をノートに転写する。 (穴あき音読シート side A~F)	・徐々に本文を見る回数を減らしながら多くの単語、文を書けるようにする。 ・わからない表現等は教科書、ワークブックを使って確認する。
	本時の活動の振り返り	Self-Evaluation Sheet に何を学んだか、何ができるようになったのかを具体的に書く。	・家庭学習内容や次回授業の連絡をして、予習・復習しやすい環境を作る。

(3) 板書計画

October, 16th Monday

Today's Lesson Unit6

Today's Goal どんな場面か考えながら、穴あき音読をしよう。

名札マグネットを
張っていく

Today's Menu

Review

Reading

穴あき音読

Writing

side F	
side E	
side D	
side C	
side B	
side A	

(テレビ画面)

The man talking with two women is Mr. Rios.

Who is the man talking with two women?

He is Mr. Rios.

1 単元名「友達との上手な関わり方」

2 単元設定の理由

(1) 生徒観

本学級は、知的障害 2 名と自閉・情緒障害 4 名の計 6 名が在籍している。6 名の特性や課題は多様であり、精神発達や運動能力、発育、コミュニケーション能力等の差が見られる。本学級の生徒は、落ち着いて学習に取り組むことができる生徒が多い。コミュニケーション能力については、日常的に関わっている友達や大人とは良好な関係を築き、人と関わろうとする意識が高い生徒もいる。しかし、自分が伝えたい内容だけを話す、相手の気持ちを考えず発言し、人間関係のトラブルに発展するなどの対人関係の課題が見られる。適切な言動の表現方法を習得するとともに、自分と他者との良さや違いを認め合い、適切な人間関係を築く経験を重ねていく必要がある。

(2) 単元観

本単元は、生徒の実態や抱える課題から、特別支援学校学習指導要領 第 7 章「自立活動」を受けて設定した。

目標	個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。
内容	3 人間関係の形成 (1)他者とのかかわりの基礎に関すること。 (2)他者の意図や感情の理解に関すること。 4 コミュニケーション (1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること。 (2)言語の受容と表出に関すること。 (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること。

特別支援学校学習指導要領に示された自立活動の 6 つの区分のうち、「3 人間関係の形成」や「4 コミュニケーション」の内容を関連付けて指導内容を構成している。本学級は、人と関わろうとする意識が高いが、相手の気持ちを考えず、思ったままに言葉を伝えてしまう生徒が多い。このことから本単元では、体験的にコミュニケーション方法を学ぶことで、相手の気持ちや立場を尊重しトラブルを回避しながら、より円滑な人間関係づくりを図ること、自身の行動を振り返り、他者のアドバイスを基にさらに良くなる改善策を考え、実践できることをねらいとする。

本単元では、学校生活において、よく見られる場面を取り上げ、各場面で何をどのように伝えればよいか、どのような表情で伝えればよりよく解決できるかを考える活動を行う。多くの生徒

が経験したり、目にしたりする身近な事例を挙げることで、その時の状況や気持ちを振り返り、自分たちの生活に起こりうる問題と捉えることができる。さらに、各場面の人物の気持ちの伝え方について話し合うことで、相手の気持ちを考えずに強い口調で話したり、気持ちのこもっていない返答をしたりすることにより、気持ちがすれ違い、トラブルになりやすいことをつかませることができ、生徒が問題解決への意欲を持つことができるようになると思う。

(3) 指導観

生徒の実態から、普段から学習や様々な活動の場で、学習面だけでなく、人と関わる能力を育てることも心がけている。そこで、ソーシャルスキルの獲得が大きな課題と考え、定期的に取り組むことにした。自立活動では、生徒の実態や個々の特性を踏まえ、楽しく活動できる課題をいくつか組み込み、意欲的に活動し、充実感を味わえるようにしている。

本単元では、生徒が最も苦手としている「相手の様子を見て対応すること」と「相手にわかるように話を伝えること」を重点に行うことで、相手の立場になって考える経験を積んだり、言葉でわかりやすく説明したりすることを目指す。また、友達に対して強い言葉や否定的な言葉が多い傾向もあるので、言われた人がうれしく感じる「あったか言葉」を確認しておく。さらに、活動中に良かった言動をその都度称賛することで、自己肯定感を育み、生徒自らが相手の立場を考えた言葉を発言できるようにしていく。

3 本校の研修テーマとのかかわり

○ 本校研究主題「諸問題を自力解決できる生徒の育成」

～話し合い活動を通じた人間関係づくり・教育相談の充実～

このテーマを踏まえて、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、以下の実践を行う。

① 本時のねらいの明確化による学習の見通しを持たせる。

② 言語活動、表現活動の充実による人間関係の構築。

本学級生徒の課題は、学習課題を十分に理解し、自己決定し行動する力の弱さと自己肯定感の不足である。本時のねらいの明確化により、学習の見通しを持たすことで課題を理解させるとともに、自己決定を行う場面を設定し、課題解決を図る。生徒の実態を把握し、それに応じて段階的に学習が定着できるように繰り返し学習を重ねていく。できたことに対して積極的に褒め、成功体験を多く経験させ、自己肯定感を高める場面をつくる。

4 単元の目標

(1) 共通目標

- ① 人とうまくかかわる方法がわかる。〔知識及び技能〕
- ② 友達に適切な表現で思いや考えを伝えることができる。〔思考力、判断力、表現力〕
- ③ より良い人間関係を築こうと友達と助け合い・支え合いながら、活動しようとしている。
〔学びに向かう力、人間性等〕

5 学習計画及び評価計画（12時間扱い 本時5／12）

	活動内容	授業時数
1	うれしい言葉・悲しい言葉	1時間
2	友達のよいところを見つけよう	1時間
3	上手に話を聞こう	2時間
5	上手な頼もう	2時間
6	上手に断ろう	2時間(本時2/2)
7	小集団ゲームをしよう 【いろいろビンゴ・リモコンロボット・陣地とりゲーム・もの運びゲーム】	4時間

6 本時の構成

(1) 共通目標

- ① 相手を嫌な気持ちにさせない適切な断り方がわかる。
- ② 自身の行動を振り返り、他者のアドバイスを基にさらに良くなる改善策を考え、実践することができる。

(2) 生徒の実態及び個人目標

氏名	生徒の実態	個人目標
1年男子 S	日頃から関わる仲間や大人とはやりとりを楽しめる。好ましく思わない人や自分を否定されていると感じる発言に対しては、衝動的に攻撃的または否定的な言葉を発することがある。	「断り方のポイント」を意識し、丁寧に断ることができる。
1年女子 T	語彙力が低く、コミュニケーション能力が低い。一度思い込むと考えを変えることが難しい。	仲間と一緒に断る練習に取り組むことができる。
2年女子 S	フリースクールに通学しており、今年度は本校に登校できていない。	仲間と一緒に断る練習に取り組むことができる。
2年男子 T	興味関心がある話題について、楽しんで会話することができる。言動を指摘すると人を傷つける言葉を発することが多い。	「断り方のポイント」を意識し、丁寧に断ることができる。
2年女子 T	関係性が築けている人とはやりとりを楽しめるが、初対面の人には極度に緊張し、やりとりが難しい。同年代の友達に間違っていることを伝える時に強い発言をすることが多い。	「断り方のポイント」を意識し、優しい言葉遣いで断ることができる。
3年男子 M	特定の人に対しては自分から関わろうとする。ただ、自分の興味関心があることにに対して一方的に話すことがある。	「断り方のポイント」を意識し、理由を述べて断ることができる。
3年女子 M	日頃から関わる生徒や大人とはやりとりを楽しめる。不安や緊張からのストレスがかかると学校を休みがちになる。自分のことを言葉で表すことが苦手である。	「断り方のポイント」を意識し、聞こえる声で理由を述べて断ることができる。

(3) 展開

時間	学習活動	○生徒の活動 ◎予想される生徒の反応 □指導者の多な指示・発言等 ※支援の手当 ◇評価の視点	備考
		座席表	
1 あいさつをする		○係の生徒の号令で授業を始める。	
2 前時の復習		○「断り方のポイント」を復習する ・あやまる 「ごめん」 ・ことわる理由をはっきり伝える 「～だから…できない」 ・代わりにできることを伝える 「～ならできるよ」 ・相手の顔を見て、やさしく伝える □「断り方のポイント」を意識して断った時、断られた人の気持ちはどうだった？ ◎嫌だった、嫌じゃなかった、理由を言ってくれたから納得した、など □前回、学習した「断り方のポイント」を意識して、相手をいやな気持ちにさせないように断りましょう。	・「断り方のポイント」を意識することとで相手を嫌な気持ちにさせないことを思い出させる。
3 本時のねらい・流れを知る		□本時のねらい・流れを伝える。 相手を嫌な気持ちにさせない断り方を考えよう	

導入 (10分)

展開 (35分)	4 例題で断り方の練習をする	○授業を進める上での約束を確認する 恥ずかしがらない 冷やかさない 良いところ見つける □上手な断り方の台本読み、練習をしましょう。 ○ペアになって、「断り方のポイント」に基づいた台本で練習する。 ※恥ずかしがって声が出ていない生徒や取り組めていない生徒には、出来ている所を褒め、前向きに参加できるように声掛けを行う。 ◇「断り方のポイント」を意識して、気持ちをこめて、練習できているか。 □「断り方のポイント」を意識してオリジナルの台本を作りましょう。 ○「断り方のポイント」を意識して、断り方カードを作成する。 ※理由や代替案が書けていない生徒には、質問をしながらシチュエーションを想像させながら書けるように声掛けを行う。 ◇よりよい断り方を考えて、セリフを書いているか。 □作った台本でロールプレイングしましょう。 ○グループになり、「頼む人」、「断る人」、「観察する人」をローテーションしながら練習する。 「観察する人」は、タブレットのカメラ機能で「断る人」の様子を撮影する。ロールプレイング後、動画を見ながら、良かったところをそれぞれフィードバックする。 ◇今までの学習で、学んだことを生かしてロールプレイングできているか	・約束が必要な理由を添えて説明する 台本 ・生徒の理解度や習熟度に応じてワークシートを用意する。 ・練習で上手に断ることができている生徒はその都度褒める。
終末 (5分)	7 ふり返しシートを記入する 8 あいさつをする	○学習を振り返る。 ◇学習したことをこれからの生活に生かそうとしている。 ○係の生徒の号令で授業を始める。	

7 本時の評価

(1) 共通評価

- ① 友達にわかりやすく伝えたり、相手の指示を聞いて行動できたりすることができたか。
- ② 友達に丁寧な言葉遣いで声を掛け、協力して取り組むことができたか。

(2) 個人評価

- ・個人目標が達成できたか。

8 備考

(1) 板書計画

上手に断ろう めあて 上手な断り方を身につけよう 流れ ・練習 ・台本作り ・ロールプレイング ・まとめ	断り方のポイント ・あやまる「ごめん」 ・ことわる理由をはっきりつたえる「～から～できない」 ・代わりにできることを伝える「いつならできるよ」 ・相手の顔を見て、やさしく伝える
--	---

(2) 準備物

タブレット

じょうず ことわ かた
『上手な断り方』

かえ
ふり返りカード

じょうず ことわ かた
上手な断り方 は、できましたか？◎○△を書き入れましょう。

じょうず ことわ かた 上手な断り方 のポイント	◎	○	△
1 あやまる			
2 りゆう 理由をはっきり伝え、断る			
3 か 代わりにできることを伝える			
4 あいて め み 相手の目を見て、やさしく伝える			

◎=よくできた ○=だいたいできた △=もう少し

じょうず ことわ かた
上手な断り方 はどうすればよいかわかりました？^あ当てはまるものに○をつけましょう。

よくわかった	
だいたいわかった	
あまりわからなかった	
わからなかった	

きょう じゅぎょう かんそう こんご せいかつ がんば
今日の授業の感想・今後の生活で頑張りたいこと

日本語学習指導案

令和5年10月16日(月) 5校時

場所 日本語室(2F)

1 学年生徒 3 名

指導者 教諭 古山三保

1. 題材名 まるごと 入門 A1 りかい pp.76-82 だい8か 「いいへやですね」

2. 生徒の実態

出身国・人数：中国出身 3 名

滞在歴：中学入学時が 1 名、小学校 3 年からが 2 名

家庭での言語：中国語

日本語指導の形態・時間：集団指導、週 2 時間

日本語能力：滞在歴に関わらず、4 技能によって、若干の差があるが、全員に共通しているのは語彙力の不足である。理解できない時は互いに母語で補い合い、良い雰囲気の中で学習ができています。

3. 目標

- 1) 部屋の中にある物の名称が言える。
- 2) 部屋の、どこに何があるか、質問のしかたと答え方を理解し、運用できる。
- 3) あいさつの表現を理解し、運用できる。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
応答文「()はどこですか。」 「()は()の上・下・横・中です。」の形・意味・用法を身に付けている。	どこに何があるか、聞いたり、答えたりすることができる。 物の名称と場所を正確に聞き取ることができる。	ペアやグループでの活動において、習った語や表現を使って伝えようとしている。

5. 指導と評価の計画 ○数字はテキストの問題番号

時間	主な学習活動	日本語の表現・表記	指導上の留意点・評価
1	① 物の名称を聞き取る・発音する	物・場所の名称	拗音・濁音の表記に留意する。
2	② 場所についての応答文を口頭練習する	どこに何があるかについての応答文	ペア練習がスムーズにできるように促す。
	④ 読解文を読んで質問に答える	物・場所の名称、国名	国名とその場所を確認する。
3	③ 会話文を聞き取り、ペアで練習する	あいさつの表現	ペア練習がスムーズにできるように促す。

6. 本時の学習指導（2/3時間）

1) 目標

- ・部屋の、どこに何があるか、質問のしかたと答え方を理解し、運用できる。

2) 評価規準

- ・どこに何があるか、聞いたり、答えたりすることができる。
- ・物の名称と場所を正確に聞き取ることができる。

3) 展開

主な学習活動	日本語の表現・表記	指導上の留意点	時間
1. ウォームアップ 朝自習チェック 前時の復習	あいさつ、日付等確認 前週の朝自習チェック 物の名称、形容詞の活用等	正しく発音できているか。 い/な形容詞の活用の確認をする。	10 分
2. 場所についての応答を含む会話文の理解	「()はどこですか。」 「()は()の (上・中・横・下)です。」	ペア練習につながるように、 口頭練習を行う。	10 分
3. ペア活動		ペア活動がスムーズにできるように促す。	10 分
4. 読解文の理解 まとめ	物・場所の名称、 国名(フランス・マレーシア・ ロシア・中国)	国名とその場所を確認する。	10 分

教室配置図

B棟 4階

デザイン室	準備室	絵画室 5校時 1-3	造形室
女 W	女 W	女 W	女 W
男 C	男 C	男 C	男 C

A棟 4階

1年5組 4校時 国語	1年4組 2校時 英語	1年3組 3校時 国語	1年2組 4校時 社会	1年1組 2校時 数学
女 W	女 W	女 W	女 W	女 W
男 C	男 C	男 C	男 C	男 C

B棟 3階

3年7組 4校時 英語	3年6組 5校時 英語	3年5組 3校時 理科	第2音楽室
女 W	女 W	女 W	女 W
男 C	男 C	男 C	男 C

A棟 3階

1年7組	1年6組 3校時 社会 5校時 数学	2年6組 2校時 国語 4校時 技術	2年5組 2校時 国語	2年4組 3校時 数学
女 W	女 W	女 W	女 W	女 W
男 C	男 C	男 C	男 C	男 C

B棟 2階

PTA室	3年1組 2校時 理科	3年2組 3校時 理科	3年3組 5校時 国語	3年4組 2校時 社会 4校時 数学 5校時 家庭
女 W	女 W	女 W	女 W	女 W
男 C	男 C	男 C	男 C	男 C

A棟 2階

学習室	図書館	2年3組 3校時 英語	2年2組 3校時 数学 5校時 社会	2年1組 3校時 英語
女 W	女 W	女 W	女 W	女 W
男 C	男 C	男 C	男 C	男 C

B棟 1階

給食室	8組A 3校時 自立活動	8組B 3校時 自立活動	8組C 5校時 自立活動	3年昇降口
女 W	女 W	女 W	女 W	女 W
男 C	男 C	男 C	男 C	男 C

A棟 1階

1・2年 昇降口	相談室	ステップ ルーム	8組D 4校時 職業	8組E 2校時 作業学習
女 W	女 W	女 W	女 W	女 W
男 C	男 C	男 C	男 C	男 C

管理棟 1階

準備室	調理室	保健室	事務室	校長室
女 W	女 W	女 W	女 W	女 W
男 C	男 C	男 C	男 C	男 C

管理棟 3階

第1音楽室 5校時 3-5	準備室	体育館 2校時 2年1・2組
女 W	女 W	女 W
男 C	男 C	男 C

管理棟 2階

準備室	第2理科室 4校時 1-7	第1理科室 5校時 2-3	職員室
女 W	女 W	女 W	女 W
男 C	男 C	男 C	男 C

木工室	倉庫	電気実習室	会議室	職員室
女 W	女 W	女 W	女 W	女 W
男 C	男 C	男 C	男 C	男 C

3年7組 3年6組 3年5組 3年4組 3年3組 3年2組 3年1組	8組 3年5組 3年4組 3年3組 3年2組 3年1組
女 W	女 W
男 C	男 C

2年1組 2年2組 1年1組 1年2組 1年5組 1年6組 1年7組	2年3組 2年4組 1年3組 1年4組 1年7組 1年8組 1年9組
女 W	女 W
男 C	男 C